

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【平成30事業年度報告書】

令和2年3月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成 17 年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のＱＯＬの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成 18 年 4 月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るＱＯＬ向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るＱＯＬ向上等のための調査研究班〕

小 澤 温	筑波大学大学院・人間総合科学研究科 教授（生涯発達専攻）
金 子 美 子	京都府立医科大学大学院医学研究科 助教（呼吸器内科学）
高 橋 孝 雄	慶應義塾大学医学部教授（小児科学）
坪 田 一 男	慶應義塾大学医学部教授（眼科学）
松 永 千恵子	国際医療福祉大学医療福祉学部教授

目 次

I	医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査 研究事業の実施概要	1
II	生活状況調査結果のとりまとめについて	
1.	回答状況	3
2.	基本情報	3
3.	調査結果の概要	
(1)	A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要	
○	使用している点眼液について	4
○	福祉サービスの利用状況について	6
○	障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について	8
○	介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況	9
(2)	B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要	
①	外出の頻度	15
②	外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	19
③	社会参加・社会活動等の状況	30
④	屋内での生活における工夫の有無	37
⑤	日常生活について	49
⑥	主たる介護者の状況について	71
	主たる介護者の健康状態	72
⑦	介護をしていく中で困ったことの有無	76
⑧	主たる介護者を支えるものの有無	88
⑨	介護者の社会参加・社会活動等の状況	91
⑩	新しい発見や気分転換などの有無	98
(3)	C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要	
○	治療状況	102
○	過去1年間の日常生活について	108
○	福祉サービスについて	124
○	必要な情報について	125
III	む す び	127

IV	参考資料	128
V	用語の解説	163
VI	保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)	167
VII	健康状態報告書(診断書様式)	212

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業の実施概要

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る
ＱＯＬ向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目 的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のＱＯＬの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

平成30年4月1日から平成31年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

ア. 生活状況調査票(本人記入用)

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)

イ. 健康状態報告書(医師記入用)

D票(調査研究事業用診断書)

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本

調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記 入 時 期	提 出 時 期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の (6月、9月、12月、3月) 末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の 各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末 日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医 師が記入する。	1月10日までに本人が提出

Ⅱ 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、

第1・四半期：65名中54名（回収率83.1%）うちライ症候群：6名、SJS：48名

第2・四半期：65名中57名（回収率87.7%）うちライ症候群：7名、SJS：50名

第3・四半期：65名中54名（回収率83.1%）うちライ症候群：7名、SJS：47名

第4・四半期：65名中55名（回収率84.6%）うちライ症候群：6名、SJS：49名

である。以下、特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおり。

また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表－1 男女・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	0	1	2	1	9	5	5	3	1	27
女	0	1	1	3	8	4	8	5	0	30
合計	0	2	3	4	17	9	13	8	1	57

表－2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	3	24	27
女	4	26	30
合計	7	50	57

表－3 疾病・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
ライ症候群	0	2	2	2	1	0	0	0	0	7
SJS	0	0	1	2	16	9	13	8	1	50
合計	0	2	3	4	17	9	13	8	1	57

3. 調査結果の概要

(1) A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○SJS の健康被害者が現在使用している点眼液は、表 1-1 のとおり。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表 1-1 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	17	18	18	20	20	20	19	18	18	21	21	21	19.3
	右眼	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0.6
	左眼	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1.8
	合計	19	20	20	22	23	23	21	21	21	23	23	23	21.6
② クラビット	両眼	7	7	7	8	8	8	5	5	6	5	5	6	6.4
	右眼	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.3
	左眼	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.3
	合計	7	7	7	10	10	10	6	5	6	5	5	6	7.0
③ ヒアレイン	両眼	5	5	5	7	6	6	3	2	2	2	2	2	3.9
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	5	5	5	7	6	6	3	2	2	2	2	2	3.9
④ フルメトロン	両眼	23	22	22	22	23	21	23	23	23	23	23	22	22.5
	右眼	2	1	3	2	2	2	3	2	1	1	1	1	1.8
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	合計	26	24	26	25	26	24	27	26	25	25	25	24	25.3
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	19	19	20	19	19	18	19	20	20	20	20	19	19.3
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
	合計	21	21	22	21	21	20	21	22	22	22	22	21	21.3
⑥ リンデロン	両眼	4	4	4	5	5	5	2	2	2	2	2	2	3.3
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0.3
	合計	4	4	5	5	5	5	3	3	3	2	2	2	3.6
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	8	7	8	9	9	10	8	8	8	9	9	10	8.6
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	8	7	8	9	9	10	8	8	8	9	9	10	8.6
⑧ 血清点眼	両眼	6	6	5	7	6	7	5	5	6	8	8	8	6.4
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.8
	合計	7	7	6	8	7	8	6	6	7	8	8	8	7.2
⑨ その他眼科処方薬	両眼	56	57	56	55	53	52	58	58	55	64	60	59	56.9
	右眼	5	5	5	4	4	5	5	4	4	3	3	5	4.3
	左眼	9	8	8	10	10	10	10	8	8	8	10	8	8.9
	合計	70	70	69	69	67	67	73	70	67	75	73	72	70.2
⑩ 涙点プラグ	両眼	4	4	4	5	5	5	4	4	4	5	6	5	4.6
	右眼	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0.8
	合計	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5	6	14	5.6
SJS回答者数		54	54	54	57	57	57	54	54	54	55	55	55	—
点眼液投与患者数		48	48	48	50	50	50	47	47	47	49	49	48	—

□点眼液を使用している平均延べ人数では、フルメトロンが 25.3 人、ソフトサンティアが 21.6 人、0.1%ヒアレインミニが 21.3 人、クラビットが 7.0 人となっている

■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

表 1-2 福祉サービスの月別の利用状況

利 用 状 況 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
①障害者総合支援法に基づく福祉サービス	20	20	20	20	21	21	21	22	21	21	21	19	20.6
②介護保険制度に基づく福祉サービス	5	5	4	6	6	6	7	7	7	6	6	5	5.8
③上記①②以外の福祉サービス	4	4	5	4	4	4	5	5	4	5	4	4	4.3

□ 利用者数は「①障害者総合支援法に基づく福祉サービス」は延べ 247 人で、平均では毎月 20.6 人が、「②介護保険制度に基づく福祉サービス」は延べ 70 人で、平均では毎月 5.8 人が、「③上記①②以外の福祉サービス」は延べ 52 人で、平均では毎月 4.3 人が利用している

○ 「③上記①②以外の福祉サービス」の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇交通、宿泊

- ・ 眼科通院の時ガイドヘルパーとして同行してもらう。
- ・ 一部個人負担での地方公共団体の福祉特別乗車券の支給
- ・ 遠距離の眼科に通院の時の同行ガイド（民泊）

◇点字、読み上げ

- ・ 地方公共団体の障害者福祉会館文字サービス（代行、代筆）
- ・ 点字図書館での対面朗読

◇その他

- ・ 居宅支援
- ・ 在宅訪問によるパソコンサポート

■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○ なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の 4 段階で評価しており、

- ・ 満足： 4 点
- ・ やや満足： 3 点
- ・ やや不満： 2 点
- ・ 不満： 1 点

の点数となっている。

① 同行援護

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、同行援護の利用状況は、表 1-3 のとおり。

表 1-3 同行援護の月別の利用状況

同行援護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	11	13	12	10	11	11	13	12	11	13	13	13	11.9
平均利用日数（日）	7.6	6.8	7.2	7.8	8.3	7.8	6.9	7.8	7.6	6.6	6.8	7.2	7.4
満足度平均（4点満点）	3.4	3.4	3.3	3.5	3.6	3.7	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5

□ 利用者数は延べ 143 人で、平均では毎月 11.9 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 7.4 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると 3.5 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「行動範囲が広がった」などをあげている

② 就労移行支援

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労移行支援の利用状況は、表 1-4 のとおり。

表 1-4 就労移行支援の月別利用状況

就労移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	2	2	2	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1.3
平均利用日数（日）	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	4.0	4.0	-	4.0	4.0	4.0	4.0	3.4
満足度平均（4点満点）	2.0	2.5	2.5	1.0	4.0	4.0	4.0	-	4.0	4.0	4.0	4.0	3.3

□ 利用者数は延べ 15 人で、平均では毎月 1.3 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 3.4 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均 3.3 点となっている

③ 就労継続支援 A 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 A 型の利用状況は、表 1-5 のとおり。

表 1-5 就労継続支援 A 型の月別の利用状況

就労継続支援A型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

☐ 本年度の利用者はなかった

④ 就労継続支援 B 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 B 型の利用状況は、表 1-6 のとおり。

表 1-6 就労継続支援 B 型の月別の利用状況

就労継続支援B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

☐ 本年度の利用者はなかった

⑤ 上記以外のサービス

○ 上記①～④以外の障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-7 のとおり。

表 1-7 上記以外のサービスの月別の利用状況

上記以外のサービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	8	9	7	9	9	7	9	8	8	9	10	10	8.6
平均利用回数（回）	4.1	4.4	5.6	4.2	4.4	4.6	4.7	4.5	4.6	4.8	4.4	3.9	4.5
満足度平均（4点満点）	3.5	3.7	3.6	3.6	3.4	3.7	3.6	3.8	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6

☐ 利用者数は延べ 103 人で、平均では毎月 8.6 人が利用している

☐ 平均利用日数は月に 4.5 日となっている

☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている

☐ 満足度が高い理由としては「生活環境が改善している。」などをあげている。

○具体的な「⑤上記以外のサービス」の内容は、以下のとおりとなっている
(自由記載、順不同、複数記載)。

◇読み上げ、代筆

- ・ 代読、代筆生活援助

◇生活面サポート

- ・ 買物 (スーパー)
- ・ 家事援助
- ・ 居宅支援
- ・ 生活援助

◇趣味

- ・ 創作的活動
- ・ 料理教室
- ・ デイジー図書

◇その他

- ・ 言語練習

■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について

○介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。

○なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価しており、

- ・満足：4点
- ・やや満足：3点
- ・やや不満：2点
- ・不満：1点

の点数となっている。

○併せて、平成25年度～平成29年度の平均値も示してある。

① 訪問介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況および介護内容は、表1-8、表1-9のとおり。（介護内容の平成27年度平均についてはSJSの健康被害者の方のみに選択質問）

表1-8 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	4	4	3	3	3	3	3	5	4	2	2	2	3.2	3.3	2.6	4.2	8.7	9.0
平均利用日数（日）	18.0	18.3	21.3	23.3	19.0	22.7	22.0	13.8	17.5	31.0	28.0	31.0	22.2	22.4	24.9	17.1	12.6	14.1
満足度平均（4点満点）	3.8	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.7	3.8	3.5	3.5	3.5

表1-9 介護内容の月別の状況

介護内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均
身体介護中心型	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2.1	2.3	2.4	2.0
生活援助中心型	2	2	2	2	2	2	2	5	3	2	2	2	2.3	1.7	1.8	2.1
通院等乗降介助	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0.2	0.8	0.1	0.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0.1	0.0	0.0

□利用者数は延べ38人で、平均では毎月3.2人が利用している

□平均利用日数は月に22.2日となっている

□サービスに対する満足度は平均すると3.9点となっている

□満足度が高い理由としては「安心してまかせられるので」などをあげている

② 訪問入浴介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表 1-10 のとおり。

表 1-10 訪問入浴介護の月別利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.8	2.8	3.0	2.6	3.1	3.5
平均利用日数（日）	17.5	18.0	18.0	18.7	18.3	19.0	19.3	18.3	18.7	19.3	18.0	20.0	18.6	18.3	17.3	20.0	16.5	14.8
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.7	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.5

- 利用者数は延べ 33 人で、平均では毎月 2.8 人が利用している
- 平均利用日数は月に 18.6 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている」などをあげている

③ 訪問看護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-11 のとおり。

表 1-11 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2.7	2.9	1.8	2.1	3.5	2.7
平均利用日数（日）	5.5	6.5	5.5	5.0	3.0	3.3	4.7	5.0	4.7	4.0	4.0	4.3	4.6	5.7	5.8	4.2	3.8	4.9
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	3.7	4.0	3.7	3.7	3.7	3.3	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.8	3.4	3.1	3.2

- 利用者数は延べ 32 人で、平均では毎月 2.7 人が利用している
- 平均利用日数は月に 4.6 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている
- 満足度が高い理由としては「きっちりしてもらい満足」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-12 のとおり。

表 1-12 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	4	4	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	4.7	4.8	4.4	3.0	3.5	5.4
平均利用日数（日）	8.5	7.3	8.0	6.8	6.5	6.8	7.2	7.8	7.2	7.2	7.4	7.4	7.3	6.7	7.4	7.4	4.7	4.2
満足度平均（4点満点）	3.0	3.5	3.0	3.2	3.0	3.4	3.0	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.1	3.2	3.3

- 利用者数は延べ 56 人で、平均では毎月 4.7 人が利用している
- 平均利用日数は月に 7.3 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.2 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体が少し楽になる」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-13 のとおり。

表 1-13 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	6	6	6	5	5	5	4.8	3.0	2.4	1.7	3.2	3.4
平均利用回数（回）	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9	1.3	1.4	1.6	1.3	1.3
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	4.3	4.3	4.3	4.2	4.0	4.2	3.9	3.7	3.7	3.7	3.5	3.4

- 利用者数は延べ 57 人で、平均では毎月 4.8 人が利用している
- 平均利用回数は月に 0.9 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.9 点となっている
- 満足度が高い理由としては「本人の話をよく聞いてくれる」などをあげている

⑥ 通所介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-14 のとおり。

表 1-14 通所介護の月別の利用状況

通所介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	3	3	3	4	3	4	3	3	3	2	2	2	2.9	2.0	1.5	1.0	2.4	4.6
平均利用回数（回）	16.7	17.0	17.0	13.5	15.7	13.5	15.3	15.3	15.3	15.5	13.5	14.0	15.2	12.8	10.1	8.6	12.4	14.6
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.5	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.9	4.0	3.8	3.8

- 利用者数は延べ 35 人で、平均では毎月 2.9 人が利用している
- 平均利用回数は月に 15.2 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている
- 満足度が高い理由としては「お風呂が大好きなので、気持ちよく入っていて満足している」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-15 のとおり。

表 1-15 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	4.0	3.3	3.8	5.1	5.5
平均利用回数（回）	7.5	5.8	6.5	4.5	5.0	5.8	6.5	6.5	6.3	5.8	6.8	6.5	6.1	5.8	6.3	6.7	6.4	6.6
満足度平均（4点満点）	3.8	3.7	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.8	3.3	3.8	3.8	3.8	3.6	3.4	3.6	3.2	3.2	3.3

- 利用者数は延べ 48 人で、平均では毎月 4.0 人が利用している
- 平均利用回数は 6.1 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体のことをよくわかってくれている」などをあげている

⑧ 短期入所

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、短期入所の利用状況および入所内容は、表 1-16、表 1-17 のとおり。（入所内容の平成 27 年度平均については SJS の健康被害者の方のみに選択質問）

表 1-16 短期入所の月別の利用状況

短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	1	1	1	2	1	3	2	2	2	1	0	1	1.4	1.1	1.5	0.8	1.4	1.3
平均利用回数（回）	1.0	5.0	4.0	3.0	5.0	3.7	3.5	3.0	3.0	1.0	-	1.0	3.0	1.0	1.1	1.3	2.8	2.9
満足度平均（4点満点）	2.0	4.0	4.0	3.5	4.0	3.3	3.5	3.0	4.0	3.0	-	2.0	3.3	2.7	2.5	2.1	3.3	3.6

表 1-17 入所内容の月別の利用状況

入所内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0.2	0.0	0.0	0.0
短期入所生活介護 （ショートステイ）	1	0	1	2	1	2	2	1	2	1	0	0	1.1	1.1	0.0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0

- ☐ 利用者数は延べ 17 人で、平均では毎月 1.4 人が利用している
- ☐ 平均利用回数は 3.0 回となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.3 点となっている
- ☐ SJS の健康被害者の入所はなかった

⑨ 送迎サービス

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-18 のとおり。

表 1-18 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	4	5	6	8	7	7	7	7	7	6	6	6	6.3	5.6	5.0	5.2	7.2	7.8
平均利用回数（回）	2.4	4.1	4.1	6.6	6.6	4.3	5.2	4.8	4.6	6.3	6.5	6.5	5.2	6.0	8.3	7.5	7.8	8.1
満足度平均（4点満点）	2.8	3.0	3.6	3.1	3.1	3.7	3.7	3.8	3.7	3.5	3.6	3.6	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4

- ☐ 利用者数は延べ 76 人で、平均では毎月 6.3 人が利用している
- ☐ 平均利用回数は月に 5.2 回となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「天候を気にしなくてよい」などをあげている

⑩ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑨以外の介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1－19 のとおり。

表 1－19 その他の福祉サービスの月別の利用状況

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	29 平均	28 平均	27 平均	26 平均	25 平均
利用者数（人）	2	2	1	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2.3	4.0	4.7	5.8	11.3	9.0
平均利用回数（回）	3.0	3.5	4.0	6.5	6.3	6.5	5.7	5.3	5.0	7.0	6.0	7.0	5.5	9.0	8.8	6.0	5.3	4.5
満足度平均（4点満点）	2.5	2.5	3.0	3.5	3.3	3.0	3.0	2.7	3.0	3.5	3.5	4.0	3.1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3

- 利用者数は延べ 27 人で、平均では毎月 2.3 人が利用している
- 平均利用回数は月に 5.5 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.1 点となっている
- 具体的なサービス内容としては「デイサービス」や「居宅移動支援」などをあげている
- 満足度が高い理由としては「スタッフさんが良くなれているから」などをあげている

⑫ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑪に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図 1-1 のとおり。

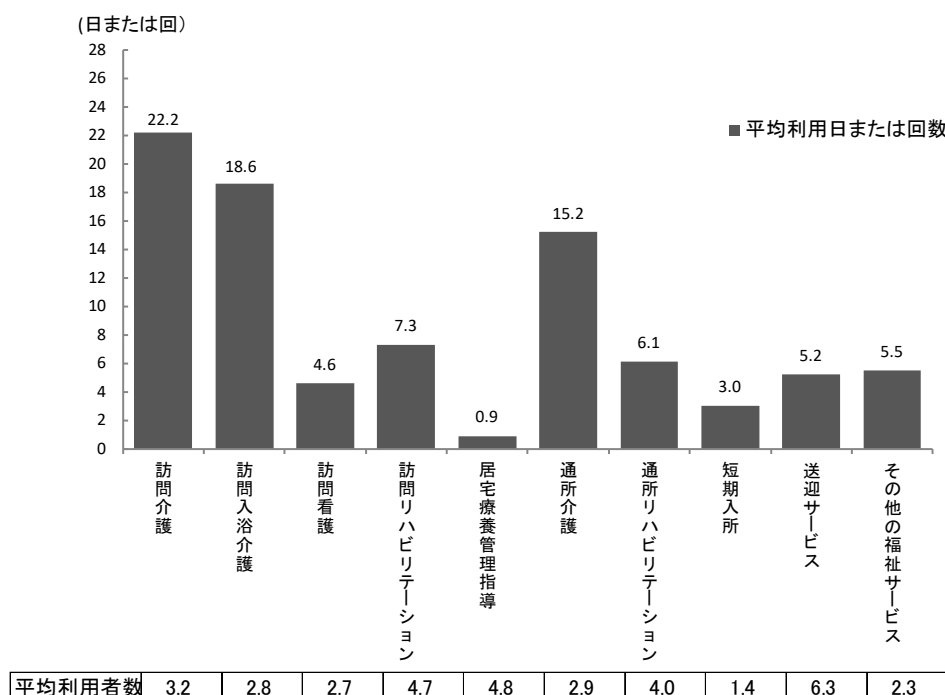


図 1-1 福祉サービスの年間利用状況

□ 1 年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、「訪問介護」と「居宅療養管理指導」の 3.9 点、つづいて「訪問看護」と「通所看護」と「通所リハビリテーション」が 3.6 点となっている

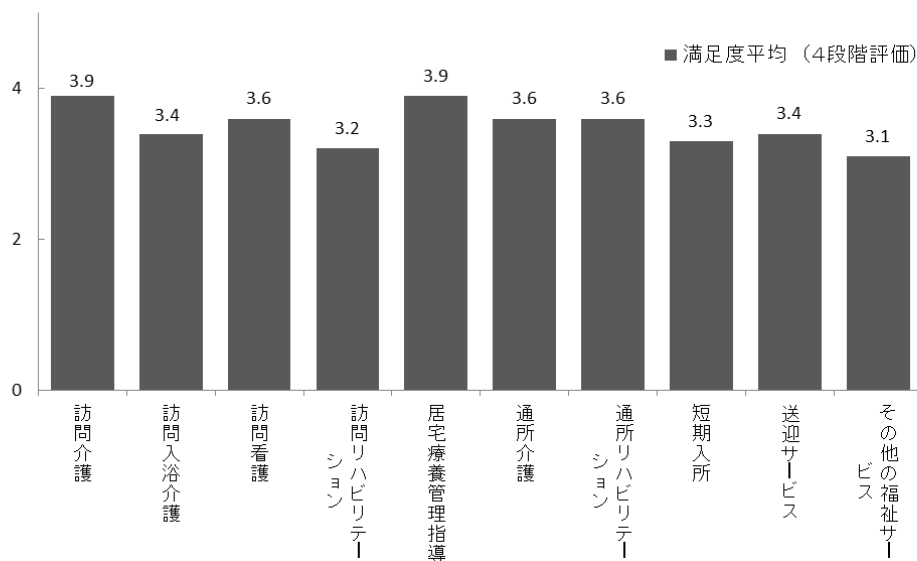


図 1-2 福祉サービスの満足度平均

(2) B 票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

■ 健康被害者の外出について

① 外出の頻度

ア 第 1・四半期（回答者 54 人）

○ 第 1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおり。

□ ほぼ毎日が 25.9%、週に 4～5 回が 25.9%、週に 2～3 回が 25.9%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 16.7%、まったく外出していないが 5.6%となっている

イ 第 2・四半期（回答者 57 人）

○ 第 2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおり。

□ ほぼ毎日が 24.6%、週に 4～5 回が 17.5%、週に 2～3 回が 29.8%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 24.6%、まったく外出していないが 3.5%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 54 人）

○ 第 3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおり。

□ ほぼ毎日が 25.9%、週に 4～5 回が 24.1%、週に 2～3 回が 25.9%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 16.7%、まったく外出していないが 7.4%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 55 人）

○ 第 4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおり。

□ ほぼ毎日が 27.3%、週に 4～5 回が 21.8%、週に 2～3 回が 27.3%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 16.4%、まったく外出していないが 7.3%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-1 及び図 2-1 のとおり。

□ 年間の平均では、ほぼ毎日外出している人が 25.9%、週に 4～5 回外出している人が 22.3%、週に 2～3 回外出している人が 27.3%、月に 2～3 回外出している人が 18.6%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

	ほぼ毎日	週に4から 5回	週に2から 3回	月に2から 3回	まったく外出 していない	回答なし	合 計
第1・四半期	14 25.9%	14 25.9%	14 25.9%	9 16.7%	3 5.6%	0 —	54 100.0%
第2・四半期	14 24.6%	10 17.5%	17 29.8%	14 24.6%	2 3.5%	0 —	57 100.0%
第3・四半期	14 25.9%	13 24.1%	14 25.9%	9 16.7%	4 7.4%	0 —	54 100.0%
第4・四半期	15 27.3%	12 21.8%	15 27.3%	9 16.4%	4 7.3%	0 —	55 100.0%
年間単純平均	14.3 25.9%	12.3 22.3%	15.0 27.3%	10.3 18.6%	3.3 5.9%	0.0 —	55.0 100.0%
29年度平均	13.0 24.8%	11.8 22.4%	13.0 24.8%	12.8 24.3%	2.0 3.8%	1.0 —	52.5 100.0%
28年度平均	13.8 24.9%	12.0 21.7%	12.8 23.1%	14.0 25.3%	2.8 5.0%	0.8 —	55.3 100.0%
27年度平均	13.3 23.7%	12.0 21.4%	13.5 24.1%	15.0 26.8%	2.3 4.0%	0.5 —	56.0 100.0%
26年度平均	16.3 25.9%	13.8 21.9%	15.3 24.3%	14.8 23.5%	2.8 4.4%	2.3 —	62.8 100.0%
25年度平均	15.8 23.6%	13.5 20.2%	18.5 27.7%	17.0 25.5%	2.0 3.0%	1.8 —	66.8 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

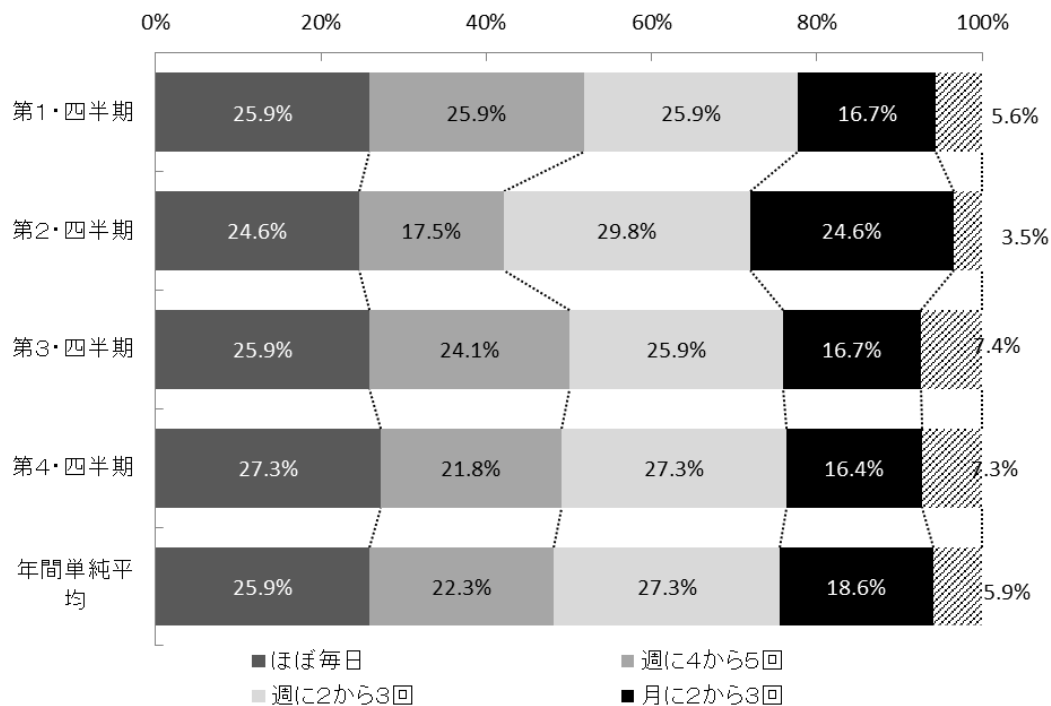


図 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

①-1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 48 人）

- 外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が47.9%、「親」が35.4%、「子供」が31.3%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が20.8%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は58.3%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「ガイドヘルパー」「病棟職員」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 53 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が49.1%、「親」が26.4%、「子供」が28.3%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が24.5%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は50.9%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「盲導犬」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 47 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が44.7%、「子供」が34.0%、「親」が29.8%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が34.0%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は48.9%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「ガイドヘルパー」「友人」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が51.1%、「子供」が29.8%、「親」が27.7%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が25.5%、となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は53.2%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」「盲導犬」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-2及び図2-2のとおり（複数回答）。

□外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が48.2%、「親」が29.7%、「子供」が30.8%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が26.2%となっている

□一方、「介助なし」で外出している人は52.8%となっている

表2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム(ガイド)ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	28	23	17	15	6	3	10	8	0	3	10	3	48
	58.3%	47.9%	35.4%	31.3%	12.5%	6.3%	20.8%	16.7%	0.0%	6.3%	20.8%	—	—
第2・四半期	27	26	14	15	5	5	13	7	0	4	7	2	53
	50.9%	49.1%	26.4%	28.3%	9.4%	9.4%	24.5%	13.2%	0.0%	7.5%	13.2%	—	—
第3・四半期	23	21	14	16	5	2	16	7	1	2	5	3	47
	48.9%	44.7%	29.8%	34.0%	10.6%	4.3%	34.0%	14.9%	2.1%	4.3%	10.6%	—	—
第4・四半期	25	24	13	14	6	3	12	7	0	3	6	4	47
	53.2%	51.1%	27.7%	29.8%	12.8%	6.4%	25.5%	14.9%	0.0%	6.4%	12.8%	—	—
年間単純平均	25.8	23.5	14.5	15.0	5.5	3.3	12.8	7.3	0.3	3.0	7.0	3.0	48.8
	52.8%	48.2%	29.7%	30.8%	11.3%	6.7%	26.2%	14.9%	0.5%	6.2%	14.4%	—	—
29年度平均	19.3	22.8	13.8	13.5	4.5	3.3	11.5	7.5	0.8	3.0	7.5	0.3	50.3
	38.3%	45.3%	27.4%	26.9%	9.0%	6.5%	22.9%	14.9%	1.5%	6.0%	14.9%	—	—
28年度平均	17.8	24.5	13.5	15.0	5.5	3.8	11.8	7.8	1.5	1.5	6.5	0.3	52.3
	34.0%	46.9%	25.8%	28.7%	10.5%	7.2%	22.5%	14.8%	2.9%	2.9%	12.4%	—	—
27年度平均	19.5	25.5	14.0	13.8	4.8	3.8	13.5	9.3	3.0	2.8	3.8	0.0	53.8
	36.3%	47.4%	26.0%	25.6%	8.8%	7.0%	25.1%	17.2%	5.6%	5.1%	7.0%	—	—
26年度平均	21.8	26.5	17.0	13.0	5.5	3.5	15.5	9.3	1.3	2.8	5.3	0.0	53.0
	41.0%	50.0%	32.1%	24.5%	10.4%	6.6%	29.2%	17.5%	2.4%	5.2%	9.9%	—	—
25年度平均	20.8	27.0	19.8	12.8	3.3	4.3	16.5	10.0	1.5	3.3	6.5	0.0	64.5
	32.2%	41.9%	30.6%	19.8%	5.0%	6.6%	25.6%	15.5%	2.3%	5.0%	10.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

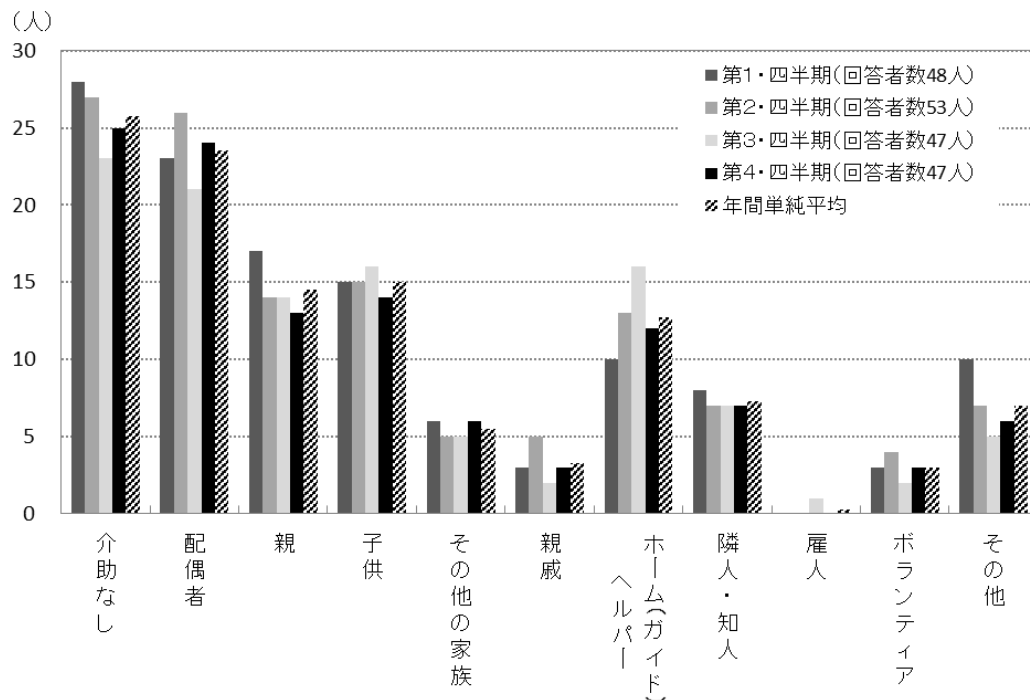


図2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 50 人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 92.0%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

イ 第2・四半期（回答者 53 人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 90.6%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 48 人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 87.5%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 54 人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 88.9%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-3 及び図 2-3 のとおり。

□ 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、89.8%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

	困ることや 不満に思う ことがある	困ることや 不満に思う ことがない	回答なし	合 計
第1・四半期	46	4	4	50
	92.0%	8.0%	—	100.0%
第2・四半期	48	5	4	53
	90.6%	9.4%	—	100.0%
第3・四半期	42	6	6	48
	87.5%	12.5%	—	100.0%
第4・四半期	48	6	1	54
	88.9%	11.1%	—	100.0%
年間単純平均	46.0	5.3	3.8	51.3
	89.8%	10.2%	—	100.0%
29年度平均	47.5	5.0	1.0	52.5
	90.5%	9.5%	—	100.0%
28年度平均	47.8	6.3	2.0	54.0
	88.4%	11.6%	—	100.0%
27年度平均	47.5	6.5	2.5	54.0
	88.0%	12.0%	—	100.0%
26年度平均	51.8	9.5	3.8	61.3
	84.5%	15.5%	—	100.0%
25年度平均	61.0	5.8	1.8	66.8
	91.4%	8.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

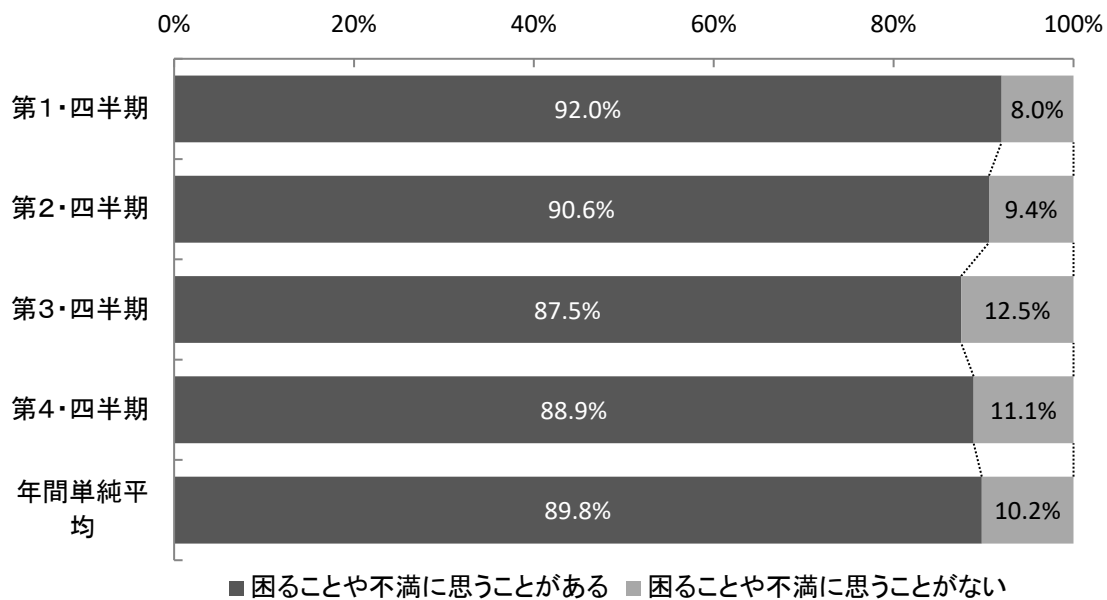


図 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者 46 人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 65.2%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 50.0%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 54.3%ととなっている
- その他としては、「車イスマークの駐車場に健常者が止めている」「点字ブロックの上に物・人がいる」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 48 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 64.6%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 64.6%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 52.1%ととなっている
- その他としては、「悪天候の時の外出が困る」「スマホ歩きしながらカートに引っかかる人」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 73.8%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 59.5%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 66.7%ととなっている
- その他としては、「階段が見辛く不安」「対人恐怖症」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 48 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 66.7%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 56.3%「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 47.9%ととなっている
- その他としては、「光がまぶしい」「段差に危険を感じる」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-4及び図2-4のとおり（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が67.4%、「利用する建物の設備の利用が不便」が57.6%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が54.9%となっている

表2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気にかかる	人と話をすることが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	22	14	8	8	9	25	24	23	30	7	12	46
	47.8%	30.4%	17.4%	17.4%	19.6%	54.3%	52.2%	50.0%	65.2%	15.2%	26.1%	—
第2・四半期	16	16	8	10	9	25	25	31	31	4	7	48
	33.3%	33.3%	16.7%	20.8%	18.8%	52.1%	52.1%	64.6%	64.6%	8.3%	14.6%	—
第3・四半期	24	17	6	9	8	28	21	25	31	7	9	42
	57.1%	40.5%	14.3%	21.4%	19.0%	66.7%	50.0%	59.5%	73.8%	16.7%	21.4%	—
第4・四半期	23	16	8	7	11	23	19	27	32	4	13	48
	47.9%	33.3%	16.7%	14.6%	22.9%	47.9%	39.6%	56.3%	66.7%	8.3%	27.1%	—
年間単純平均	21.3	15.8	7.5	8.5	9.3	25.3	22.3	26.5	31.0	5.5	10.3	46.0
	46.2%	34.2%	16.3%	18.5%	20.1%	54.9%	48.4%	57.6%	67.4%	12.0%	22.3%	—
29年度平均	6.8	14.5	10.3	8.0	10.3	25.0	21.8	29.0	33.5	2.3	9.0	47.5
	14.2%	30.5%	21.6%	16.8%	21.6%	52.6%	45.8%	61.1%	70.5%	4.7%	18.9%	—
28年度平均	4.8	12.8	9.8	8.8	10.0	25.0	25.0	28.3	32.8	3.8	15.0	47.5
	9.9%	26.7%	20.4%	18.3%	20.9%	52.4%	52.4%	59.2%	68.6%	7.9%	31.4%	—
27年度平均	7.5	13.8	9.8	8.0	9.5	25.5	24.0	30.5	33.3	3.3	10.0	47.5
	15.8%	28.9%	20.5%	16.8%	20.0%	53.7%	50.5%	64.2%	70.0%	6.8%	21.1%	—
26年度平均	5.8	16.5	11.3	9.3	11.3	30.0	26.5	31.5	34.0	5.0	7.5	47.5
	12.1%	34.7%	23.7%	19.5%	23.7%	63.2%	55.8%	66.3%	71.6%	10.5%	15.8%	—
25年度平均	8.0	17.3	12.0	10.3	12.5	35.5	28.5	33.5	37.0	4.3	12.3	61.0
	13.1%	28.3%	19.7%	16.8%	20.5%	58.2%	46.7%	54.9%	60.7%	7.0%	20.1%	—

注：上段は人数、下段は割合

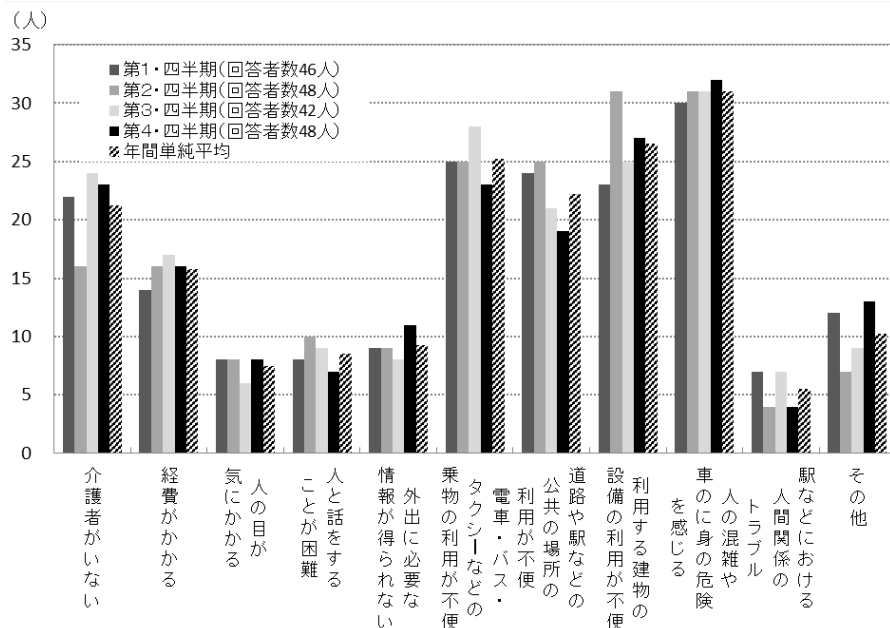


図2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 44 人）

○ 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。

□ 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 75.0%、「コースを事前に決めておく」が 43.2%、「介助者を依頼する」が 45.5%となっている

□ その他としては、「子供や家族の行動に合わせる」「おし車を使う」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 46 人）

○ 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。

□ 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 73.9%、「コースを事前に決めておく」が 60.9%、「介助者を依頼する」が 52.2%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 42 人）

○ 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。

□ 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 76.2%、「コースを事前に決めておく」が 59.5%、「介助者を依頼する」が 54.8%となっている

□ その他としては、「早めに家族にたのむ」「前日から二度三度リュックに準備する」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 44 人）

○ 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり（複数回答）。

□ 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 70.5%、「コースを事前に決めておく」が 59.1%、「介助者を依頼する」が 52.3%となっている

□ その他としては、「あらかじめ子供にたのんでおく」「時間に余裕をもつ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-5及び図2-5のとおり（複数回答）。

□ 外出する上で工夫した「外出前の準備」の年間の平均では「予め、交通機関や経路について調べておく」が73.9%、「コースを事前に決めておく」が55.7%、「介助者を依頼する」が51.1%となっている

表2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

	予め、 交通機関や 経路について 調べておく	介助者を 依頼する	コースを 事前に 決めておく	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	33 75.0%	20 45.5%	19 43.2%	4 9.1%	4 —	44 —
第2・四半期	34 73.9%	24 52.2%	28 60.9%	0 0.0%	4 —	46 —
第3・四半期	32 76.2%	23 54.8%	25 59.5%	3 7.1%	5 —	42 —
第4・四半期	31 70.5%	23 52.3%	26 59.1%	5 11.4%	5 —	44 —
年間単純平均	32.5 73.9%	22.5 51.1%	24.5 55.7%	3.0 6.8%	4.5 —	44.0 —
29年度平均	31.8 77.9%	15.8 38.7%	23.0 56.4%	3.5 8.6%	7.0 —	40.8 —
28年度平均	31.8 80.9%	17.3 43.9%	21.0 53.5%	2.8 7.0%	8.5 —	39.3 —
27年度平均	29.3 71.3%	17.8 43.3%	22.8 55.5%	3.3 7.9%	9.3 —	41.0 —

注：上段は人数、下段は割合

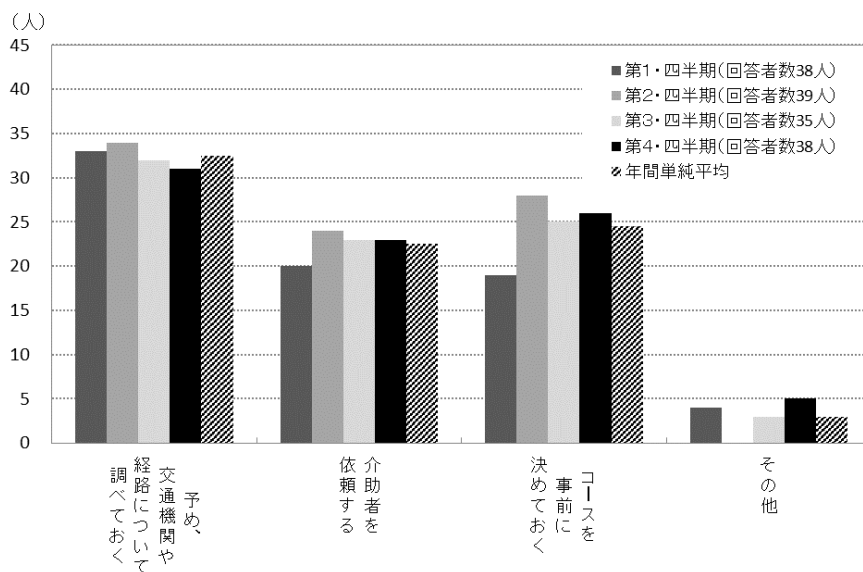


図2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 45 人）

- 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 80.0%、「白杖の使用」が 73.3%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 60.0%となっている
 - その他としては、「杖の使用」「ポケットがついている服にして、ポケットに目薬を入れていつでも点眼出来るようにしている」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 45 人）

- 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 86.7%、「白杖の使用」が 73.3%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 57.8%となっている
 - その他としては、「歩きやすく滑りにくい靴、マスク着用、飲み物持参」「盲導犬同伴」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 44 人）

- 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 70.5%、「白杖の使用」が 68.2%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 61.4%となっている
 - その他としては、「帽子の着用（日差し除け、雨対策、頭の保護）」「ヘルプカードの利用」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 45 人）

- 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおり（複数回答）
 - 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 80.0%、「白杖の使用」が 71.1%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 55.6%となっている
 - その他としては、「滑りにくく歩きやすい靴を選ぶ」「インナーバックをいくつかにもわけておく」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6及び図2-6のとおり（複数回答）。

□外出する上で工夫した「服装・持ち物」の年間の平均では「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が79.3%、「白杖の使用」が71.5%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が58.7%、「目立つ服装」が29.6%となっている

表2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

	目立つ服装	目の保護のためサングラス、帽子を着用	白杖の使用	両手が使えるよう、リュックサックを使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	11 24.4%	36 80.0%	33 73.3%	27 60.0%	4 8.9%	3 —	45
第2・四半期	15 33.3%	39 86.7%	33 73.3%	26 57.8%	4 8.9%	5 —	45
第3・四半期	13 29.5%	31 70.5%	30 68.2%	27 61.4%	7 15.9%	3 —	44
第4・四半期	14 31.1%	36 80.0%	32 71.1%	25 55.6%	5 11.1%	4 —	45
年間単純平均	13.3 29.6%	35.5 79.3%	32.0 71.5%	26.3 58.7%	5.0 11.2%	3.8 —	44.8
29年度平均	13.8 31.6%	36.0 82.8%	29.3 67.2%	25.0 57.5%	8.3 19.0%	4.3 —	43.5
28年度平均	11.5 26.7%	36.5 84.9%	29.5 68.6%	23.0 53.5%	7.5 17.4%	4.8 —	43.0
27年度平均	8.3 17.6%	37.3 79.3%	30.3 64.4%	21.5 45.7%	9.0 19.1%	3.3 —	47.0

注：上段は人数、下段は割合

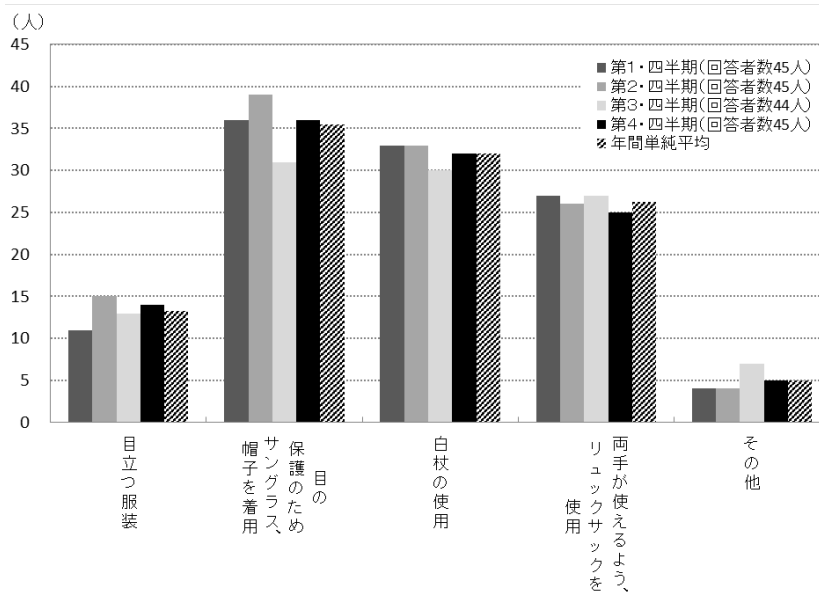


図2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 42 人）

- 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が 83.3%、「自家用車を利用」が 66.7%、「介護タクシーを利用」が 9.5%となっている
 - その他としては、「動きやすい服装」「ヘルプマークを付けている」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 43 人）

- 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が 83.7%、「自家用車を利用」が 74.4%、「介護タクシーを利用」が 11.6%となっている
 - その他としては、「福祉施設の車」「ヘルプガード装着」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 39 人）

- 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が 87.2%、「自家用車を利用」が 76.9%、「介護タクシーを利用」が 15.4%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 42 人）

- 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおり（複数回答）
 - 「公共交通機関を利用」が 81.0%、「自家用車を利用」が 76.2%、「介護タクシーを利用」が 11.9%となっている
 - その他としては、「タクシー」「徒歩」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-7 及び図 2-7 のとおり（複数回答）。
 - 外出する上で工夫した「移動手段」の年間の平均では「公共交通機関を利用」が 83.7%、「自家用車を利用」が 73.5%、「介護タクシーを利用」が 12.0%となっている

表 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

	自家用車 を利用	介護タクシー を利用	公共交通機関 を利用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	28 66.7%	4 9.5%	35 83.3%	6 14.3%	6 —	42 —
第2・四半期	32 74.4%	5 11.6%	36 83.7%	6 14.0%	7 —	43 —
第3・四半期	30 76.9%	6 15.4%	34 87.2%	3 7.7%	8 —	39 —
第4・四半期	32 76.2%	5 11.9%	34 81.0%	4 9.5%	7 —	42 —
年間単純平均	30.5 73.5%	5.0 12.0%	34.8 83.7%	4.8 11.4%	7.0 —	41.5 —
29年度平均	29.0 63.4%	5.8 12.6%	33.5 73.2%	7.3 15.8%	2.0 —	45.8 —
28年度平均	29.3 63.9%	4.3 9.3%	34.3 74.9%	5.0 10.9%	2.0 —	45.8 —
27年度平均	31.3 65.4%	2.8 5.8%	33.5 70.2%	5.8 12.0%	2.5 —	47.8 —

注：上段は人数、下段は割合

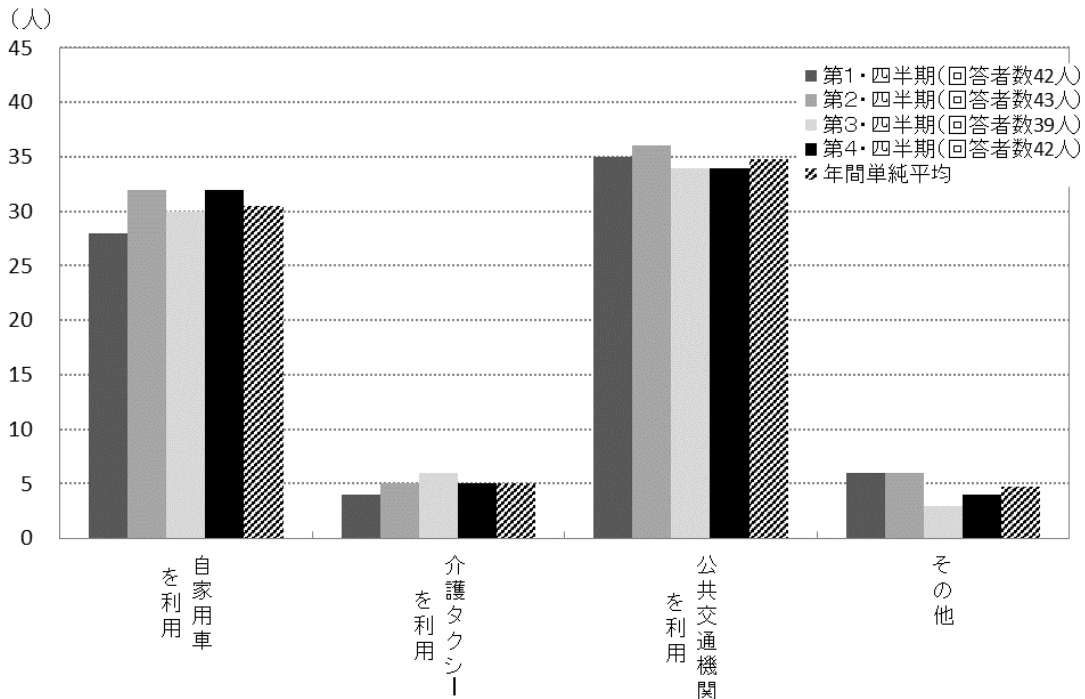


図 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと

○本人または介護者にたずねた外出する上で工夫したことの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇移動、歩行

- ・ 一般のタクシーを利用
- ・ 遠方の病院へ行く時は前日に宿泊する
- ・ 主にタクシーを利用する（時々家族に送迎してもらう）
- ・ 階段を避ける（スロープを探す）。
- ・ シグナルエイド（一人で横断歩道を渡る事）利用。
- ・ トイレなどの場所の確認
- ・ 人手の少ない時間に外出する
- ・ 大きく広い風呂敷を折りたたみ、お腹から車椅子の後ろにしっかり結んでつけておく
- ・ 白線に添って歩く

◇着衣

- ・ 今迄シューズでしたがひもがゆるんでしまう為、ひもなしの靴をはくようにしました
- ・ 外出先でオムツ交換を少なくするようにしっかりとパットをつける（2枚）
- ・ すべらないくつ
- ・ 目薬を出し入れしやすいポケットのついたズボン・上着を着用

■ 社会参加や社会活動について

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 53 人）

○ 第1・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.6%、行っていない人が 26.4%となっている

イ 第2・四半期（回答者 57 人）

○ 第2・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.7%、行っていない人が 26.3%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 51 人）

○ 第3・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 74.5%、行っていない人が 25.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者 52 人）

○ 第4・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 71.2%、行っていない人が 28.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-8 及び図 2-8 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 73.2%、行っていない人が 26.8%となっている

表 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	39	14	1	53
	73.6%	26.4%	—	100.0%
第2・四半期	42	15	0	57
	73.7%	26.3%	—	100.0%
第3・四半期	38	13	3	51
	74.5%	25.5%	—	100.0%
第4・四半期	37	15	3	52
	71.2%	28.8%	—	100.0%
年間単純平均	39.0	14.3	1.8	53.3
	73.2%	26.8%	—	100.0%
29年度平均	38.3	15.3	0.0	53.5
	71.5%	28.5%	—	100.0%
28年度平均	38.0	16.8	1.3	54.8
	69.4%	30.6%	—	100.0%
27年度平均	37.3	18.5	0.8	55.8
	66.8%	33.2%	—	100.0%
26年度平均	40.5	21.0	3.5	61.5
	65.9%	34.1%	—	100.0%
25年度平均	47.0	20.0	1.5	67.0
	70.1%	29.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

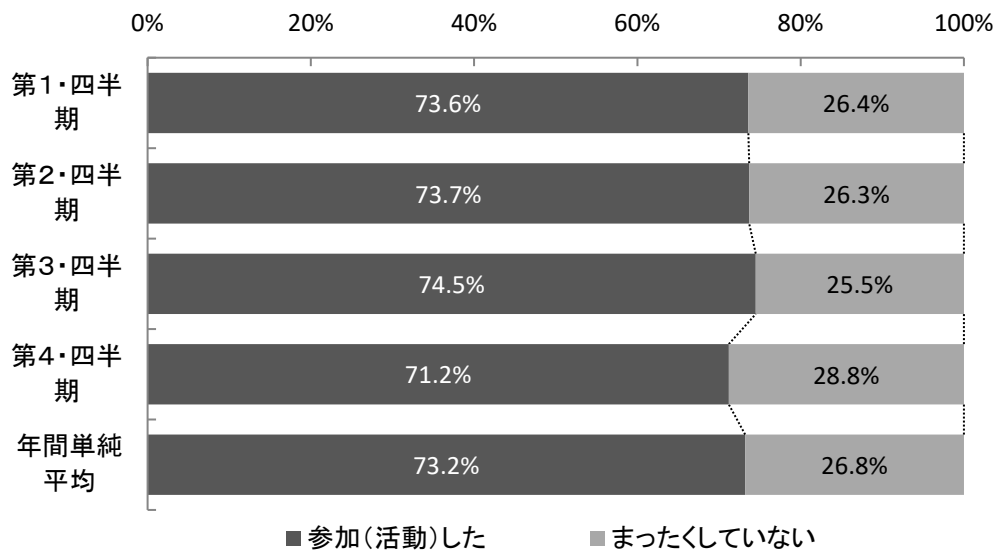


図 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 10 人）

- 社会参加や社会活動などを行っていないと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第 1・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 60.0%、「介助なし」が 30.0%、「時間的・経済的余裕なし」が 10.0%となっている
- その他としては、「視覚障害があるため、見る事が出来ず楽しめない。」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 10 人）

- 第 2・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 40.0%、「介助なし」が 30.0%、「時間的・経済的余裕なし」が 20.0%となっている
- その他としては、「咳が出るのでコンサートには行けない」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 15 人）

- 第 3・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 40.0%、「介助なし」が 20.0%、「時間的・経済的余裕なし」が 0.0%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 12 人）

- 第 4・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおり（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」と「介助なし」が 41.7%、「時間的・経済的余裕なし」が 8.3%となっている
- その他としては、「他人の行動についていけない」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-9 及び図 2-9 のとおり（複数回答）。
- 社会参加や社会活動などを行わなかった理由の年間の平均では「体力的に余裕なし」が 44.7%、「介助なし」が 29.8%、「時間的・経済的余裕なし」が 8.5%となっている

表 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	介助なし	時間的・経済的 余裕なし	体力的に 余裕なし	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	3 30.0%	1 10.0%	6 60.0%	1 10.0%	3 —	10 —
第2・四半期	3 30.0%	2 20.0%	4 40.0%	2 20.0%	4 —	10 —
第3・四半期	3 20.0%	0 0.0%	6 40.0%	1 6.7%	3 —	15 —
第4・四半期	5 41.7%	1 8.3%	5 41.7%	1 8.3%	5 —	12 —
年間単純平均	3.5 29.8%	1.0 8.5%	5.3 44.7%	1.3 10.6%	3.8 —	11.8 —
29年度平均	2.5 21.3%	2.0 17.0%	3.8 31.9%	3.0 25.5%	3.0 —	11.8 —
28年度平均	1.3 10.6%	2.8 23.4%	2.0 17.0%	5.8 48.9%	2.8 —	11.8 —
27年度平均	2.0 15.4%	1.5 11.5%	5.0 38.5%	4.5 34.6%	3.5 —	13.0 —

注：上段は人数、下段は割合

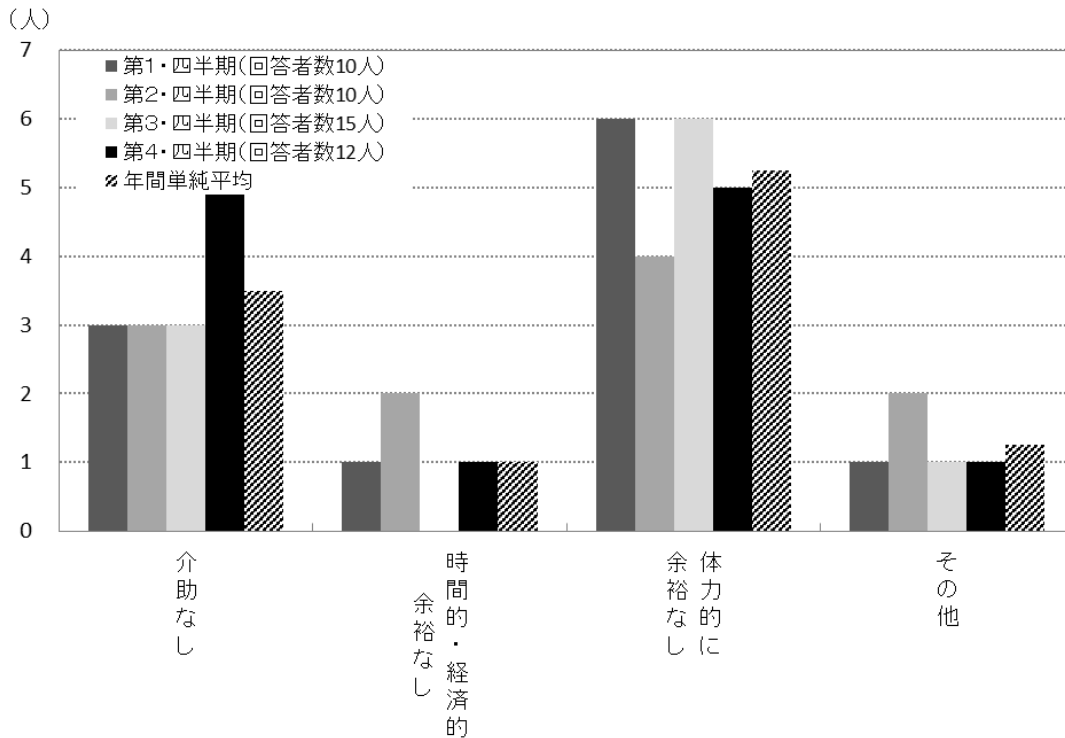


図 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

③ー2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 本人または介護者にたずねた社会参加・社会活動等のきっかけの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族、親類
 - ・ 家族で旅行した
 - ・ 家族の勧めがあった
2. 友人、知人等
 - ・ 同じ障害を持つ友人、地域の友人
 - ・ 障害者になる前の仲間達が誘ってくれる
3. 患者団体、同好会等
 - ・ 入会している障害者協会主催の講習
 - ・ 患者会などの会合
 - ・ 盲学校に在学している
4. 情報誌や広告等
 - ・ 地元の視覚障害者だより
5. 自発的な活動
 - ・ コンサート
 - ・ 散歩、買い物
 - ・ ブラインドゴルフ、マラソン
 - ・ 年間通じての継続活動
 - ・ 健康維持のために身体を動かし、運動量を増やす
6. その他
 - ・ 何かしていないと目の痛みにたえられない
 - ・ 毎日の闘病に資する仲間がいると知った時の感動
 - ・ 予約席の前席が確保できるから

③-3 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 31 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 67.7%、「障害者団体の活動」が 51.6%「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 48.4%、となっている
- その他としては、「近隣の散歩、買物」「陶芸教室」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 37 人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 56.8%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 43.2%、「障害者団体の活動」が 40.5%となっている
- その他としては、「パソコン教室」「IT講習」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 32 人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 75.0%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 53.1%と「障害者団体の活動」が 50.0%となっている
- その他としては、「動物園へ」「図書館からCDなど借りる」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 31 人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 61.3%、「障害者団体の活動」が 41.9%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 38.7%となっている
- その他としては、「ダンス」「食事会」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおり（複数回答）。
- 社会参加・社会活動などの内容の年間の平均では「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 64.9%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」と「障害者団体の活動」が 45.8%となっている

表 2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	21	9	15	10	3	16	7	7	12	6	—	8	31
	67.7%	29.0%	48.4%	32.3%	9.7%	51.6%	22.6%	22.6%	38.7%	19.4%	—	—	—
第2・四半期	21	7	16	13	2	15	4	11	13	4	—	5	37
	56.8%	18.9%	43.2%	35.1%	5.4%	40.5%	10.8%	29.7%	35.1%	10.8%	—	—	—
第3・四半期	24	9	17	9	3	16	4	10	14	6	—	6	32
	75.0%	28.1%	53.1%	28.1%	9.4%	50.0%	12.5%	31.3%	43.8%	18.8%	—	—	—
第4・四半期	19	10	12	10	8	13	5	10	16	6	—	6	31
	61.3%	32.3%	38.7%	32.3%	25.8%	41.9%	16.1%	32.3%	51.6%	19.4%	—	—	—
年間単純平均	21.3	8.8	15.0	10.5	4.0	15.0	5.0	9.5	13.8	5.5	—	6.3	32.8
	64.9%	26.7%	45.8%	32.1%	12.2%	45.8%	15.3%	29.0%	42.0%	16.8%	—	—	—
29年度平均	15.0	6.8	13.8	12.0	3.5	11.8	4.5	8.8	15.0	6.0	—	0.0	38.3
	39.2%	17.6%	35.9%	31.4%	9.2%	30.7%	11.8%	22.9%	39.2%	15.7%	—	—	—
28年度平均	15.0	5.3	13.3	11.5	4.0	13.3	4.5	8.0	13.3	7.5	—	0.0	38.0
	39.5%	13.8%	34.9%	30.3%	10.5%	34.9%	11.8%	21.1%	34.9%	19.7%	—	—	—
27年度平均	15.3	7.3	14.0	10.0	4.3	12.3	3.0	8.0	0.8	7.3	0.0	0.0	37.3
	40.9%	19.5%	37.6%	26.8%	11.4%	32.9%	8.1%	21.5%	2.0%	19.5%	0.0%	—	—
26年度平均	14.3	7.3	15.3	9.8	4.3	12.5	2.0	9.0	1.3	6.0	0.0	0.3	40.3
	35.4%	18.0%	37.9%	24.2%	10.6%	31.1%	5.0%	22.4%	3.1%	14.9%	0.0%	—	—
25年度平均	18.0	6.0	16.3	9.3	3.8	15.8	3.3	12.3	1.3	10.5	0.8	0.5	46.5
	38.7%	12.9%	34.9%	19.9%	8.1%	33.9%	7.0%	26.3%	2.7%	22.6%	1.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

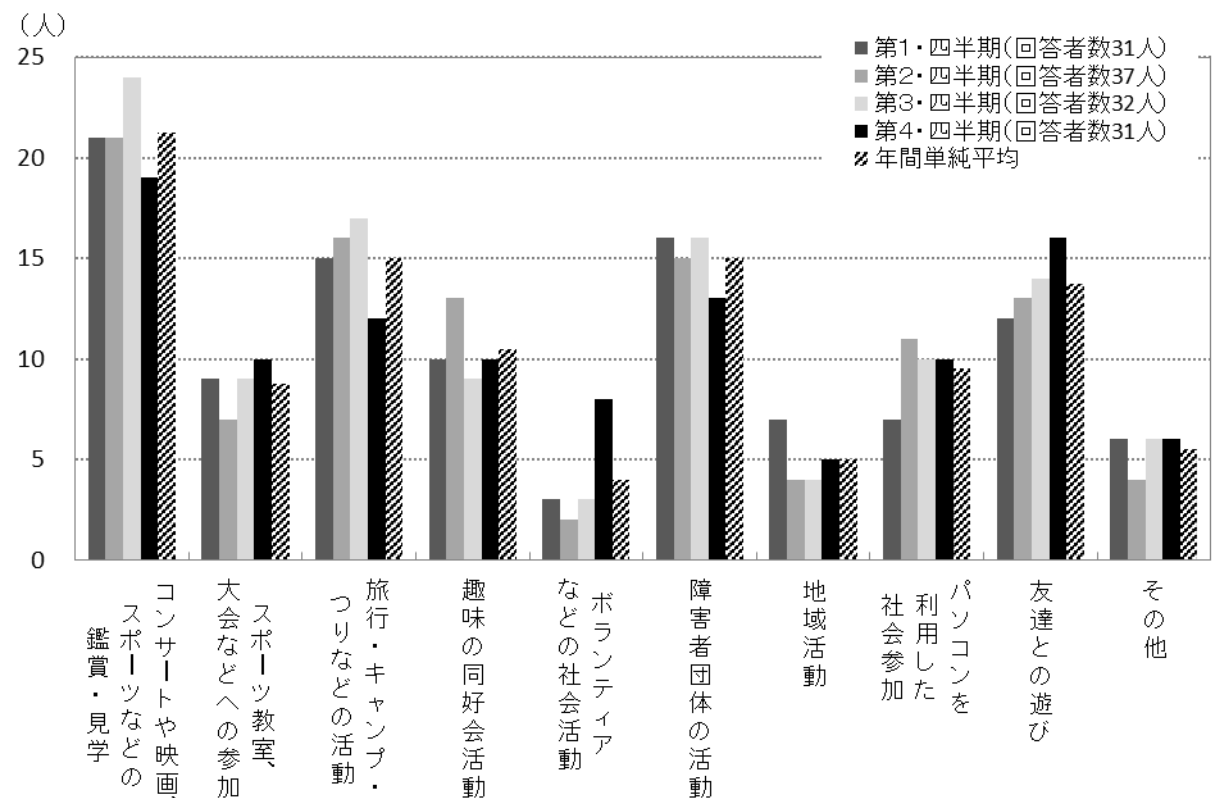


図 2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

■ 屋内での生活における工夫について

④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 45 人）

○ 第 1・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 97.8%、工夫がない人が 2.2%となっている

イ 第 2・四半期（回答者 49 人）

○ 第 2・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 95.9%、工夫がない人が 4.1%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 44 人）

○ 第 3・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 93.2%、工夫がない人が 6.8%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 47 人）

○ 第 4・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 93.6%、工夫がない人が 6.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-11 及び図 2-11 のとおり。

□ 屋内での生活の工夫の有無の割合は、年間の平均では、工夫がある人が 95.1%、ない人が 4.3%となっている

表 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	44	1	9	45
	97.8%	2.2%	—	100.0%
第2・四半期	47	2	8	49
	95.9%	4.1%	—	100.0%
第3・四半期	41	3	10	44
	93.2%	6.8%	—	100.0%
第4・四半期	44	3	8	47
	93.6%	6.4%	—	100.0%
年間単純平均	44.0	2.3	8.8	46.3
	95.1%	4.9%	—	100.0%
29年度平均	44.8	2.0	1.0	46.8
	95.7%	4.3%	—	100.0%
28年度平均	39.0	4.3	5.3	43.3
	90.2%	9.8%	—	100.0%
27年度平均	39.0	5.5	5.8	44.5
	87.6%	12.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

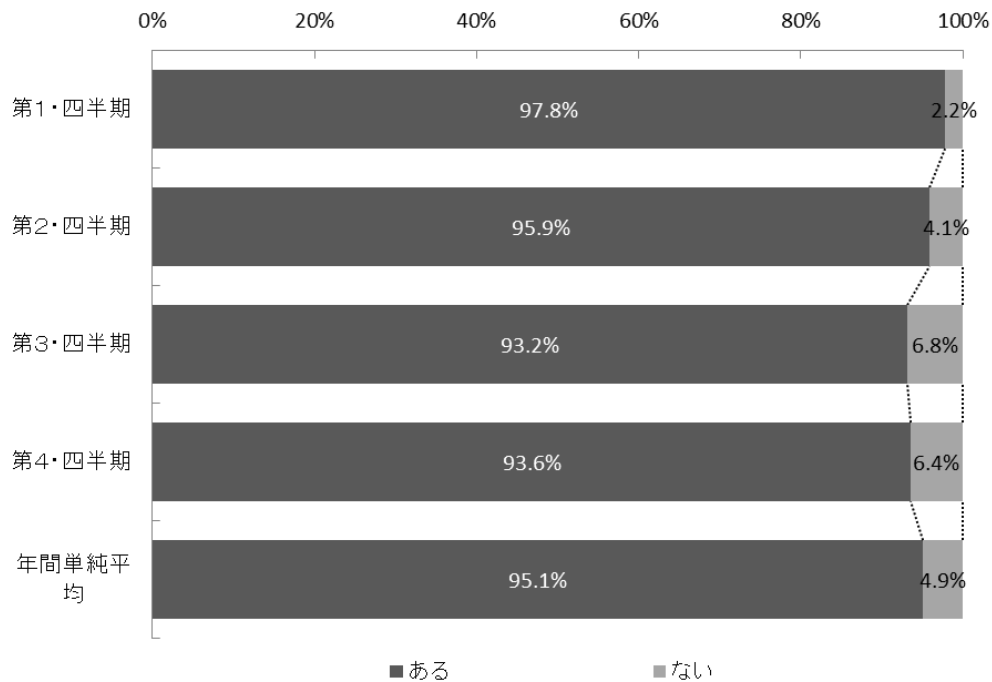


図 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

④-1 屋内での生活における工夫【家のつくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 42 人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第 1・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおり（複数回答）。

□「よく使う物は同じ場所に置く」が 100.0%、「通路や床に物を置かない」が 73.8%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 45.2%、「段差がないように敷物などで調整」が 19.0%となっている

□その他としては、「DVD や、音楽 CD ケースに点字シールをはる」をあげている

イ 第 2・四半期（回答者 46 人）

○第 2・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおり（複数回答）。

□「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.8%、「通路や床に物を置かない」が 78.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 50.0%、「段差がないように敷物などで調整」が 23.9%となっている

□その他としては、「部屋は常に明かりをつけておく」をあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 39 人）

○第 3・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおり（複数回答）。

□「よく使う物は同じ場所に置く」が 92.3%、「通路や床に物を置かない」が 74.4%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 35.9%、「段差がないように敷物などで調整」が 25.6%となっている

□その他としては、「シャンプーには輪ゴム」をあげている

エ 第 4・四半期（回答者 43 人）

○第 4・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおり（複数回答）。

□「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.7%、「通路や床に物を置かない」が 74.4%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 37.2%、「段差がないように敷物などで調整」が 18.6%となっている

□その他としては、「手ドアを引き戸に換えた」をあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-12及び図2-12のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容の年間の平均では「よく使う物は同じ場所に置く」が97.1%、「通路や床に物を置かない」が75.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が42.4%、「段差がないように敷物などで調整」が21.8%となっている

表2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

	通路や床に物を置かない	よく使う物は同じ場所に置く	段差がないように敷物などで調整	移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	31	42	8	19	4	2	42
	73.8%	100.0%	19.0%	45.2%	9.5%	—	—
第2・四半期	36	45	11	23	9	1	46
	78.3%	97.8%	23.9%	50.0%	19.6%	—	—
第3・四半期	29	36	10	14	6	2	39
	74.4%	92.3%	25.6%	35.9%	15.4%	—	—
第4・四半期	32	42	8	16	9	1	43
	74.4%	97.7%	18.6%	37.2%	20.9%	—	—
年間単純平均	32.0	41.3	9.3	18.0	7.0	1.5	42.5
	75.3%	97.1%	21.8%	42.4%	16.5%	—	—
29年度平均	34.3	40.8	11.0	16.8	6.5	2.0	42.8
	80.1%	95.3%	25.7%	39.2%	15.2%	—	—
28年度平均	31.8	36.3	9.0	12.5	5.0	1.0	38.0
	83.6%	95.4%	23.7%	32.9%	13.2%	—	—
27年度平均	31.3	35.8	10.8	9.8	6.8	1.3	37.8
	82.8%	94.7%	28.5%	25.8%	17.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

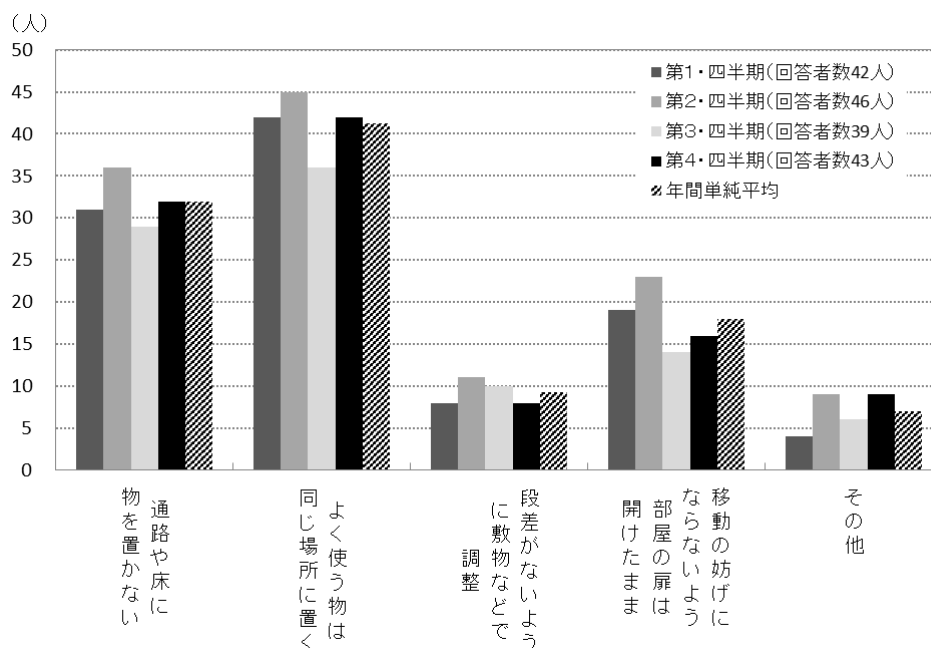


図2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 40 人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13 及び図2-13 のとおり（複数回答）。

□「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 67.5%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 55.0%となっている

□その他としては、「声で時間を知らせる時計」「図書再生機」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 47 人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13 及び図2-13 のとおり（複数回答）。

□「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 21.3%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 53.2%となっている

□その他としては、「音声の腕時計」「音声パソコン」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 39 人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13 及び図2-13 のとおり（複数回答）。

□「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 59.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 61.5%となっている

□その他としては、「様々な音声付き機器の利用」「タブレットの拡大鏡、白黒反転機能」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 39 人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表2-13 及び図2-13 のとおり（複数回答）。

□「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 61.5%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 51.3%となっている

□その他としては、「モバイル音声ソフト」「音訳ボランティア」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-13及び図2-13のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容の年間の平均では「音声ガイドや朗読サービスの活用」が50.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が55.2%となっている

表2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

	拡大読書器・ ルーペの活用	音声ガイドや 朗読サービスの 活用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	22	27	7	4	40
	55.0%	67.5%	17.5%	—	—
第2・四半期	25	10	2	0	47
	53.2%	21.3%	4.3%	—	—
第3・四半期	24	23	7	2	39
	61.5%	59.0%	17.9%	—	—
第4・四半期	20	24	6	5	39
	51.3%	61.5%	15.4%	—	—
年間単純平均	22.8	21.0	5.5	2.8	41.3
	55.2%	50.9%	13.3%	—	—
29年度平均	21.3	25.0	8.8	4.8	40.0
	53.1%	62.5%	21.9%	—	—
28年度平均	19.0	22.0	6.8	3.5	35.5
	53.5%	62.0%	19.0%	—	—
27年度平均	20.3	21.8	7.8	3.0	36.0
	56.3%	60.4%	21.5%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

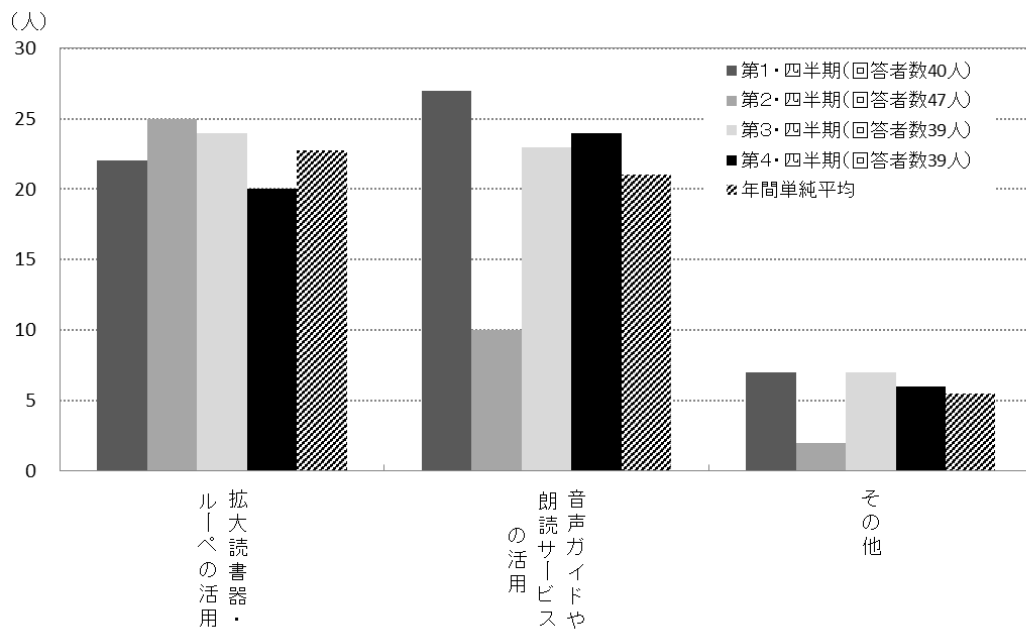


図2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 32 人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおり（複数回答）。

□「こまめな温度調節」が 65.6%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 40.6%、「ハウスダストの徹底した除去」が 31.3%となっている

□その他としては、「保湿のためのクリーム塗布」「マスク着用」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 34 人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおり（複数回答）。

□「乾燥予防のため加湿器を利用」が 50.0%、「こまめな温度調節」が 32.4%、「ハウスダストの徹底した除去」が 17.6%となっている

□その他としては、「うがいをよくする」「感染予防に消毒液を使用」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 28 人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおり（複数回答）。

□「乾燥予防のため加湿器を利用」と「こまめな温度調節」が 67.9%、「ハウスダストの徹底した除去」が 32.1%となっている

□その他としては、「こまめな点眼、体保湿剤塗布、マスク着用、空気清浄機」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 30 人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおり（複数回答）。

□「こまめな温度調節」が 84.4%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 62.5%、「ハウスダストの徹底した除去」が 15.6%となっている

□その他としては、「目薬をこまめにさす」「マスク、うがい」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容の年間の平均では「こまめな温度調節」が61.9%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が54.8%、「ハウスダストの徹底した除去」が23.8%となっている

表2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

	乾燥予防のため加湿器を利用	こまめな温度調節	ハウスダストの徹底した除去	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13	21	10	4	12	32
	40.6%	65.6%	31.3%	12.5%	—	—
第2・四半期	17	11	6	1	13	34
	50.0%	32.4%	17.6%	2.9%	—	—
第3・四半期	19	19	9	3	13	28
	67.9%	67.9%	32.1%	10.7%	—	—
第4・四半期	20	27	5	5	12	32
	62.5%	84.4%	15.6%	15.6%	—	—
年間単純平均	17.3	19.5	7.5	3.3	12.5	31.5
	54.8%	61.9%	23.8%	10.3%	—	—
29年度平均	18.8	21.3	9.8	6.5	12.8	32.0
	58.6%	66.4%	30.5%	20.3%	—	—
28年度平均	17.8	18.3	9.3	4.5	9.8	29.3
	60.7%	62.4%	31.6%	15.4%	—	—
27年度平均	16.5	14.8	8.5	8.8	9.8	29.3
	56.4%	50.4%	29.1%	29.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

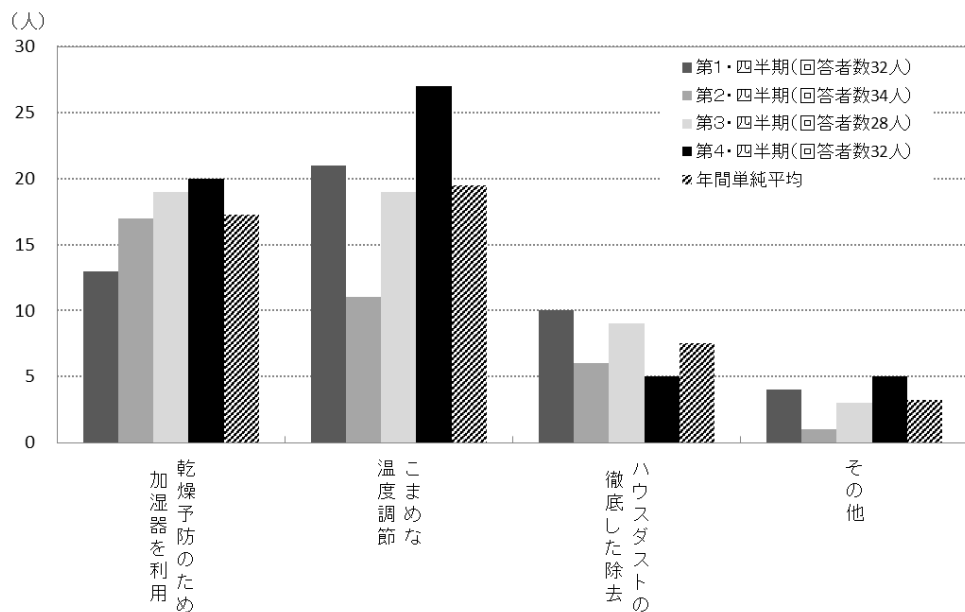


図2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 26 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」「カラーテープで目印」が 38.5%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 3.8%となっている
- その他としては、「書類等はクリップの付け方で区別」「凹凸のしるしをつける」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 45.2%、「カラーテープで目印」が 29.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 19.4%となっている
- その他としては、「紐で目印を付ける」「タッチメモ」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 22 人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおり（複数回答）。
- 「カラーテープで目印」が 40.9%、「点字シールをつける」が 36.4%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 22.7%となっている
- その他としては、「透明の食器は使用后すぐに片付ける」「クリップの付け方で区別」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 30 人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおり（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 40.0%、「カラーテープで目印」が 36.7%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 13.3%となっている
- その他としては、「室外にもカラーテープ等を貼っておく」「紐・糸などでしるしをつける」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-15及び図2-15のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容の年間の平均では「点字シールをつける」が40.4%、「カラーテープで目印」が35.8%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が14.7%となっている

表2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

	点字シールをつける	カラーテープで目印	室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	10	10	1	10	18	26
	38.5%	38.5%	3.8%	38.5%	—	—
第2・四半期	14	9	6	8	16	31
	45.2%	29.0%	19.4%	25.8%	—	—
第3・四半期	8	9	5	4	19	22
	36.4%	40.9%	22.7%	18.2%	—	—
第4・四半期	12	11	4	8	14	30
	40.0%	36.7%	13.3%	26.7%	—	—
年間単純平均	11.0	9.8	4.0	7.5	16.8	27.3
	40.4%	35.8%	14.7%	27.5%	—	—
29年度平均	10.8	8.3	4.3	7.3	18.8	26.0
	41.3%	31.7%	16.3%	27.9%	—	—
28年度平均	10.5	9.8	4.3	4.0	14.3	24.8
	42.4%	39.4%	17.2%	16.2%	—	—
27年度平均	8.8	7.5	4.3	7.3	14.8	24.3
	36.1%	30.9%	17.5%	29.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

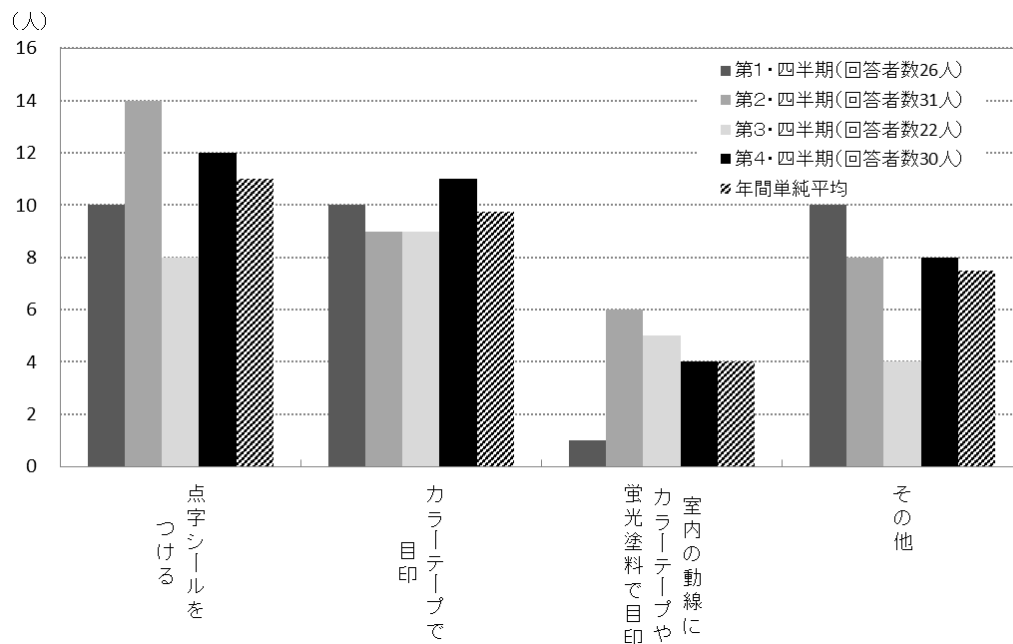


図2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

④-2 屋内での生活における工夫

○ 本人または介護者にたずねた屋内での生活における工夫の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇着衣

- ・ 24 時間使用しているヘットギアや頭頂部を C T U した。少しでも暑苦しい思いでいるのをやわらげたいと思った。
- ・ 足の裏の感覚利用で室内では一年中靴下をはかない
- ・ 冬でも靴下をはかない、足底の感覚利用
- ・ すべり止めの付いているクツの使用

◇食事

- ・ 食器などの整理整頓をしやすい棚の配置。
- ・ 無色のガラスの食器は見辛い為、何も入ってないとそこに食器がある事に気づかず手が当たって割ってしまう恐れがあるので使用後はすぐに洗って片付ける

◇屋内移動・配置

- ・ 階段の数を数えながら上る下りる
- ・ 扉を開けておく
- ・ 人が治療院に（玄関）に入ってきたらチャイムをセンサーでならず 玄関先にセンサーライトをつけてある
- ・ 部屋のレイアウトは変更しない
- ・ 「ここに置いていくよ」「〇〇に入れたからね」という声かけ
- ・ コードに引っかからないようにカバーをしている
- ・ 室内の柱等にスポンジ等をまきつけたり、はったりして当たっても痛くないようにした
- ・ 他の方（ヘルパーさん）が使用したものは同じところに戻してもらう
- ・ 身のまわりで、用事がすむように、近くに物を置く
- ・ コンタクトレンズ（ソフト・ハード）の紛失予防として、水道を使うときは必ず受皿利用、容器はマジックで赤青 LR の仕分け、置き場所を固定必ず所定位置に置くようにする。
- ・ 目薬は 1 回と 2 回の点眼がわからない為、輪ゴムで区別する
- ・ 良くぶつかる所に、保護テープを貼る。
- ・ 割れ物の位置を確認するようにしている。

◇光の調整

- ・ 採光、照明の調節
- ・ 光がまぶしいので調光式の照明器具に変えた

◇その他

- ・ DVD など好きな物で時間を過ごす
- ・ 工夫ではないけれどガラケーからスマホに変えて使いなれようとしている
- ・ 座椅子の活用。

- ・ 自分の生活になれる事
- ・ 出来るだけ車イスに座らせ外の空気に当たらせる。
- ・ ラジオの音声を活用

■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤日常生活について

⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて

ア 第1・四半期（回答者 42 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおり。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 61.9%、「とても不自由」が 33.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 47 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおり。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 61.7%、「とても不自由」が 29.8%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 43 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおり。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 67.4%、「とても不自由」が 25.6%となっている

エ 第4・四半期（回答者 46 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおり。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 65.2%、「とても不自由」が 26.1%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-16 及び図 2-16 のとおり。

□ものが見えにくいため新聞や本を読むことの不自由さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が 64.0%、「とても不自由」が 28.7%となっている

表 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

	全く不自由 はない	あまり不自由 はない	とても不自由	見えにくいの でやめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0	2	14	26	12	42
	0.0%	4.8%	33.3%	61.9%	—	100.0%
第2・四半期	2	2	14	29	10	47
	4.3%	4.3%	29.8%	61.7%	—	100.0%
第3・四半期	1	2	11	29	11	43
	2.3%	4.7%	25.6%	67.4%	—	100.0%
第4・四半期	1	3	12	30	9	46
	2.2%	6.5%	26.1%	65.2%	—	100.0%
年間単純平均	1.0	2.3	12.8	28.5	10.5	44.5
	2.2%	5.1%	28.7%	64.0%	—	100.0%
29年度平均	0.8	2.0	13.3	26.0	5.8	42.0
	1.8%	4.8%	31.5%	61.9%	—	100.0%
28年度平均	0.5	0.8	15.3	27.8	4.3	44.3
	1.1%	1.7%	34.5%	62.7%	—	100.0%
27年度平均	0.0	1.5	16.8	29.0	3.0	47.3
	0.0%	3.2%	35.4%	61.4%	—	100.0%
26年度平均	0.0	1.8	16.8	30.8	15.8	49.3
	0.0%	3.6%	34.0%	62.4%	—	100.0%
25年度平均	0.0	2.0	16.5	33.3	5.0	51.8
	0.0%	3.9%	31.9%	64.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

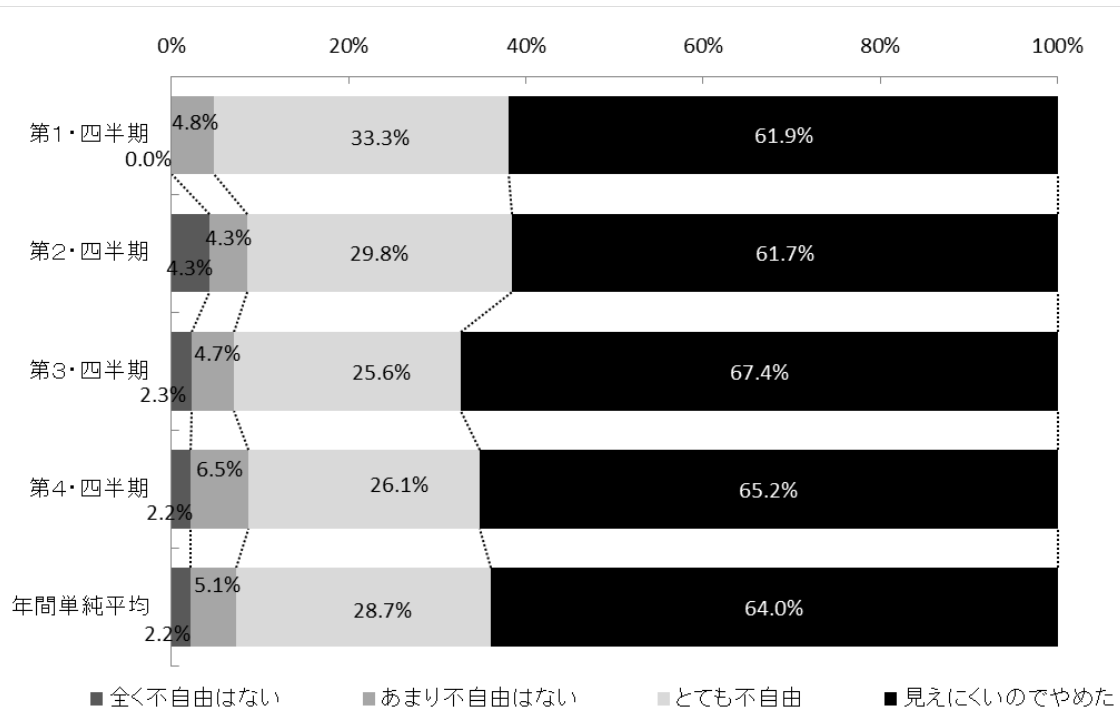


図 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者 47 人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 55.3%、「中くらいある」が 23.4%となっている

イ 第2・四半期（回答者 48 人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 50.0%、「中くらいある」が 33.3%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 54.5%、「中くらいある」が 27.3%となっている

エ 第4・四半期（回答者 48 人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 54.2%、「中くらいある」が 29.2%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-17 及び図 2-17 のとおり。

□目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「かなりある」が 53.5%、「中くらいある」が 28.3%となっている

表 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合 計
第1・四半期	26	11	10	0	7	47
	55.3%	23.4%	21.3%	0.0%	—	100.0%
第2・四半期	24	16	8	0	9	48
	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	—	100.0%
第3・四半期	24	12	8	0	10	44
	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	—	100.0%
第4・四半期	26	14	8	0	7	48
	54.2%	29.2%	16.7%	0.0%	—	100.0%
年間単純平均	25.0	13.3	8.5	0.0	8.3	46.8
	53.5%	28.3%	18.2%	0.0%	—	100.0%
29年度平均	23.5	13.5	8.0	0.3	2.5	45.3
	51.9%	29.8%	17.7%	0.6%	—	100.0%
28年度平均	26.3	13.0	7.8	0.0	1.5	47.0
	55.9%	27.7%	16.5%	0.0%	—	100.0%
27年度平均	27.0	15.3	7.3	0.0	0.8	49.5
	54.5%	30.8%	14.6%	0.0%	—	100.0%
26年度平均	30.3	12.8	8.8	0.0	13.3	51.8
	58.5%	24.6%	16.9%	0.0%	—	100.0%
25年度平均	27.5	18.0	8.5	0.3	2.5	54.3
	50.7%	33.2%	15.7%	0.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

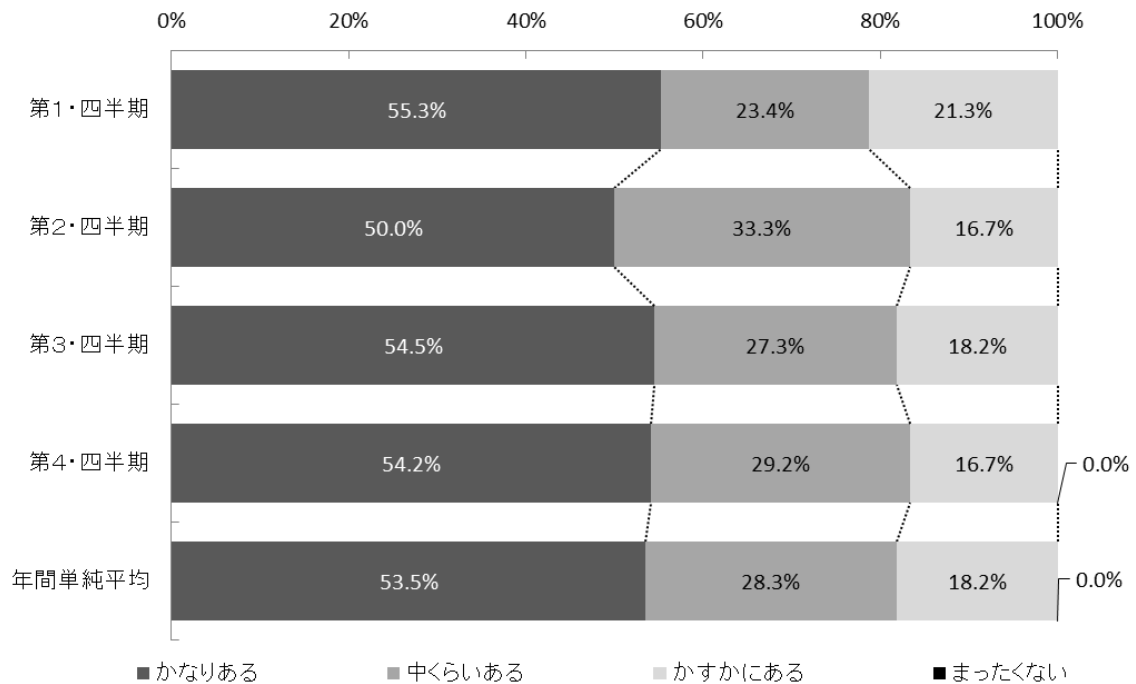


図 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

⑤-3 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者 46 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.7%、「ない」が 4.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 47 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 93.6%、「ない」が 6.4%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 45 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.6%、「ない」が 4.4%となっている

エ 第4・四半期（回答者 44 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 97.7%、「ない」が 2.3%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-18 及び図 2-18 のとおり。

□ものが見えにくいために物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「ある」が 95.6%、「ない」が 4.4%となっている

表 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合 計
第1・四半期	—	—	—	44	2	—	8	46
	—	—	—	95.7%	4.3%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	44	3	—	8	47
	—	—	—	93.6%	6.4%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	43	2	—	9	45
	—	—	—	95.6%	4.4%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	43	1	—	11	44
	—	—	—	97.7%	2.3%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	43.5	2.0	—	9.0	45.5
	—	—	—	95.6%	4.4%	—	—	100.0%
29年度平均	—	—	—	41.8	2.8	—	3.3	44.5
	—	—	—	93.8%	6.2%	—	—	100.0%
28年度平均	—	—	—	44.3	2.5	—	1.8	48.5
	—	—	—	94.7%	5.3%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	46.3	2.3	—	1.8	48.5
	—	—	—	95.4%	4.6%	—	—	100.0%
26年度平均	36.0	12.0	3.5	—	—	0.3	13.3	51.8
	69.6%	23.2%	6.8%	—	—	0.5%	—	100.0%
25年度平均	39.0	10.5	4.0	—	—	0.0	3.3	53.5
	72.9%	19.6%	7.5%	—	—	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

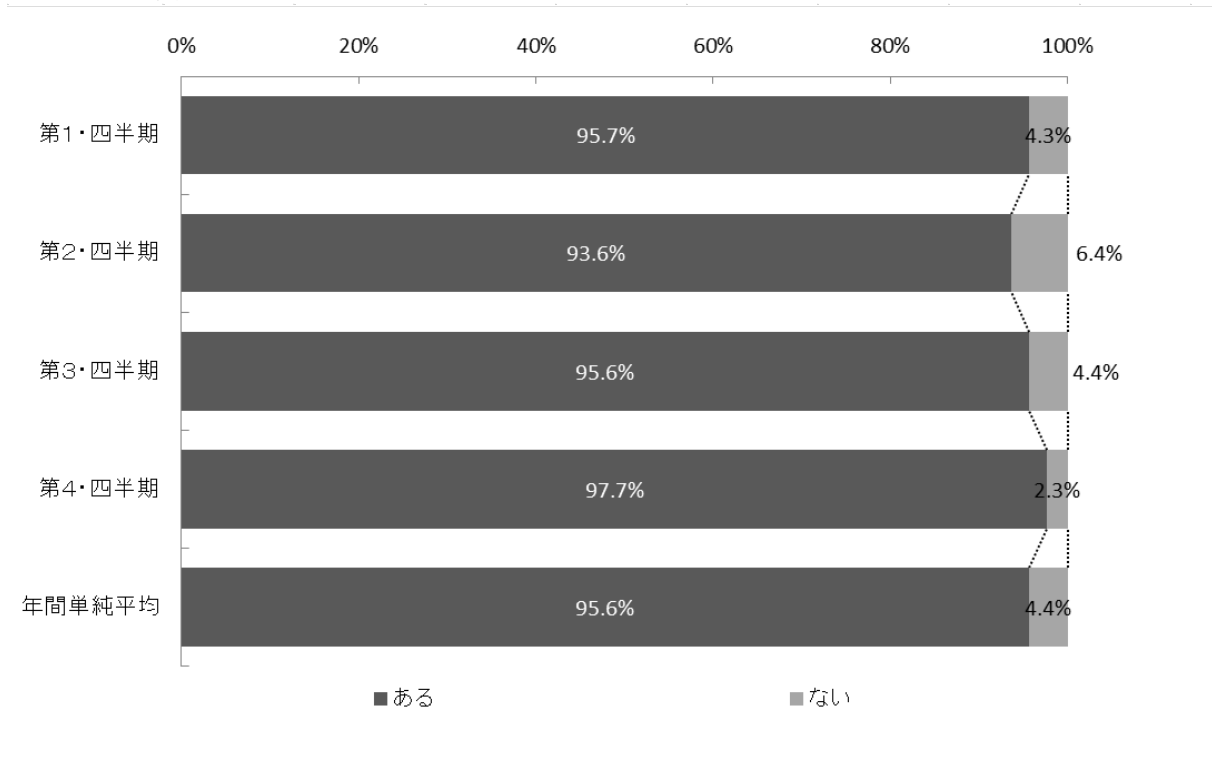


図 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者 47 人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについて「ある」が 87.2%、「ない」が 12.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者 49 人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについて「ある」が 87.8%、「ない」が 12.2%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 41 人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについて「ある」が 82.9%、「ない」が 17.1%となっている

エ 第4・四半期（回答者 46 人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについて「ある」が 91.3%、「ない」が 8.7%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-19 及び図 2-19 のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「ある」が 87.4%、「ない」が 12.6%となっている

表 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	ある	ない	まったくない	回答なし	合 計
第1・四半期	—	—	—	41	6	—	7	47
	—	—	—	87.2%	12.8%	—	—	100.0%
第2・四半期	—	—	—	43	6	—	8	49
	—	—	—	87.8%	12.2%	—	—	100.0%
第3・四半期	—	—	—	34	7	—	13	41
	—	—	—	82.9%	17.1%	—	—	100.0%
第4・四半期	—	—	—	42	4	—	9	46
	—	—	—	91.3%	8.7%	—	—	100.0%
年間単純平均	—	—	—	40.0	5.8	—	9.3	45.8
	—	—	—	87.4%	12.6%	—	—	100.0%
29年度平均	—	—	—	36.8	7.3	—	3.8	44.0
	—	—	—	83.5%	16.5%	—	—	100.0%
28年度平均	—	—	—	40.5	5.3	—	2.8	47.3
	—	—	—	88.5%	11.5%	—	—	100.0%
27年度平均	—	—	—	42.8	4.5	—	3.0	47.3
	—	—	—	90.5%	9.5%	—	—	100.0%
26年度平均	28.0	16.8	6.0	—	—	0.8	13.5	51.5
	54.4%	32.5%	11.7%	—	—	1.5%	—	100.0%
25年度平均	31.8	14.8	5.3	—	—	1.8	3.3	53.5
	59.3%	27.6%	9.8%	—	—	3.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

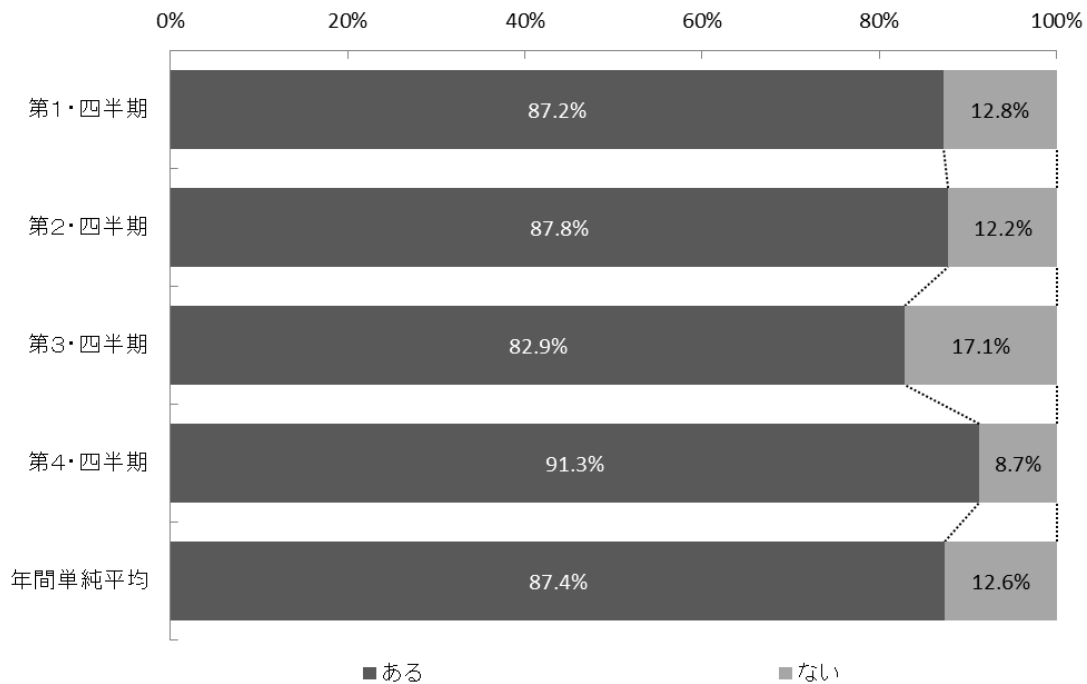


図 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

⑤-5 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

- 第1・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「爪の変更、剥離」が 86.0%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 81.4%、「瘢痕が残る」が 51.2%となっている
- その他としては、「時々血がにじむ」「アトピー性皮膚炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 45 人）

- 第2・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「爪の変更、剥離」が 88.9%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 84.4%、「瘢痕が残る」が 44.4%となっている
- その他としては、「舌のただれ」「キズが治りにくい」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

- 第3・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」が 84.1%、「爪の変更、剥離」が 81.8%、「瘢痕が残る」が 38.6%となっている
- その他としては、「逆まつげ」「アトピー性皮膚炎」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

- 第4・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 「皮膚のかゆみ、乾燥」と「爪の変更、剥離」が 78.7%、「瘢痕が残る」が 51.1%となっている
- その他としては、「アトピー」「爪がないため指先の皮が痛む」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-20 及び図 2-20 のとおり（複数回答）。
- 皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「爪の変更、剥離」が 83.8%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 82.1%、「瘢痕が残る」が 46.4%となっている

表 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

	皮膚のかゆみ、乾燥	瘢痕が残る	爪の変更、剥離	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	35 81.4%	22 51.2%	37 86.0%	1 2.3%	11 —	43 —
第2・四半期	38 84.4%	20 44.4%	40 88.9%	3 6.7%	12 —	45 —
第3・四半期	37 84.1%	17 38.6%	36 81.8%	2 4.5%	10 —	44 —
第4・四半期	37 78.7%	24 51.1%	37 78.7%	3 6.4%	8 —	47 —
年間単純平均	36.8 82.1%	20.8 46.4%	37.5 83.8%	2.3 5.0%	10.3 —	44.8 —
29年度平均	35.0 80.9%	21.8 50.3%	37.5 86.7%	2.5 5.8%	4.5 —	43.3 —
28年度平均	35.8 81.7%	22.0 50.3%	35.8 81.7%	4.3 9.7%	4.8 —	43.8 —
27年度平均	33.0 75.0%	21.8 49.4%	34.8 79.0%	4.5 10.2%	6.3 —	44.0 —

注：上段は人数、下段は割合

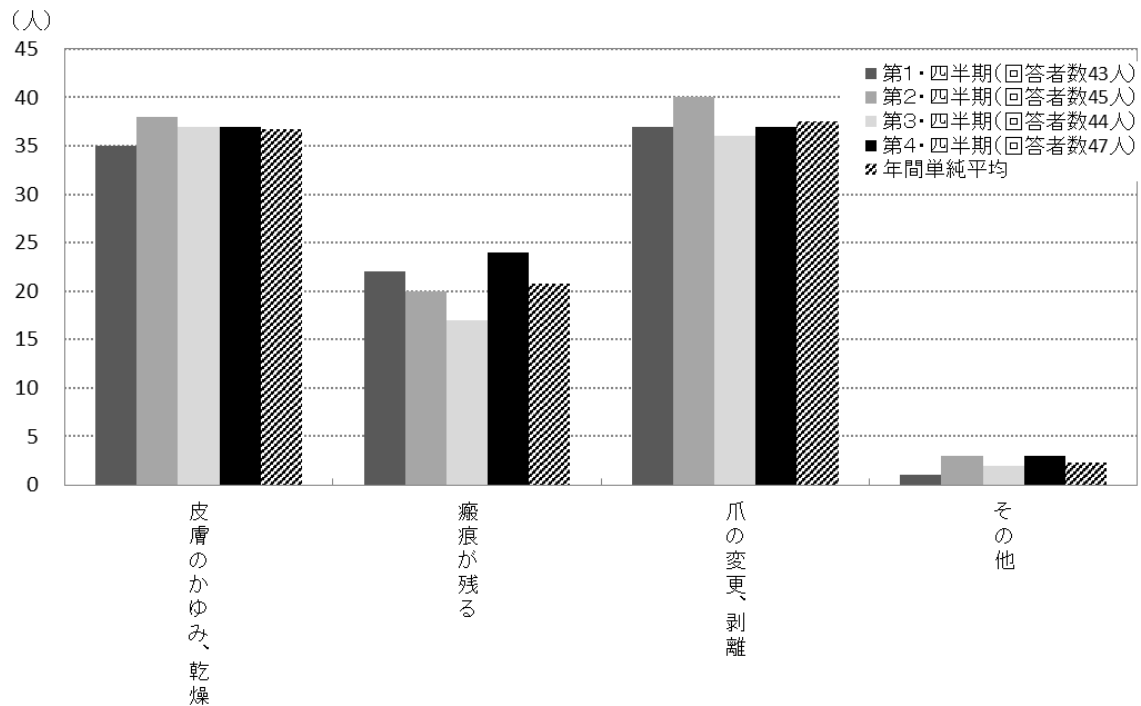


図 2-20 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

- 第1・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 50.0%、「粘膜不全」が 35.7%、「心肺機能の低下・異常」が 32.1%、「肝機能の低下・異常」が 25.0%となっている
- その他としては、「唾液が出ない」「逆流性食道炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 27 人）

- 第2・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 59.3%、「粘膜不全」が 37.0%、「心肺機能の低下・異常」が 25.9%となっている
- その他としては、「運動不足による脂質異常」「尿の異常」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 25 人）

- 第3・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 60.0%、「粘膜不全」と「心肺機能の低下・異常」が 40.0%、「肝機能の低下・異常」が 28.0%となっている
- その他としては、「血糖値が高い」「尿に潜血とたん白」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 29 人）

- 第4・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 「高血圧」が 58.6%、「心肺機能の低下・異常」が 44.8%、「粘膜不全」が 37.9%となっている
- その他としては、「肺マック症」「貧血症」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-21 及び図 2-21 のとおり（複数回答）。
- 内臓機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「高血圧」が 56.9%、「粘膜不全」が 39.4%、「心肺機能の低下・異常」が 33.9%となっている

表 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

	高血圧	粘膜不全	心肺機能の低下・異常	肝機能の低下・異常	腎機能の低下・異常	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	10	9	7	3	5	26	28
	50.0%	35.7%	32.1%	25.0%	10.7%	17.9%	—	—
第2・四半期	16	10	7	5	3	5	30	27
	59.3%	37.0%	25.9%	18.5%	11.1%	18.5%	—	—
第3・四半期	15	10	10	7	3	3	29	25
	60.0%	40.0%	40.0%	28.0%	12.0%	12.0%	—	—
第4・四半期	17	13	11	4	4	7	26	29
	58.6%	44.8%	37.9%	13.8%	13.8%	24.1%	—	—
年間単純平均	15.5	10.8	9.3	5.8	3.3	5.0	27.8	27.3
	56.9%	39.4%	33.9%	21.1%	11.9%	18.3%	—	—
29年度平均	14.3	10.8	8.5	6.8	3.5	4.5	22.3	25.5
	55.9%	42.2%	33.3%	26.5%	13.7%	17.6%	—	—
28年度平均	13.8	10.3	8.0	7.8	3.8	4.8	22.0	26.5
	51.9%	38.7%	30.2%	29.2%	14.2%	17.9%	—	—
27年度平均	14.0	10.5	11.0	6.3	2.0	7.3	20.3	30.0
	46.7%	35.0%	36.7%	20.8%	6.7%	24.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

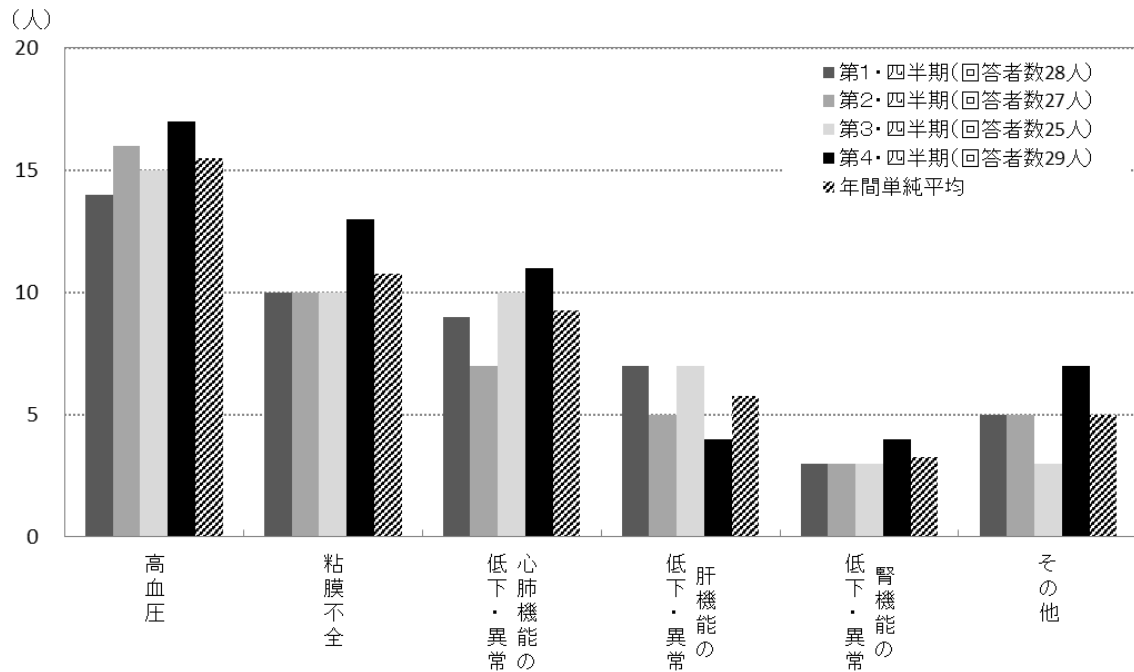


図 2-21 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 34 人）

- 第1・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が 61.8%、「気管支炎、ぜんそく」が 52.9%、「音声聞き取りにくい」が 38.2%となっている
- その他としては、「目まい」「耳鳴り」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 37 人）

- 第2・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が 67.6%、「気管支炎、ぜんそく」が 54.1%、「音声聞き取りにくい」が 43.2%となっている
- その他としては、「鼓膜炎」「外耳炎」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 34 人）

- 第3・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が 76.5%、「気管支炎、ぜんそく」が 55.9%、「音声聞き取りにくい」が 41.2%となっている
- その他としては、「肺マック症」「常に痰が出る」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

- 第4・四半期において、聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおり（複数回答）。
- 「アレルギー性鼻炎」が 75.0%、「気管支炎、ぜんそく」が 61.1%、「音声聞き取りにくい」が 36.1%となっている
- その他としては、「外耳炎」「風邪をひきやすい」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-22及び図2-22のとおり（複数回答）。

聴覚・呼吸機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「アレルギー性鼻炎」が70.2%、「気管支炎、ぜんそく」が56.0%、「音声聞き取りにくい」が39.7%となっている

表2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

	音声聞き取りにくい	気管支炎、ぜんそく	アレルギー性鼻炎	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13	18	21	5	20	34
	38.2%	52.9%	61.8%	14.7%	—	—
第2・四半期	16	20	25	2	20	37
	43.2%	54.1%	67.6%	5.4%	—	—
第3・四半期	14	19	26	4	20	34
	41.2%	55.9%	76.5%	11.8%	—	—
第4・四半期	13	22	27	3	19	36
	36.1%	61.1%	75.0%	8.3%	—	—
年間単純平均	14.0	19.8	24.8	3.5	19.8	35.3
	39.7%	56.0%	70.2%	9.9%	—	—
29年度平均	11.8	18.3	22.5	4.8	14.0	33.8
	34.8%	54.1%	66.7%	14.1%	—	—
28年度平均	14.3	16.0	21.8	8.0	14.3	34.3
	41.6%	46.7%	63.5%	23.4%	—	—
27年度平均	10.8	15.5	20.5	7.5	17.3	33.0
	32.6%	47.0%	62.1%	22.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

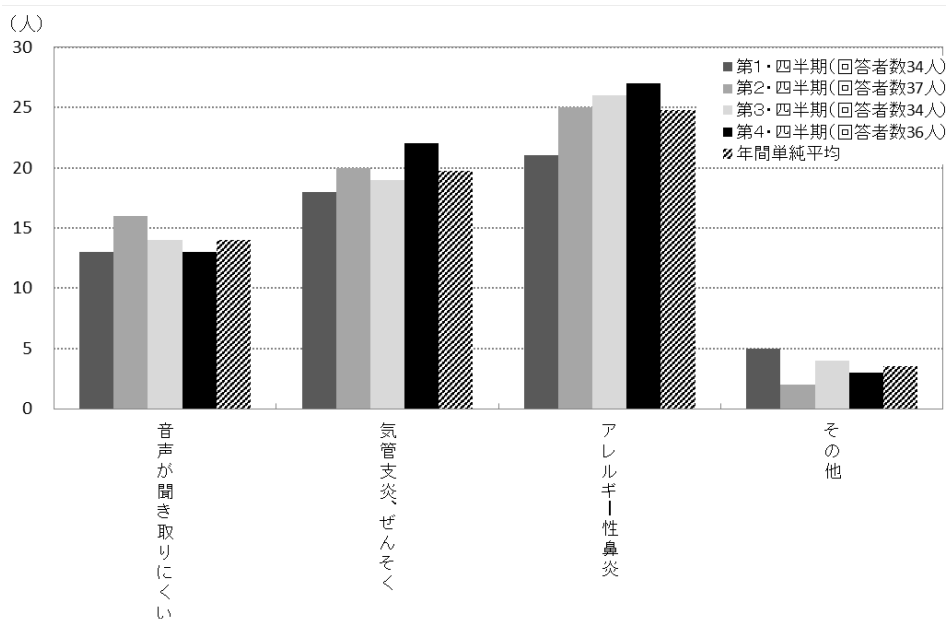


図2-22 視力以外の状況【聴覚・呼吸機能に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 48 人）

○第1・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が97.9%、「さかさまつげ」が89.6%、「角膜の炎症」が72.9%となっている

□その他としては、「結膜炎」「瞼の癒着」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 50 人）

○第2・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「さかさまつげ」と「ドライアイ」が94.0%、「角膜の炎症」が72.0%となっている

□その他としては、「視野障害」「眼球と瞼の癒着」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 45 人）

○第3・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「ドライアイ」が95.6%、「さかさまつげ」が93.3%、「角膜の炎症」が73.3%となっている

□その他としては、「緑内障、高眼圧」「角膜の肥厚による混濁」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 48 人）

○第4・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

□「さかさまつげ」と「ドライアイ」が93.8%、「角膜の炎症」が62.5%となっている

□その他としては、「粘膜癒着」「慢性結膜炎」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-23及び図2-23のとおり（複数回答）。

眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「ドライアイ」が95.3%、「さかさまつげ」が92.7%、「角膜の炎症」が70.2%となっている

表 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

	さかさまつげ	ドライアイ	角膜の炎症	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	43 89.6%	47 97.9%	35 72.9%	8 16.7%	6 —	48 —
第2・四半期	47 94.0%	47 94.0%	36 72.0%	7 14.0%	7 —	50 —
第3・四半期	42 93.3%	43 95.6%	33 73.3%	8 17.8%	9 —	45 —
第4・四半期	45 93.8%	45 93.8%	30 62.5%	10 20.8%	7 —	48 —
年間単純平均	44.3 92.7%	45.5 95.3%	33.5 70.2%	8.3 17.3%	7.3 —	47.8 —
29年度平均	41.5 89.7%	45.0 97.3%	34.3 74.1%	9.0 19.5%	1.5 —	46.3 —
28年度平均	42.5 88.1%	46.0 95.3%	32.5 67.4%	8.3 17.1%	0.3 —	48.3 —
27年度平均	42.8 85.9%	47.0 94.5%	33.8 67.8%	11.3 22.6%	0.5 —	49.8 —

注：上段は人数、下段は割合

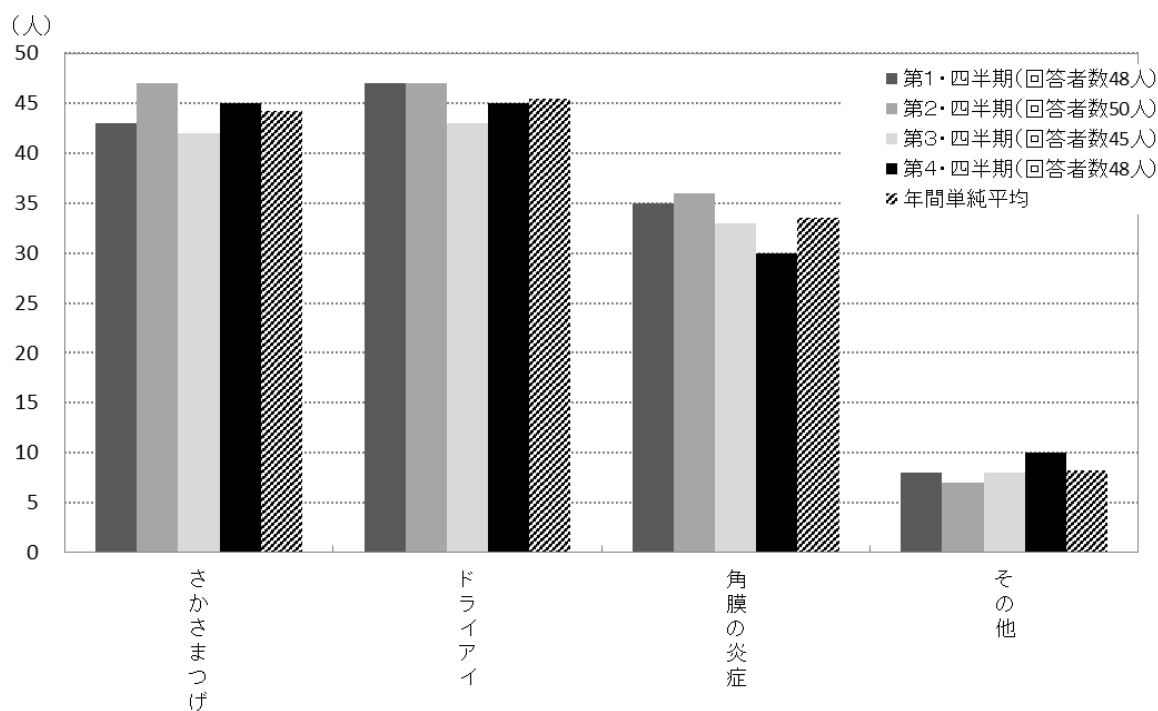


図 2-23 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【口腔に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 35 人）

- 第1・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 80.0%、「口内炎」が 48.6%、「味覚障害」が 17.1%となっている
- その他としては、「知覚過敏」「アフタ性潰瘍」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 33 人）

- 第2・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 87.9%、「口内炎」が 57.6%、「味覚障害」が 21.2%となっている
- その他としては、「口唇ヘルペス」「舌が常にただれている」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 34 人）

- 第3・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 85.3%、「口内炎」が 47.1%、「味覚障害」が 17.6%となっている
- その他としては、「ドライマウス」「歯周病」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 35 人）

- 第4・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 「口の中が乾く」が 91.4%、「口内炎」が 48.6%、「味覚障害」が 17.1%となっている
- その他としては、「舌の違和感」「口唇ヘルペス」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-24 及び図 2-24 のとおり（複数回答）。
- 口腔に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「口の中が乾く」が 86.1%、「口内炎」が 50.4%、「味覚障害」が 18.2%となっている

表 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

	口内炎	味覚障害	口の中が乾く	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	17	6	28	8	19	35
	48.6%	17.1%	80.0%	22.9%	—	—
第2・四半期	19	7	29	4	21	33
	57.6%	21.2%	87.9%	12.1%	—	—
第3・四半期	16	6	29	8	20	34
	47.1%	17.6%	85.3%	23.5%	—	—
第4・四半期	17	6	32	7	19	35
	48.6%	17.1%	91.4%	20.0%	—	—
年間単純平均	17.3	6.3	29.5	6.8	19.8	34.3
	50.4%	18.2%	86.1%	19.7%	—	—
29年度平均	16.3	6.3	27.3	7.5	15.0	34.0
	47.8%	18.4%	80.1%	22.1%	—	—
28年度平均	18.0	5.5	27.3	5.0	15.0	35.0
	51.4%	15.7%	77.9%	14.3%	—	—
27年度平均	14.0	5.3	24.5	7.8	19.3	32.8
	42.7%	16.0%	74.8%	23.7%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

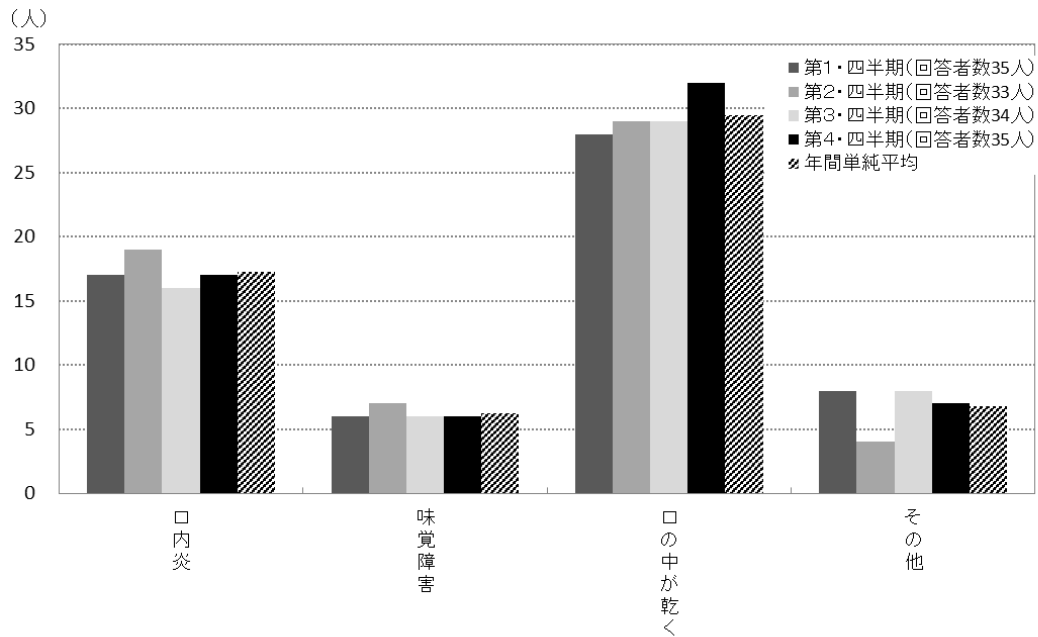


図 2-24 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況【精神的な症状】

ア 第1・四半期（回答者 23 人）

- 第1・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおり（複数回答）。
- 「不安障害」と「睡眠障害」が 69.6%、「うつ」が 17.4%となっている
- その他としては、「先々のことが心配で落ち込む」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 23 人）

- 第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 69.6%、「不安障害」が 65.2%、「うつ」が 17.4%となっている
- その他としては、「自律神経不調」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 21 人）

- 第3・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおり（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 81.0%、「不安障害」が 71.4%、「うつ」が 23.8%となっている
- その他としては、「自律神経失調症」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 22 人）

- 第4・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおり（複数回答）。
- 「不安障害」と「睡眠障害」が 68.2%、「うつ」が 27.3%となっている
- その他としては、「集中力の低下」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-25 及び図 2-25 のとおり（複数回答）。
- 精神的な症状についてたずねた結果の年間の平均では「睡眠障害」が 71.9%、「不安障害」が 68.5%、「うつ」が 21.3%となっている

表 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

	不安障害	睡眠障害	うつ	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16 69.6%	16 69.6%	4 17.4%	3 13.0%	31 —	23 —
第2・四半期	15 65.2%	16 69.6%	4 17.4%	2 8.7%	34 —	23 —
第3・四半期	15 71.4%	17 81.0%	5 23.8%	2 9.5%	33 —	21 —
第4・四半期	15 68.2%	15 68.2%	6 27.3%	2 9.1%	33 —	22 —
年間単純平均	15.3 68.5%	16.0 71.9%	4.8 21.3%	2.3 10.1%	32.8 —	22.3 —
29年度平均	14.5 68.2%	14.3 67.1%	4.8 22.4%	2.5 11.8%	26.5 —	21.3 —
28年度平均	14.8 71.1%	15.3 73.5%	4.8 22.9%	2.5 12.0%	27.8 —	20.8 —
27年度平均	14.5 69.9%	14.8 71.1%	4.5 21.7%	3.3 15.7%	29.5 —	20.8 —

注：上段は人数、下段は割合

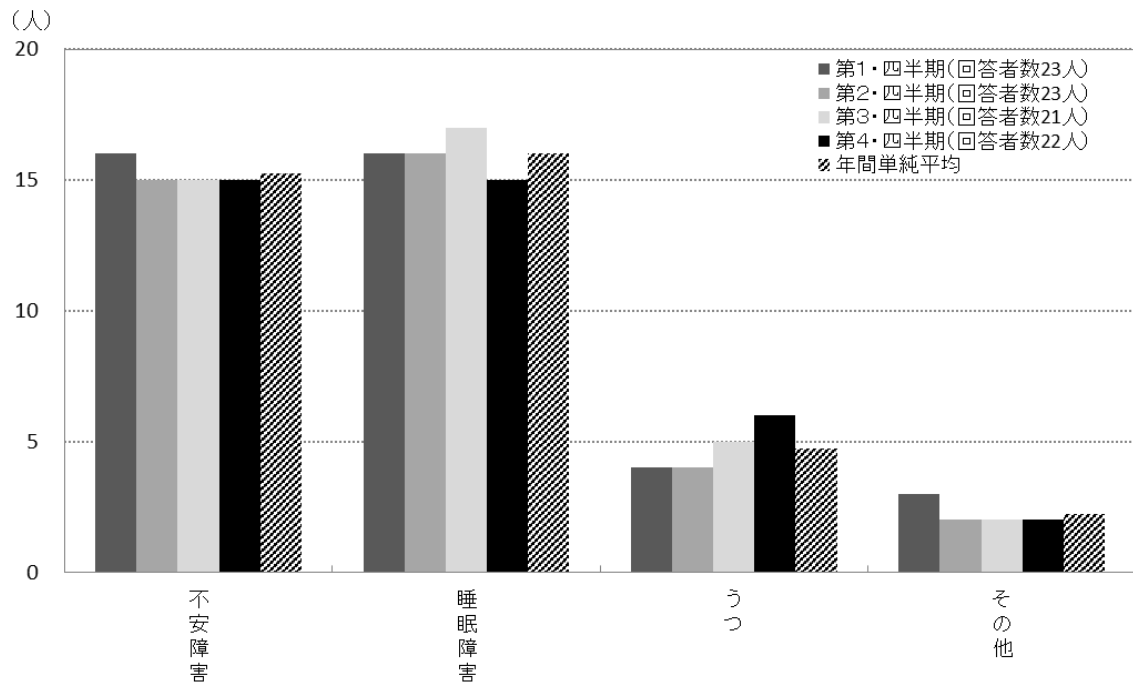


図 2-25 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

⑤-5 視力以外の状況（その他の後遺症等）について

○本人または介護者にたずねた視力以外の状況などについて主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇眼科、皮膚、粘膜関連

- ・ 就寝の時は、コンタクトを（両目）はずして寝るが、常に何か起きた場合（災害、その他）、自分で対処出来るのかと心配している。
- ・ 視力低下がひどいので家の中と周囲をぐるぐる回る生活になってしまうこと。病院通院と買物（介護者補助）必要最低限の生活であること
- ・ 瞼粘膜癒着
- ・ 爪が生えてこないで物がつかみにくい。唾液が出ない。
- ・ 爪の変形、ささくれ
- ・ 肺炎にて入院した。院内は統一されたカラーで一般にはきれいに見えるかもしれないがドアと壁の色のコントラストがはっきりしていると見えやすいと感じる。
- ・ 皮膚の乾燥、かゆみにともなういら立等。爪、顔等衣類で覆い切れない部分の皮膚の肥厚。自分だけでなく、人にも不快感を加え、外出時等同行の介助の人にも気を遣う等、辛い思いがある。
- ・ 指先の皮フがかたいので（爪がないため）点字が読めない。硬貨がわかりにくい 足も同じようにふんばりがきかない

◇口腔及び呼吸器関連

- ・ 体が疲れたり、よけいに会話をすると声がかすれて出にくくなる。食べ物を飲み込むときに、良くかみ砕いた物でも詰まるようになってしまった
- ・ 食べ物を飲み込む時に、のどの通りがどんどん細くなる事と筋力がおちてきているので、飲み込みづらく、物がのどにつかえる。年々ひどくなっている つめがないため指先に力が入らない
- ・ のどがはりつくのか声帯がはりつくのか、普段よりしゃべると声がかすれたり、喉が痛くなる。
- ・ のどの粘膜が過敏になっていて少しの刺激でも咳が出る。外で食事ができない
- ・ 肺マック症、肺アスペルギルス
- ・ 閉塞性細気管支炎とか気管支拡張症とか、喘息と診断されたりしている。
- ・ 耳鼻咽喉科通院（アレルギー鼻炎）、痔の治療投薬
- ・ 後遺症として爪がスプーン症状割れ、舌のただれ、気管支のせき込み常に負担を感じている
- ・ 皮膚や爪が変形している（かゆみ、乾燥）、アトピー性皮膚炎、難聴、気管支炎、ぜん息
- ・ 貧血症、脳梗塞後遺症 食道、胃の炎症 咳と声がれ、タンで困っている 眼も身体も全ての症状が、強くなってきている
- ・ 物を食べるのに必ず水分がないとのみ込めない。爪がないので物をつかむ事がむずかしい。涙が出ないので苦しい。

◇泌尿器関連

- ・ 便秘、頻尿

◇各種痛み

- ・ 肝臓の血管腫、母子関節痛、テニス肘
- ・ 脊柱すべり症による腰、足の痛み。視力障害の為、歩行姿勢が長い間悪かったことが原因？
- ・ 全身の筋肉や関節の痛み。
- ・ 小さな段差でも踏み外すことが多く足首から先が慢性的に痛む
- ・ 末梢循環障害による右手指のしびれ
- ・ 右手 人差し指、中指・薬指のしびれ
- ・ 腰痛
- ・ 慢性的な疲労感。頭痛、全身の関節痛。化学物質過敏症（シックハウス）
- ・ 目が痛いと言の調子が悪い、頭痛が多い、肩が強く凝る、運動不足で血糖値が高め

◇精神的事項

- ・ みえなくなったときを想像すると恐怖でパニック障害に襲われる。

◇その他

- ・ QOL 低下
- ・ 圧迫骨折してから、歩くのに杖がいるようになりました。でもまだ自分の足で歩けるので、毎日時間をかけて散歩に出ていますが、すぐに背中がまがっていく感じであるのが大変です。
- ・ 圧迫骨折により、ストレスがたまり、血圧が上がって、体調をくずす日がありました。
- ・ 骨粗鬆症の予防、糖尿病の予防
- ・ 室内で転倒して大腿骨を骨折してしまった。
- ・ 痔の予防（薬による治療）、子宮筋腫の定期健診
- ・ 食物アレルギー、花粉アレルギー、ハウスダスト
- ・ 脳梗塞後遺症
- ・ てんかん、偏頭痛
- ・ ぶつかった所に紫斑が出来る
- ・ 旅行中に転倒し、足首の剥離骨折。
- ・ 耳がよく聞こえない。歩く事がむずかしい

■ 主たる介護者の状況について

◎主たる介護者

○主たる介護者は以下のとおり。

□年間平均では、「主として介護をしている配偶者」が 51.2%、「主として介護をしている親」が 28.8%となっている

表 2-26 主たる介護者の推移

	主として介護 をしている配 偶者	主として介護 をしている親	主として介護 をしている兄 弟姉妹	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	21	11	1	9	13	42
	50.0%	26.2%	2.4%	21.4%	—	100.0%
第2・四半期	24	13	1	7	12	45
	53.3%	28.9%	2.2%	15.6%	—	100.0%
第3・四半期	20	13	1	8	12	42
	47.6%	31.0%	2.4%	19.0%	—	100.0%
第4・四半期	22	12	1	6	14	41
	53.7%	29.3%	2.4%	14.6%	—	100.0%
年間単純平均	21.8	12.3	1.0	7.5	12.8	42.5
	51.2%	28.8%	2.4%	17.6%	—	100.0%
29年度平均	21.3	12.3	1.8	7.0	11.3	42.3
	50.3%	29.0%	4.1%	16.6%	—	100.0%
28年度平均	22.0	13.8	1.3	6.0	13.0	43.0
	51.2%	32.0%	2.9%	14.0%	—	100.0%
27年度平均	24.3	12.5	1.0	8.5	10.3	46.3
	52.4%	27.0%	2.2%	18.4%	—	100.0%
26年度平均	25.3	17.3	1.8	8.0	12.8	52.3
	48.3%	33.0%	3.3%	15.3%	—	100.0%
25年度平均	28.3	21.5	1.3	7.0	10.5	58.0
	48.7%	37.1%	2.2%	12.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

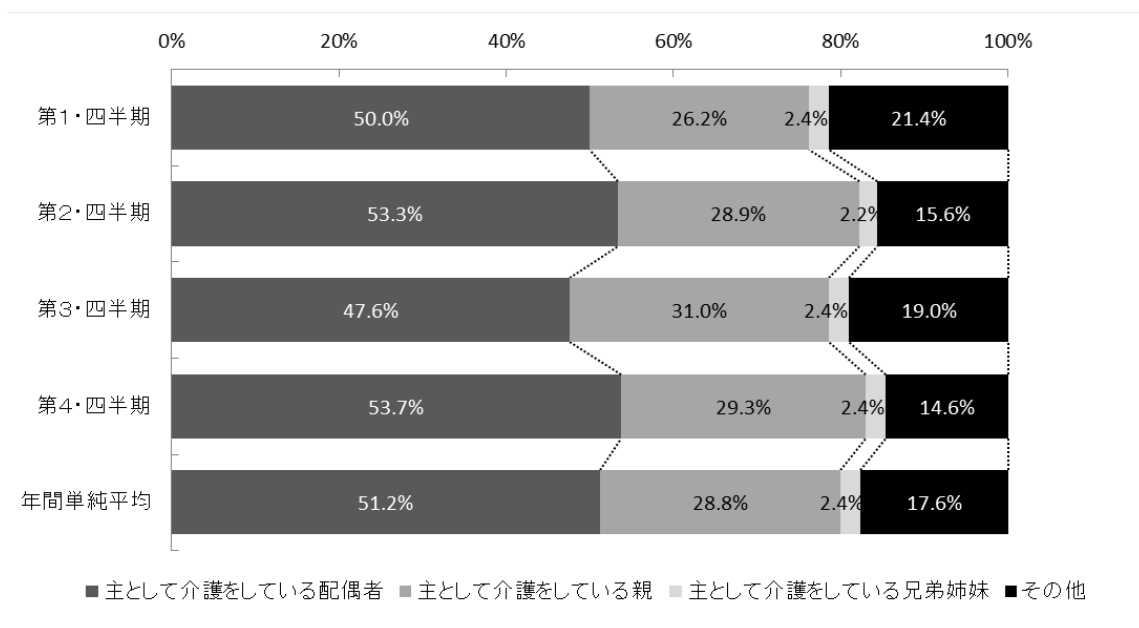


図 2-26 主たる介護者の推移

⑥主たる介護者の健康状態

ア 第1・四半期（回答者 39 人）

- 第1・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が5.1%、「まあ良好」が51.3%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が12.8%、「やや悪い」が30.8%である

イ 第2・四半期（回答者 42 人）

- 第2・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が4.8%、「まあ良好」が57.1%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が16.7%、「やや悪い」が21.4%である

ウ 第3・四半期（回答者 40 人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が5.0%、「まあ良好」が55.0%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が17.5%、「やや悪い」が22.5%である

エ 第3・四半期（回答者 40 人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表2-27及び図2-27のとおり。
- 健康状態が「たいへん良好」が5.0%、「まあ良好」が42.5%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が20.0%、「やや悪い」が32.5%である

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-27及び図2-27のとおり。
- 主な介護者の健康状態については年間の平均では「たいへん良好」が5.0%、「まあ良好」が51.6%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が16.8%、「やや悪い」が26.7%である

表 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

	たいへん良好	まあ良好	やや悪い	たいへん悪い	回答なし	合 計
第1・四半期	2	20	12	5	15	39
	5.1%	51.3%	30.8%	12.8%	—	100.0%
第2・四半期	2	24	9	7	15	42
	4.8%	57.1%	21.4%	16.7%	—	100.0%
第3・四半期	2	22	9	7	14	40
	5.0%	55.0%	22.5%	17.5%	—	100.0%
第4・四半期	2	17	13	8	15	40
	5.0%	42.5%	32.5%	20.0%	—	100.0%
年間単純平均	2.0	20.8	10.8	6.8	14.8	40.3
	5.0%	51.6%	26.7%	16.8%	—	100.0%
29年度平均	1.0	23.3	10.0	6.3	13.0	40.5
	2.5%	57.4%	24.7%	15.4%	—	100.0%
28年度平均	1.3	22.0	12.0	6.8	14.0	42.0
	3.0%	52.4%	28.6%	16.1%	—	100.0%
27年度平均	2.0	24.5	13.5	3.3	13.3	43.3
	4.6%	56.6%	31.2%	7.5%	—	100.0%
26年度平均	2.0	28.8	14.3	5.3	14.8	50.3
	4.0%	57.2%	28.4%	10.4%	—	100.0%
25年度平均	1.5	31.3	17.3	6.3	12.3	56.3
	2.7%	55.6%	30.7%	11.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

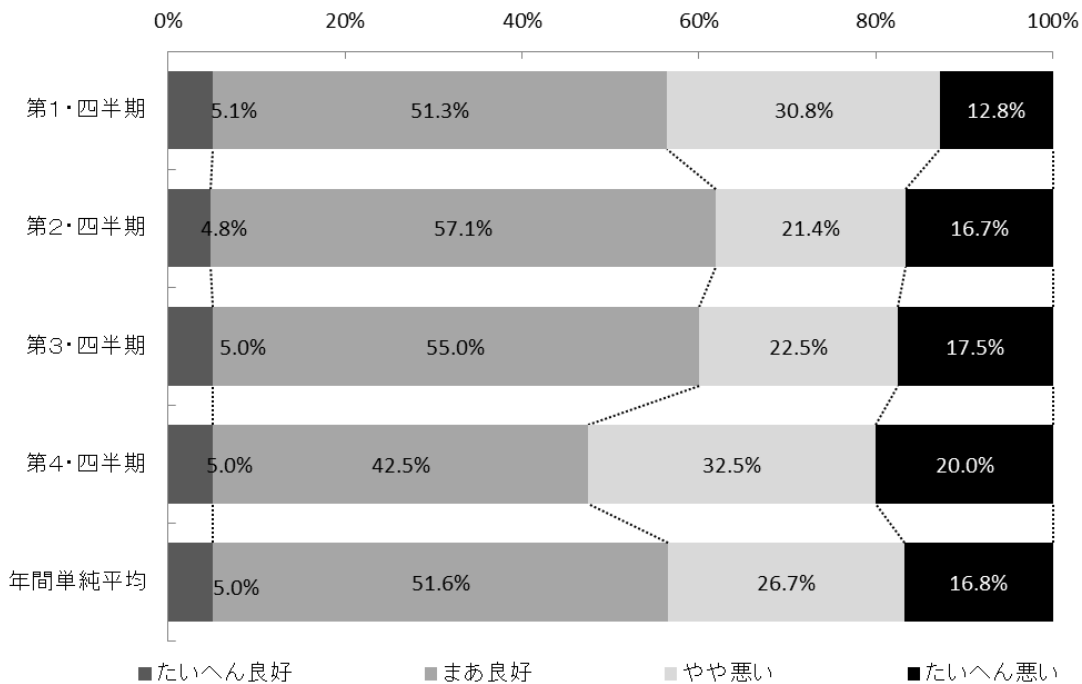


図 2-27 主たる介護者の健康状態の推移

⑥ー1 主たる介護者の健康状態 詳細

○主たる介護者の健康状態についての主な具体的理由については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇介護や仕事による多忙

- ・ 介護疲れ。
- ・ 介護を担当するものとして、生活補助を行わなければならない
- ・ 介助で自分の時間や休息が取れない。
- ・ 高齢の家族、夫の介護、通院付添等、入院手術の立合い等 公的サービスを利用しながらも高齢病人や障害者の付添で大変である
- ・ 今年母親が亡くなり、いろいろと忙しかった。精神的にまいっています。
- ・ 子どもが大きくなり、大変で、しんどいので、体が疲れる
- ・ 仕事、孫たちの世話、介助でやや疲れ気味
- ・ 仕事が忙しく、被介護者に雑にあたっている
- ・ 仕事量が増えたので自分の休憩時間がとりにくくなった。自身の体調不良

◇体調不良、怪我

- ・ 足がつり、ひざが痛く階段が上り下り出来ず困っています。
- ・ 足腰、目も悪く、歩けない時もある
- ・ 兄が入院。母親の引越しの為疲労気味
- ・ インプラントが炎症を起こして通院中
- ・ 足、腰に痛みのあるものの、大きな病気はない。
- ・ 介護者自身も障害者であり、持病の悪化で入院治療（手術）が必要になったため
- ・ 下肢静脈瘤の手術を両足にした。
- ・ 風邪をひいた
- ・ 健康的に悪い所が出てきている
- ・ 自分の病気が悪くなり、病院に行く回数が増えた為
- ・ 自分も健康でないのに、配偶者の面倒をみて、配偶者は不安定（目も肺も）で心配
- ・ 心臓弁膜症（血液の逆流）の疑い
- ・ スギ、ヒノキの花粉症
- ・ 体力の衰え
- ・ 脳梗塞の入院、リハビリ
- ・ ひざが以前から悪く外出つきそいがしんどい
- ・ 膝痛や腰痛、更年期も重なってしんどい時が増えた
- ・ 病気があり年々大変になり、息子に手伝ってもらっている
- ・ 目がうつろ ひざ足歩くのも大変
- ・ 母の入院
- ・ 父親も入院と、毎日の生活パターンが変貌した為

- ・ 父が入院。母と家と病院に行く毎日で体調をくずしました。

◇加齢、障害

- ・ 介護者も身体障害者であり、障害が進行している状況
- ・ 家族の高齢による介護の質が変わって来た。（認知症による暴力） 物理的にも精神的にも大変である
- ・ 加齢による体力の衰え
- ・ 視覚障害の悪化
- ・ 身体障害による悪化（難病）
- ・ 老齡
- ・ 母の老化と体力低下

◇精神

- ・ 主人が精神的に不安定で、介護に疲れてきた。又、将来自分が病気になったりしたら家庭崩壊になるとか考え、不安になる
- ・ 落ち込んでしまった状態が続いている。
- ・ ストレス

◇その他

- ・ 介護があまり負担になっていない
- ・ 介護が必要な時がある
- ・ くよくよしない。ひきずらない。
- ・ 健康に気を付けている（運動・睡眠・食事など）
- ・ 後遺症はあるけど毎日常に体に気を付けてケアをしています
- ・ 生活が充実している
- ・ 楽しく前向きに生活している
- ・ 常に介護が必要なため
- ・ 適度に自分も外出し、ヘルパーさんや人に任せられるところは任せている
- ・ 出来ることは自分でやってもらっている
- ・ トラブルなし
- ・ 寝込むことはなかった
- ・ 年令相応の劣化あるが、通常の生活に支障なし。
- ・ 膝痛や生活習慣病症状があるが、生活に大きな支障はない。
- ・ 毎日運動している
- ・ 良好というほどではないが、悪いということでもないと思う

⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無

ア 第1・四半期（回答者 37 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-28 及び図 2-28 のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 32.4%、「減った」と回答した人は 0.0%であった

□一方で 16.2%の人は、困ったことは「ない」と回答している

イ 第2・四半期（回答者 42 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-28 及び図 2-28 のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 38.1%、「減った」と回答した人は 4.8%であった

□一方で 4.8%の人は、困ったことは「ない」と回答している

ウ 第3・四半期（回答者 40 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-28 及び図 2-28 のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 37.5%、「減った」と回答した人は 7.5%であった

□一方で 12.5%の人は、困ったことは「ない」と回答している

エ 第4・四半期（回答者 39 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-28 及び図 2-28 のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 30.8%、「減った」と回答した人は 2.6%であった

□一方で 10.3%の人は、困ったことは「ない」と回答している

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-28 及び図 2-28 のとおり。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 34.8%、「減った」と回答した人は 3.8%、「変わらない」と回答した人は 50.6%である

□また、困ったことは「ない」と回答した人は 10.8%である

表 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

	困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことが 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
第1・四半期	12	0	19	6	17	37
	32.4%	0.0%	51.4%	16.2%	—	100.0%
第2・四半期	16	2	22	2	15	42
	38.1%	4.8%	52.4%	4.8%	—	100.0%
第3・四半期	15	3	17	5	14	40
	37.5%	7.5%	42.5%	12.5%	—	100.0%
第4・四半期	12	1	22	4	16	39
	30.8%	2.6%	56.4%	10.3%	—	100.0%
年間単純平均	13.8	1.5	20.0	4.3	15.5	39.5
	34.8%	3.8%	50.6%	10.8%	—	100.0%
29年度平均	13.5	1.3	21.8	3.8	13.3	40.3
	33.5%	3.1%	54.0%	9.3%	—	100.0%
28年度平均	13.8	1.5	17.8	8.3	14.8	41.3
	33.3%	3.6%	43.0%	20.0%	—	100.0%
27年度平均	21.8			17.8	17.0	39.5
	55.1%			44.9%	—	100.0%
26年度平均	27.3			19.3	18.5	46.5
	58.6%			41.4%	—	100.0%
25年度平均	28.3			23.8	16.5	52.0
	54.3%			45.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

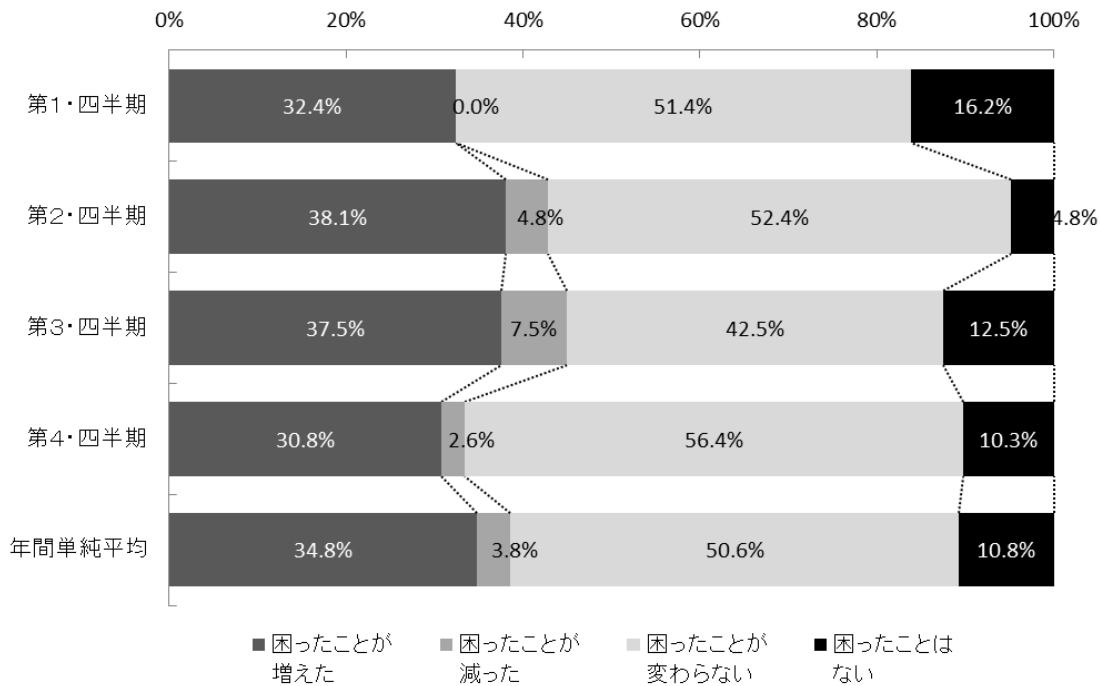


図 2-28 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

⑦-1 介護をしていく中で困ったこと

○「介護をしていく中で困ったことがある」と回答した方の具体的な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇通院、外出

- ・ 外出先でおむつを替えるベッドがない
- ・ 新しい車イスが1日の物と比べて大変重い小回りがうまくできない週3回親が散歩へ外へ出るのが大変疲れる
- ・ 介助することが増えた→外出時の同行支援、見えないのでいろいろ確認、PC トーカーの操作方法を教える
- ・ 入院しなくてはならなくなり、ショートステイに預けたが、やはり家族とはちがう環境になれるのに時間が必要
- ・ 買い物に行っても、母と荷物、色々とささえなくてはいけないので、体力が大変です

◇体調不良、加齢

- ・ 老齢となり、体重が増えている息子の介助は負担が大きい。
- ・ お互い年をとって体力がおちているため疲れる
- ・ けいれんが最近ひんぱんに起こるようになった
- ・ ヒザ関節炎の為介護ではなく家事などが出来なくなってきた
- ・ 意思疎通がはかりにくくなってきた
- ・ 加齢による体力の衰え
- ・ 家族の加齢による難聴と認知症
- ・ 介護する本人の体が弱ってきてから歩くのが大変弱って来ている
- ・ 介護者が体調をこわした時
- ・ 記入をしている私が高齢の為、何かあった時は上の娘の手を借りることが多く、加えて孫の運転に心配している有様
- ・ 健康ではないから、自分も何でもできる訳ではないのに、配偶者の状態（具合）が悪く（目や肺）なっても、なかなか対応できない
- ・ 高齢の為身体が思う様に動かなくなり、時間ばかり早急に過ぎて行く。
- ・ 今までも、膝関節痛など持病があったが、今回腫瘍が見つかり命を考える出来事ができた
- ・ 自身の体調不良
- ・ 失語であり、言語のコミュニケーションがむずかしくなった
- ・ 障害が進行しているため、出来る事が減ってきたため
- ・ 体調が悪くても介護しなくてはいけない（インフルエンザにかかった）
- ・ 年を取って行くため、今まで出来ていた事がむずかしくなって来た。
- ・ 父も母も年とともに聞き取りにくく、伝えることにつかれます
- ・ 物忘れ、イライラ、徘徊
- ・ 母 老化。然し、せめて母の手でと頑張っている事が母の健康になっている

- ・ 毎日ではないですが足が痛くなったりするので抱く時が大変
- ・ 目の状態が良くなることもないし、年齢も増すと体力も落ちてくるいろいろな大変です
- ・ 冬場など、入浴のことなど一人でしているのが、心配。年々視力もそうだが、年のせいもあると思うが、転倒が心配。ぶつかることも多い。

◇仕事、多忙

- ・ 仕事の都合で介護できない時がある
- ・ 仕事を休めない。
- ・ 時間を作る事。急な用事で休む事になったが、会社の上司に理解を得られない
- ・ 自分達の学生生活（部活、アルバイト）で、時間の融通がつかない事時。

◇その他

- ・ 介助に手が回らない時がある
- ・ 介助の時間的に応えられないことがある
- ・ 急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった。
- ・ 健康被害者は運命共同体
- ・ 困ったことではないですが明、暗がわからなくなってきたので電気をつけなくなった
- ・ 自身で出来る事が減り、不安で精神的にもつらい
- ・ 自分で行動できないこと。
- ・ 自分の事が出来ているので変化なく生活している。
- ・ 信頼のできる医師に出会えない
- ・ 全く見えなく成り自分の事が出来ない
- ・ 代わりの介助者がいない
- ・ 不便が増えると要求が増えます。先手必勝で介護できればいいのですが いつも後手後手で叱られております。
- ・ 父が亡くなったので自分が世話をしなければならないので大変です
- ・ 母と兄の介護もしなければならない
- ・ 暴力、失禁。他の家族の介護の内容が変わり、体力的にも精神的にもホームヘルパーを利用しても毎日の事には追つかない
- ・ 本人のイライラが増えた
- ・ 本人の体重があるので抱えるのに人手がいる
- ・ 本人は座位も出来ぬのに本人は食べることは必死でよく食べ、体重増加の為フロ入れが 4 人がかりでも大変になってきた。
- ・ 本人以外にも身内が病院に入院した。
- ・ 目がみえない為、あれこれ質問される事がふえた為、自由時間が減った。

⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか

ア 第1・四半期（回答者 15 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 40.0%、「配偶者」が 20.0%、「友人・知人」と「公的機関の職員等」が 13.3%となっている
- 「相談する人はいない」は 33.3%であった

イ 第2・四半期（回答者 20 人）

- 第2・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」が 45.0%、「子ども」が 30.0%、「兄弟姉妹」が 20.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 25.0%であった

ウ 第3・四半期（回答者 16 人）

- 第3・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 56.3%、「配偶者」と「友人・知人」が 31.3%となっている
- 「相談する人はいない」は 25.0%であった

エ 第4・四半期（回答者 23 人）

- 第4・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「配偶者」と「子ども」と「友人・知人」が 25.0%となっている
- 「相談する人はいない」は 30.0%であった

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-29 及び図 2-29 のとおり（複数回答）。
- 「子ども」が 36.6%、「配偶者」が 31.0%、「友人・知人」が 19.7%となっている
- 「相談する人はいない」は 28.2%であった

表 2-29 困ったときの相談の有無の推移

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	幼稚園・保育園等の先生	学校の先生	医師	看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
第1・四半期	0	3	6	0	0	2	0	—	0	0	1	2	0	2	0	1	2	5	16	15
	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	—	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	0.0%	13.3%	0.0%	6.7%	13.3%	33.3%	—	—
第2・四半期	1	9	6	4	0	2	0	—	0	3	1	3	0	1	1	1	1	5	20	20
	5.0%	45.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	—	0.0%	15.0%	5.0%	15.0%	0.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	25.0%	—	—
第3・四半期	0	5	9	1	1	5	0	—	0	5	1	0	0	1	2	0	1	4	19	16
	0.0%	31.3%	56.3%	6.3%	6.3%	31.3%	0.0%	—	0.0%	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%	0.0%	6.3%	25.0%	—	—
第4・四半期	1	5	5	1	0	5	0	—	0	2	0	3	1	1	1	0	0	6	15	20
	5.0%	25.0%	25.0%	5.0%	0.0%	25.0%	0.0%	—	0.0%	10.0%	0.0%	15.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	30.0%	—	—
年間単純平均	0.5	5.5	6.5	1.5	0.3	3.5	0.0	—	0.0	2.5	0.8	2.0	0.3	1.3	1.0	0.5	1.0	5.0	17.5	17.8
	2.8%	31.0%	36.6%	8.5%	1.4%	19.7%	0.0%	—	0.0%	14.1%	4.2%	11.3%	1.4%	7.0%	5.6%	2.8%	5.6%	28.2%	—	—
29年度平均	2.0	6.3	6.8	1.5	0.8	4.0	0.0	—	0.3	2.0	0.8	2.5	0.0	2.3	0.8	1.0	1.5	4.5	14.5	22.0
	9.1%	28.4%	30.7%	6.8%	3.4%	18.2%	0.0%	—	1.1%	9.1%	3.4%	11.4%	0.0%	10.2%	3.4%	4.5%	6.8%	20.5%	—	—
28年度平均	2.0	6.8	8.0	1.8	0.8	4.5	0.0	—	2.3	2.8	1.8	2.3	0.5	1.8	1.8	1.0	1.5	5.8	10.0	23.0
	8.7%	29.3%	34.8%	7.6%	3.3%	19.6%	0.0%	—	9.8%	12.0%	7.6%	9.8%	2.2%	7.6%	7.6%	4.3%	6.5%	25.0%	—	—
27年度平均	1.3	4.5	6.5	1.3	0.5	4.3	0.0	0.0	1.0	0.8	0.5	1.8	—	2.0	—	—	2.0	4.5	2.5	19.3
	6.5%	23.4%	33.8%	6.5%	2.6%	22.1%	0.0%	0.0%	5.2%	3.9%	2.6%	9.1%	—	10.4%	—	—	10.4%	23.4%	—	—
26年度平均	1.5	5.3	8.8	2.3	1.0	4.5	0.3	0.3	3.0	3.5	2.0	1.8	—	2.0	—	—	3.5	4.8	1.8	25.5
	5.9%	20.6%	34.3%	8.8%	3.9%	17.6%	1.0%	1.0%	11.8%	13.7%	7.8%	6.9%	—	7.8%	—	—	13.7%	18.6%	—	—
25年度平均	2.8	7.5	9.0	2.0	0.8	3.5	0.0	0.0	2.5	2.5	2.3	1.3	—	1.5	—	—	2.8	4.0	1.3	27.0
	10.2%	27.8%	33.3%	7.4%	2.8%	13.0%	0.0%	0.0%	9.3%	9.3%	8.3%	4.6%	—	5.6%	—	—	10.2%	14.8%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

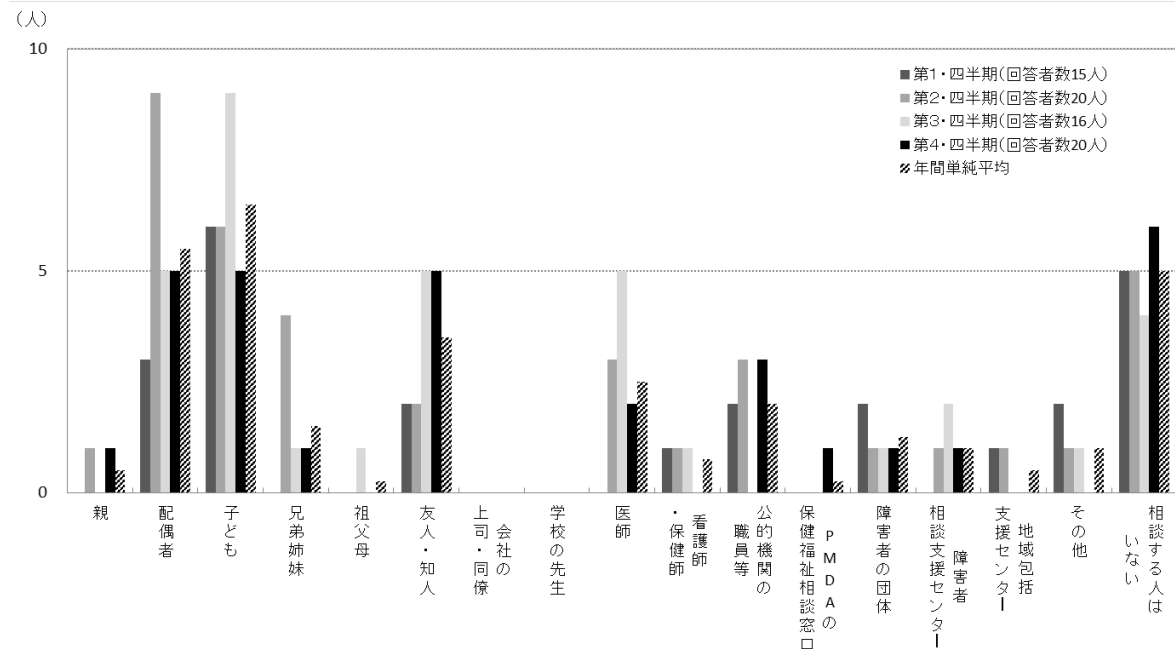


図 2-29 困ったときの相談の有無の推移

⑦-3 解決策の有無

ア 第1・四半期（回答者 18 人）

○介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。

□「解決した」と回答した人は 33.3%、「解決していない」と回答した人は 66.7%であった

イ 第2・四半期（回答者 21 人）

○第2・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。

□「解決した」と回答した人は 33.3%、「解決していない」と回答した人は 66.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 23 人）

○第3・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。

□「解決した」と回答した人は 21.7%、「解決していない」と回答した人は 78.3%であった

エ 第4・四半期（回答者 17 人）

○第4・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。

□「解決した」と回答した人は 29.4%、「解決していない」と回答した人は 70.6%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-30 及び図 2-30 のとおり。

□「解決した」と回答した人は 29.1%、「解決していない」と回答した人は 70.9%であった

表 2-30 解決策の有無の推移

	解決した	解決していない	回答なし	合 計
第1・四半期	6	12	13	18
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第2・四半期	7	14	19	21
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第3・四半期	5	18	12	23
	21.7%	78.3%	—	100.0%
第4・四半期	5	12	18	17
	29.4%	70.6%	—	100.0%
年間単純平均	5.8	14.0	15.5	19.8
	29.1%	70.9%	—	100.0%
29年度平均	6.5	13.0	17.0	19.5
	33.3%	66.7%	—	100.0%
28年度平均	5.5	15.3	12.3	20.8
	26.5%	73.5%	—	100.0%
27年度平均	9.3	9.8	2.8	19.0
	48.7%	51.3%	—	100.0%
26年度平均	11.0	14.5	1.8	25.5
	43.1%	56.9%	—	100.0%
25年度平均	8.5	17.8	2.0	26.3
	32.4%	67.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

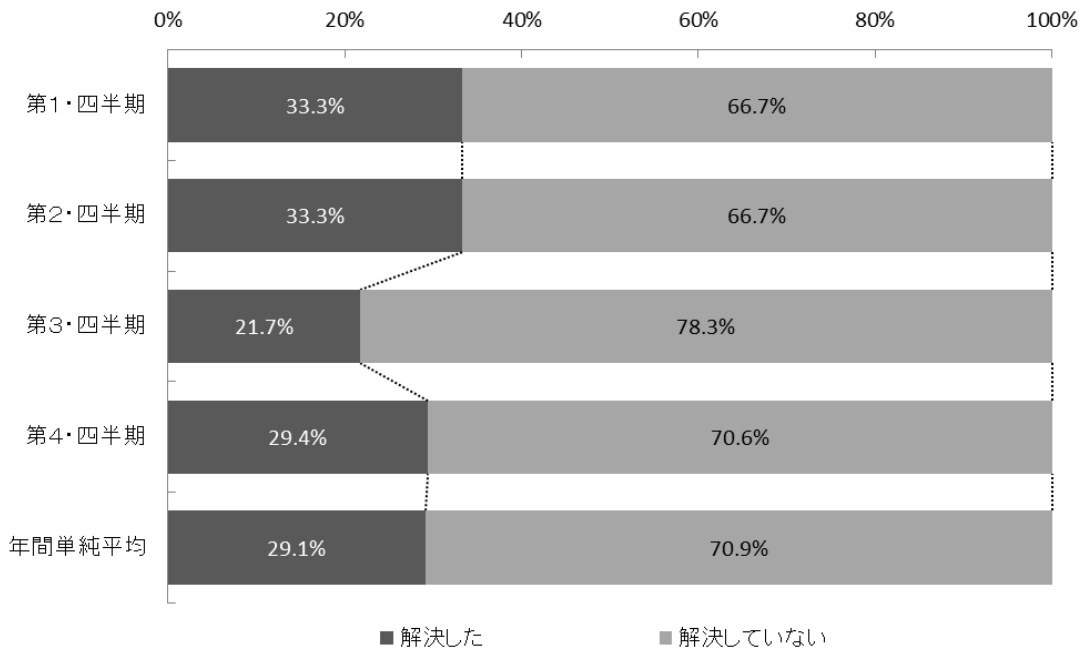


図 2-30 解決策の有無の推移

⑦-4 困ったことの解決策

○介護をしていく中での主な具体的解決策については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
仕事の都合で介護できない時がある	介護を娘に頼んだ
毎日ではないですが足が痛くなったりするので抱く時が大変	ショートの利用を増すようにする
新しい車イスが重く移動(回転や小段差)が大変	前輪を違うタイプのものに変えた
入院しなくてはならなくなり、ショートステイに預けたが、やはり家族とはちがう環境になれるのに時間が必要	相談できる場所があった
物忘れ、イライラ、徘徊	内服でやや落ち着く
父が亡くなったので自分が世話をしなければならぬので大変です	日常的に話をして解決しています。
今までも、膝関節痛など持病があったが、今回腫瘍が見つかり命を考える出来事ができた	母入院にあたり多くの人に相談と今後のお願いなどした。いろんな支援へつないでいただいた。親亡き後も心配ですが心強かった。
買い物に行っても、母と荷物、色々とささえなくてはいけないので、体力が大変です	まわりの人々にたすけられています。
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した
仕事の都合で介護できない時がある	息子の妻に代行してもらった
介助に手が回らない時がある	娘に介助(同行) してもらった
介助の時間的に応えられないことがある	娘に代わってもらった

⑦-5 困ったことの解決方法

○主たる介護者にたずねた、困ったことの主な具体的解決方法については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
体重が増えている息子の介助は負担が大きい。	外泊しない。
けいれんが最近ひんぱんに起こるようになった	抗けいれん剤を処方してもらったので、薬をしっかりとのんで、様子をみていく。
意思疎通がはかりにくくなってきた	わからない。
加齢による体力の衰え	解らない
家族の加齢による難聴と認知症	本人が認知症である事を認めない。失禁等介助が必要
介護する本人がの体が弱って来ているため、歩くのが大変弱って来ている	分らない
介護者が体調をこわした時	少しは手伝ってもらえますが、家族も仕事があるので介護している本人ががんばらないといけない
介助することが増えた→外出時の同行支援、見えないのでいろいろ確認、PC トーカーの操作方法を教える	慣れる、覚える
外出先でおむつを替えるベッドがない	身障害者用のトイレに横になれるイスやベッドを置いてほしい
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	患者の会で病院や護施設の情報交換をした
健康ではないから、自分も何でもできる訳ではないのに、配偶者の状態（具合）が悪く（目や肺）なっても、なかなか対応できない	PMDA が、昭和 55 年以前の被害者も救済してくれれば、そのお金で、民間企業に頼む事が出き解決できると思う。
高齢の為	わからない。
仕事を休めない。	よくわかりません。
時間を作る事・急な用事で休む事になったが、会社の上司に理解を得られない	不明

自身に出来る事が減り、不安で精神的にもつらい	自身治療中ではあるが、健康被害者の視力回復が少しでも希望がもてれば、と思う。経済的にも障害者年金のみでは不安
自身の体調不良	自身の障害は解決出来ないが、健康被害者の視力回復が少しでもあれば介護が楽になるのではないと思う、また経済的な不安もある
自分で行動できないこと。	行動範囲が狭いのはやむを得ない
失語であり、言語のコミュニケーションがむずかしくなった	失語リハビリに通院している
失語のため、コミュがうまく出来ない	自分の仕事量をへらす。
障害が進行しているため、出来る事が減ってきたため	障害の進行について不安なため 経済的不安（障害年金のみ）
信頼のできる医師に出会えない	良くわからない
新しい車イスが1日の物と比べて大変重い。小回りがうまくできない。週3回親が散歩や外に出るのが大変疲れる	前輪を違うタイプの物に変えてみた。
体調が悪くても介護しなくてはいけない（インフルエンザにかかった）	他の人に移してもいけないから、結局自分で介護するしかない
体力がなくなった。	公的支援。
年を取って行くため、とても大変になって来た。（今まで出来ていた事がむずかしくなって来た）	現在のところまだわかりません
不便が増えると要求が増えます。先手必勝で介護できればいいのですが いつも後手後手で叱られております。	本人の（視力低下）が改善出来ればよいが望めない。従って、このアンケートに回答を寄せて、平素のささやかな努力の一端を報告します次第であります。
父も母も年とともに聞き取りにくく、伝えることにつかれます	分かりません
母 老化。然し、せめて母の手でと頑張っている事が母の健康になっている	座位、会話不能故、他人の介ゴ者では無理
母と兄の介護もしなければならない	まだこれから。はじまっていない。
暴力、失禁。他の家族の介護の内容が変わり、体力的にも精神的にもホームヘルパーを利用しても毎日の事には追つかない	近くに住む身内も病氣入院等認知症で見守りが必要

本人の体重があるので抱えるのに人手がいる	食事のコントロールや体重維持をする
本人以外にも身内が病院に入院した。	いろんな公的制度をあらゆるところで利用していく
目がみえない為、あれこれ質問される事がふえた為、自由時間が減った。	不明

⑧ 主たる介護者を支えるものの有無

ア 第1・四半期（回答者 25 人）

○第1・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおり。

□「あった」と回答した人は 64.0%、「なかった」と回答した人は 36.0%であった

イ 第2・四半期（回答者 28 人）

○第2・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおり。

□「あった」と回答した人は 57.1%、「なかった」と回答した人は 42.9%であった

ウ 第3・四半期（回答者 29 人）

○第3・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおり。

□「あった」と回答した人は 58.6%、「なかった」と回答した人は 41.4%であった

エ 第4・四半期（回答者 31 人）

○第4・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおり。

□「あった」と回答した人は 71.0%、「なかった」と回答した人は 29.0%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-31 及び図 2-31 のとおり。

□「あった」と回答した人は 62.8%、「なかった」と回答した人は 37.2%であった

表 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	16	9	29	25
	64.0%	36.0%	—	100.0%
第2・四半期	16	12	29	28
	57.1%	42.9%	—	100.0%
第3・四半期	17	12	25	29
	58.6%	41.4%	—	100.0%
第4・四半期	22	9	24	31
	71.0%	29.0%	—	100.0%
年間単純平均	17.8	10.5	26.8	28.3
	62.8%	37.2%	—	100.0%
29年度平均	16.0	11.8	25.8	27.8
	57.7%	42.3%	—	100.0%
28年度平均	16.5	13.0	26.5	29.5
	55.9%	44.1%	—	100.0%
27年度平均	18.0	16.0	22.5	34.0
	52.9%	47.1%	—	100.0%
26年度平均	22.0	19.5	23.5	41.5
	53.0%	47.0%	—	100.0%
25年度平均	22.5	22.0	24.0	44.5
	50.6%	49.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

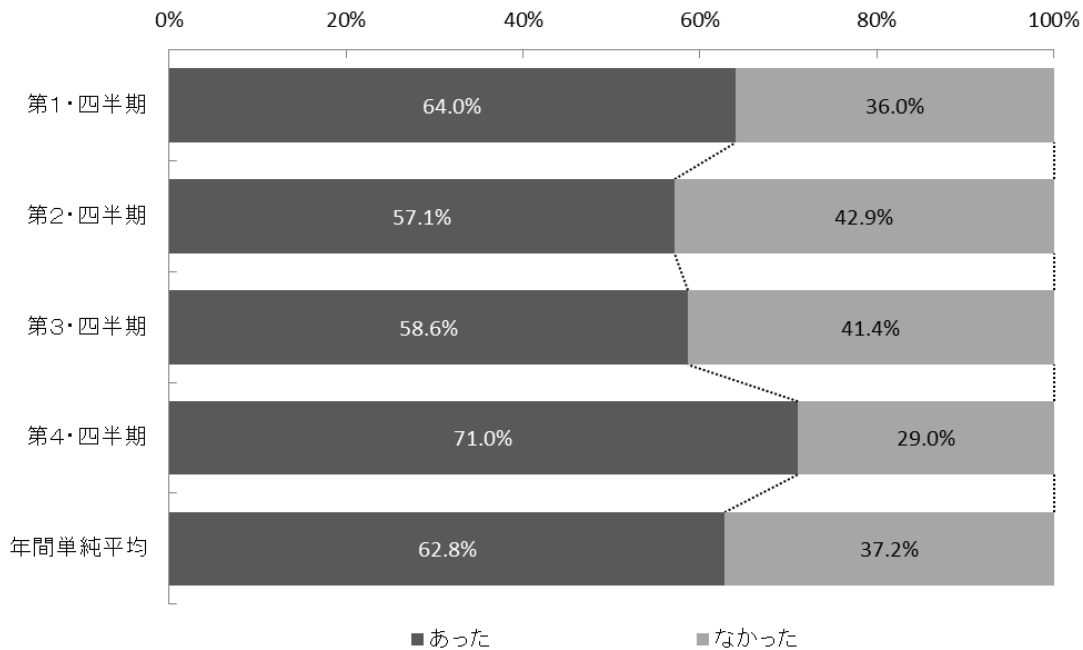


図 2-31 主たる介護者を支えるものの有無の推移

⑧ー1 介護者を支えるもの 具体的内容

○主たる介護者を支える主な具体的内容については、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 家族
 - ・ 夫
 - ・ 子供、兄弟
 - ・ 息子、娘に来てもらう
2. 知人・友人
 - ・ 友人・知人との会話
 - ・ 近所の人
 - ・ 友人と食事に行った
3. ヘルパー・デイサービス
 - ・ ヘルパーさん、訪看さん
 - ・ ケアマネージャー、介護事業所の連携
 - ・ 地域包括、ヘルパー事務所のケアマネージャーなど
4. 患者会
 - ・ SJS 患者会の特報交換、全国各地に同じ悩みを抱えた人々が体験している共通の苦しみ
 - ・ 障害者を持つ親の会
 - ・ 患者の会で病院や介護施設の情報交換をした
5. 公的な機関・制度
 - ・ 公的制度
 - ・ 市の制度を使っていく予定
6. 趣味・外出など
 - ・ 家族、友人らとの食事会
 - ・ 友人との旅行
 - ・ 趣味（文学・パソコン）教室

⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 38 人）

○ 第1・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.7%、行っていない人が 26.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 41 人）

○ 第2・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.2%、行っていない人が 26.8%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 41 人）

○ 第3・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 70.7%、行っていない人が 29.3%となっている

エ 第4・四半期（回答者 39 人）

○ 第4・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 69.2%、行っていない人が 30.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-32 及び図 2-32 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間平均では、行っている人が 71.7%、行っていない人が 28.3%となっている

表 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	28	10	16	38
	73.7%	26.3%	—	100.0%
第2・四半期	30	11	16	41
	73.2%	26.8%	—	100.0%
第3・四半期	29	12	13	41
	70.7%	29.3%	—	100.0%
第4・四半期	27	12	16	39
	69.2%	30.8%	—	100.0%
年間単純平均	28.5	11.3	15.3	39.8
	71.7%	28.3%	—	100.0%
29年度平均	28.0	12.3	13.3	40.3
	69.6%	30.4%	—	100.0%
28年度平均	28.5	12.3	15.3	40.8
	69.9%	30.1%	—	100.0%
27年度平均	31.0	12.5	13.0	43.5
	71.3%	28.7%	—	100.0%
26年度平均	32.8	14.3	18.0	47.0
	69.7%	30.3%	—	100.0%
25年度平均	37.3	17.0	14.3	54.3
	68.7%	31.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

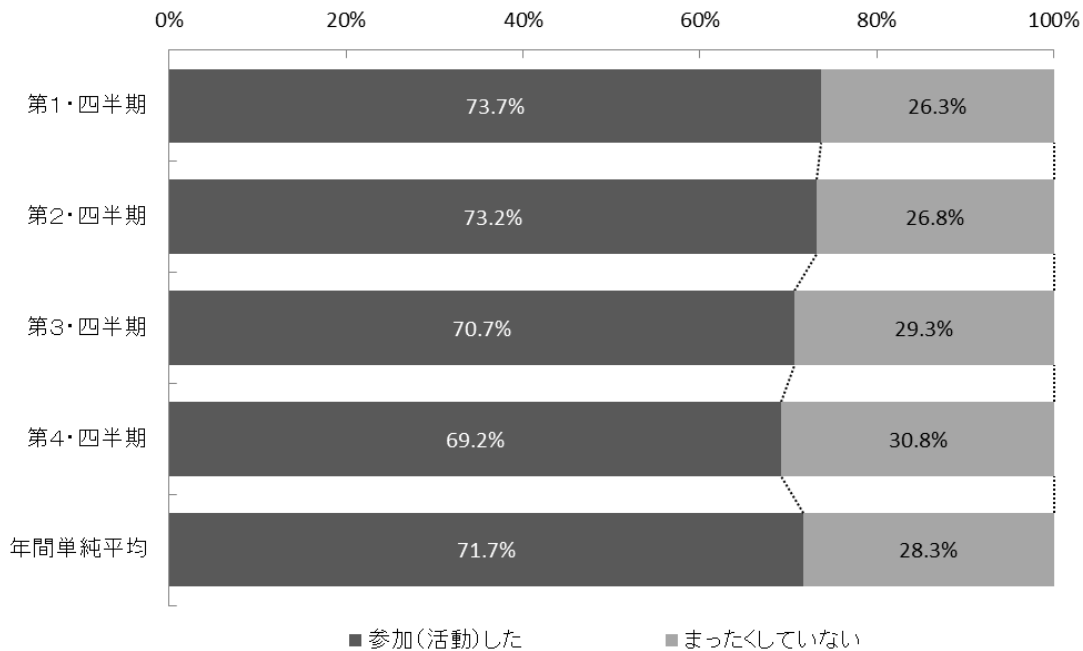


図 2-32 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 6 人）

○ 社会参加や社会活動などを行わなかったと答えた人にその理由を求めた（以下、同じ）。

第1・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-33 及び図 2-33 のとおり。

□ 「体力的に余裕なし」が 50.0%、「時間的・経済的に余裕なし」が 16.7%となっている

□ その他としては、「視覚障害の息子の介助は助けてもらえても夫の毎日数回の介助と食事（買物含む）は無理。」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 8 人）

○ 第2・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-33 及び図 2-33 のとおり。

□ 「体力的に余裕なし」が 62.5%、「時間的・経済的に余裕なし」が 12.5%となっている

□ その他としては、「要介護 2 の親が夫と息子の世話をするのは体力的にも負担である。」「仕事をしていたため」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 13 人）

第3・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-33 及び図 2-33 のとおり。

□ 「体力的に余裕なし」が 53.8%、「時間的・経済的に余裕なし」が 23.1%となっている

□ その他としては、「1 人では行けないから」「精神的に余裕がなかった」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 7 人）

○ 第4・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-33 及び図 2-33 のとおり。

□ 「時間的・経済的に余裕なし」「体力的に余裕なし」が 45.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-33 及び図 2-33 のとおり。

□ 社会参加・社会活動などを行わなかった理由の年間平均では、「時間的・経済的に余裕なし」が 26.3%、「体力的に余裕なし」が 52.6%となっている

表 2－33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	時間的・経済的に余裕なし	体力的に余裕なし	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	1	3	2	4	6
	16.7%	50.0%	33.3%	—	100.0%
第2・四半期	1	5	2	3	8
	12.5%	62.5%	25.0%	—	100.0%
第3・四半期	3	7	3	2	13
	23.1%	53.8%	23.1%	—	100.0%
第4・四半期	5	5	1	3	11
	45.5%	45.5%	9.1%	—	100.0%
年間単純平均	2.5	5.0	2.0	3.0	9.5
	26.3%	52.6%	21.1%	—	100.0%
29年度平均	4.0	3.3	1.5	3.0	8.8
	45.7%	37.1%	17.1%	—	100.0%
28年度平均	3.0	2.0	4.3	1.3	9.3
	32.4%	21.6%	45.9%	—	100.0%
27年度平均	1.8	3.8	4.0	1.3	9.5
	18.4%	39.5%	42.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

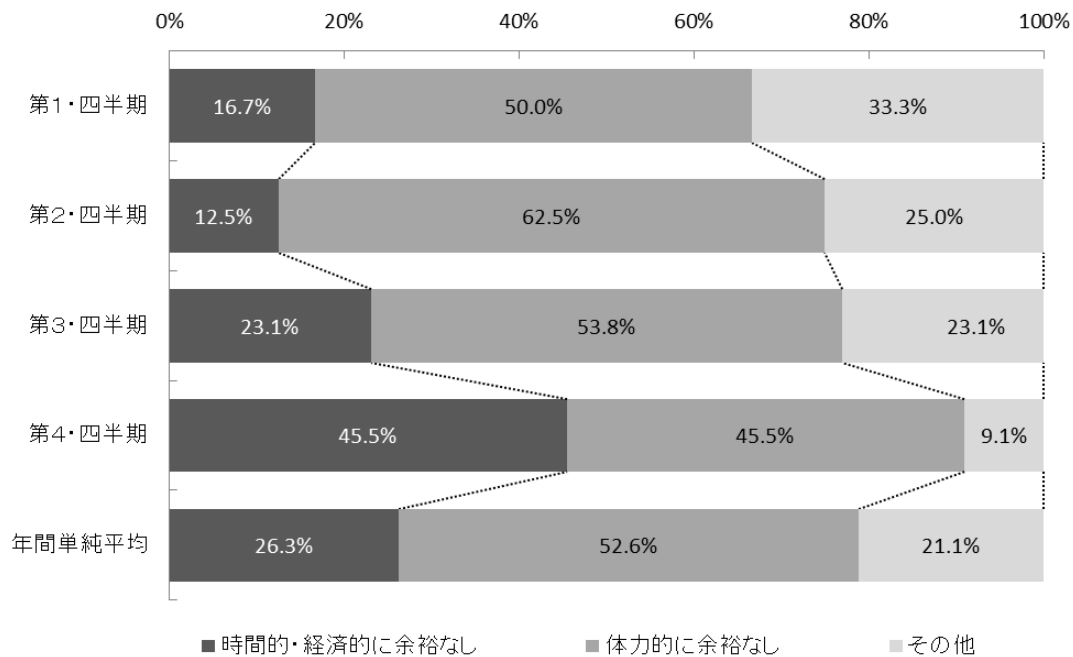


図 2－33 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

⑨ー２ 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○主たる介護者の社会参加・社会活動の主なきっかけについては、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇体力的・時間的余裕

- ・ 時間的・体力的に余裕が出来たため。

◇家族・友人・地域

- ・ 親が健康でいる為
- ・ 知人との情報交換、ネット
- ・ 友人、知人からの勧めがあった
- ・ 友人からの誘い、親が行きたいところへの同行
- ・ 友人の誘いや大学活動(クラブ)等で大いに楽しんだ

◇旅行

- ・ 家族で旅行

◇運動

- ・ 学区の卓球の練習に参加
- ・ 地域の体育振興会の方に卓球の試合（地域大会）に誘われて参加しました。

◇買い物

- ・ 散歩、買物

◇趣味

- ・ コンサートに同行
- ・ 趣味の活動
- ・ 上記教室、地域活動
- ・ 中学より楽器を習っており、叔母のお寺の後継ぎがいなかったため
- ・ 文学教室、パソコン教室、宗教活動。

◇その他

- ・ 介護と並行して生きていかなければならない
- ・ 健康が大切なので
- ・ ストレス発散の為
- ・ 何もしなければ介護でストレスがたまる

⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 24 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 54.2%、「友達との遊び」が 37.5%となっている
- その他としては、「散歩」「アルバイト、法要の手伝い」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 27 人）

- 第2・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」と「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 55.6%、「友達との遊び」が 40.7%となっている
- その他としては、「散歩」「ガーデニング」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 26 人）

- 第3・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 65.4%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 57.7%、「友達との遊び」が 42.3%となっている
- その他としては、「海外演奏旅行」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 24 人）

- 第4・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表 2-34 及び図 2-34 のとおり（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 50.0%、「地域活動」が 45.8%、「趣味の同好会活動」と「友達との遊び」が 41.7%、となっている
- その他としては、「散歩、ハイキングなど」「温泉」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-34及び図2-34のとおり（複数回答）。

□「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が54.5%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が53.5%、「友達との遊び」が40.6%となっている

表2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特になし	回答なし	回答者数
第1・四半期	13	7	13	5	2	5	7	5	9	3	—	4	24
	54.2%	29.2%	54.2%	20.8%	8.3%	20.8%	29.2%	20.8%	37.5%	12.5%	—	—	—
第2・四半期	15	4	15	9	3	1	6	3	11	2	—	3	27
	55.6%	14.8%	55.6%	33.3%	11.1%	3.7%	22.2%	11.1%	40.7%	7.4%	—	—	—
第3・四半期	17	5	15	6	4	3	8	3	11	3	—	3	26
	65.4%	19.2%	57.7%	23.1%	15.4%	11.5%	30.8%	11.5%	42.3%	11.5%	—	—	—
第4・四半期	9	5	12	10	3	3	11	3	10	2	—	3	24
	37.5%	20.8%	50.0%	41.7%	12.5%	12.5%	45.8%	12.5%	41.7%	8.3%	—	—	—
年間単純平均	13.5	5.3	13.8	7.5	3.0	3.0	8.0	3.5	10.3	2.5	—	3.3	25.3
	53.5%	20.8%	54.5%	29.7%	11.9%	11.9%	31.7%	13.9%	40.6%	9.9%	—	—	—
29年度平均	11.0	5.8	11.0	8.0	5.3	3.8	8.0	4.0	9.3	2.5	—	0.0	28.0
	39.3%	20.5%	39.3%	28.6%	18.8%	13.4%	28.6%	14.3%	33.0%	8.9%	—	—	—
28年度平均	12.3	8.5	12.5	7.5	4.0	2.5	8.5	3.5	9.8	4.8	—	0.3	28.3
	43.4%	30.1%	44.2%	26.5%	14.2%	8.8%	30.1%	12.4%	34.5%	16.8%	—	—	—
27年度平均	13.3	7.5	14.3	8.8	4.3	4.0	3.0	2.5	—	6.0	0.0	0.5	30.5
	43.4%	24.6%	46.7%	28.7%	13.9%	13.1%	9.8%	8.2%	—	19.7%	0.0%	—	—
26年度平均	13.0	7.5	12.3	7.0	3.8	4.0	8.0	3.0	—	8.5	0.3	0.0	31.0
	41.9%	24.2%	39.5%	22.6%	12.1%	12.9%	25.8%	9.7%	—	27.4%	0.8%	—	—
25年度平均	13.5	6.8	15.5	7.3	1.8	6.5	4.5	3.8	—	9.5	0.0	0.0	37.3
	36.2%	18.1%	41.6%	19.5%	4.7%	17.4%	12.1%	10.1%	—	25.5%	0.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

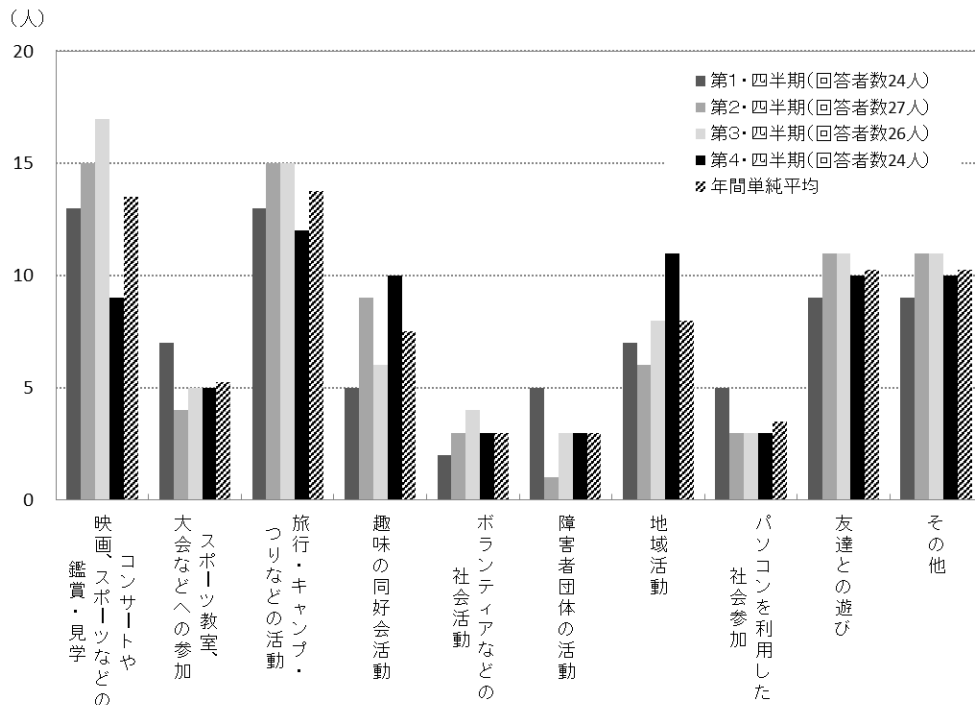


図2-34 社会参加・社会活動等の内容の推移

⑩ 新しい発見や気分転換などの有無

ア 第1・四半期（回答者 32 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-35 及び図 2-35 のとおり。

□「あった」と回答した人は 37.5%、「なかった」と回答した人は 62.5%であった

イ 第2・四半期（回答者 36 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-35 及び図 2-35 のとおり。

□「あった」と回答した人は 33.3%、「なかった」と回答した人は 66.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 35 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-35 及び図 2-35 のとおり。

□「あった」と回答した人は 37.1%、「なかった」と回答した人は 62.9%であった

エ 第4・四半期（回答者 32 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-35 及び図 2-35 のとおり。

□「あった」と回答した人は 40.6%、「なかった」と回答した人は 59.4%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-35 及び図 2-35 のとおり。

□介護をしていく中で新しい発見や気分転換などの有無については、年間の平均では「あった」が 37.0%、「なかった」が 63.0%であった

表 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	12	20	22	32
	37.5%	62.5%	—	100.0%
第2・四半期	12	24	21	36
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第3・四半期	13	22	19	35
	37.1%	62.9%	—	100.0%
第4・四半期	13	19	23	32
	40.6%	59.4%	—	100.0%
年間単純平均	12.5	21.3	21.3	33.8
	37.0%	63.0%	—	100.0%
29年度平均	13.3	19.3	21.0	32.5
	40.8%	59.2%	—	100.0%
28年度平均	13.8	21.5	20.8	35.3
	39.0%	61.0%	—	100.0%
27年度平均	14.5	21.8	20.3	36.3
	40.0%	60.0%	—	100.0%
26年度平均	14.5	27.8	22.8	42.3
	34.3%	65.7%	—	100.0%
25年度平均	20.0	27.3	21.3	47.3
	42.3%	57.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

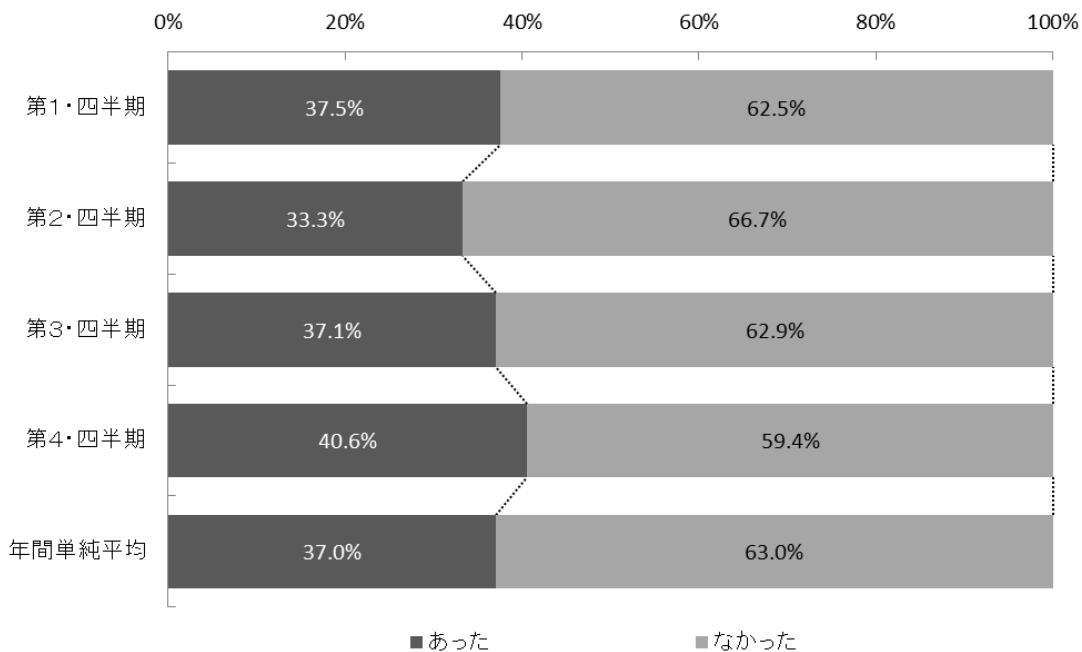


図 2-35 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

⑩ー1 新しい発見や気分転換について

○⑩で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇気分転換（家族・友人・地域との交流）

- ・ いずれも、人との触れ合いが気分転換になる。
- ・ 患者の会での交流
- ・ 休みの取れない父親を遊びに連れ出すこと
- ・ 健康被害者の笑顔や会話が出来るとき
- ・ 姉妹で旅行や話をする
- ・ 孫たちと家族そろって過ごすこと
- ・ 孫や娘の夫の活躍が薬膳当事である娘の励みにもなっている様です。
- ・ 友人の家族と母親ぐるみの生活ができるようになった
- ・ 同世代の友人たちと過ごす
- ・ 友人等との諸活動は、いつも気分転換になる。
- ・ 話せる人がいる事が大切

◇気分転換（趣味、コンサート・スポーツ・旅行等への参加）

- ・ おいしい食事を頂いた時、一緒に料理の話をしました
- ・ コンサートや演劇を観に行けた
- ・ 音楽を聞く様になった
- ・ 家庭菜園でとれた野菜を自慢する
- ・ 介護をしている私も視覚障害があり、視覚障害のためのヨガ教室でとてもリフレッシュできました
- ・ 散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている
- ・ 柴犬を世話しているととっても楽しいです
- ・ 社会福祉協議会の人や文字サービス窓、公的サービスの人に手伝ってもらう等地域などに発進している
- ・ 車の運転出来るようになった（免許センターのテスト、医者へのテストリハビリ）
- ・ 体操に行って汗をかくのですっきりして気持ちが良い
- ・ 同じ介護者の方との食事会で気分転換になった
- ・ 友人、本人と旅行に出かけた
- ・ 友人達との食事会などで気分転換できた
- ・ 旅行やハイキングなど、普段の生活から離れた時
- ・ 二人で温泉にでかけた、良い気分転換になった
- ・ 買い物をしたいする

◇その他

- ・ 障害の息子を手放す事さえ考えなければならなくなってしまうことが、現実になると、本当につらかったですが、多くの人が支援へつなげてくださる意志が見えてうれしく思いました。今は退院できてよかったです。
- ・ (弟の死もあり) きょう一日を闘っていくこと
- ・ いつも通りです
- ・ 介護でイライラすることから解放される
- ・ 健康寿命の維持に力を合わせる
- ・ 子供をたよらなくなった
- ・ 人生は山あり谷あり。しんどくてつらい時期は「今はトンネルの中」と思うようにして前向きな気持ち。
- ・ 先を考えると不安。グループホームなどを増やしてほしい
- ・ 文学はいまを問うこと パソコンはいまを聞くこと 宗教は自らを処すること〈浄土真宗大谷派〉
- ・ 本人(妻) の闘病は続いているが、私自身健康にいられたことの僥幸に恵まれていること
- ・ 本人が前向きなので心がとても救われる

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況

① 健康被害を受けた方の治療状況

○ 健康被害を受けた方の治療状況については表3-1及び図3-1のとおり。

□ 入院中が2.1%、通院中が97.9%となっている

表3-1 治療状況

入院中	通院中 (往診含む)	回答なし	合 計
1	46	8	47
2.1%	97.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

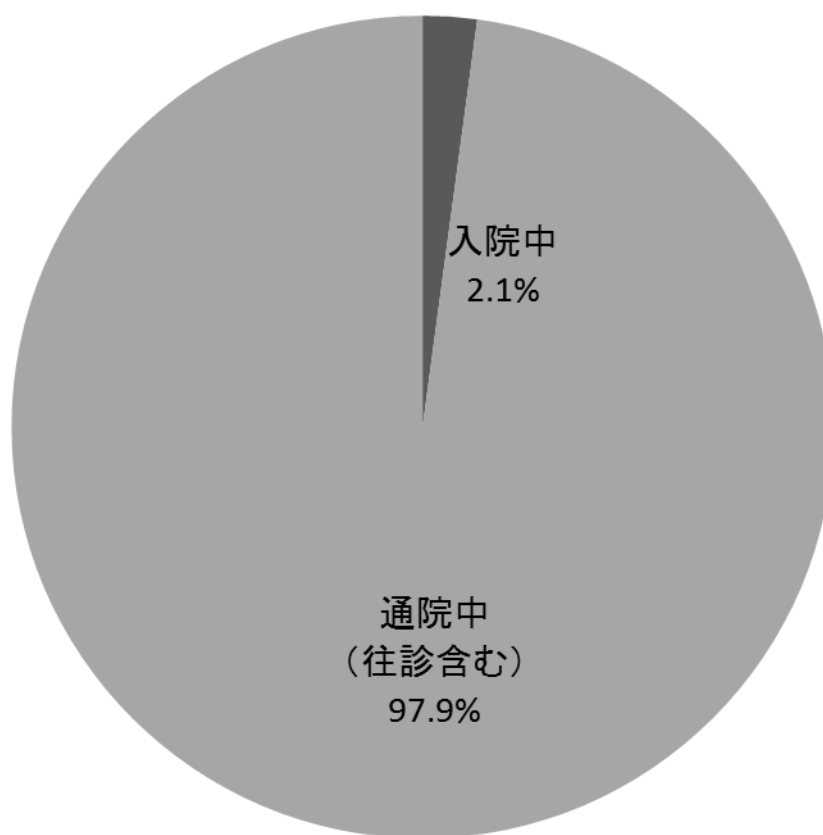


図3-1 治療状況

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること

②-1 通院時に注意している点

○ 通院時に注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-2 及び図 3-2 のとおり（複数回答）。

□ 「事前に交通機関やルートを確認」「家族などによる送迎」が 55.8%、「ヘルパー等に同行を依頼」が 30.2%となっている

表 3-2 通院時に注意している点

事前に交通機関やルートを確認	ヘルパー等に同行を依頼	家族などによる送迎	介護タクシーの利用	その他	回答なし	回答者数
24	13	24	2	9	12	43
55.8%	30.2%	55.8%	4.7%	20.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

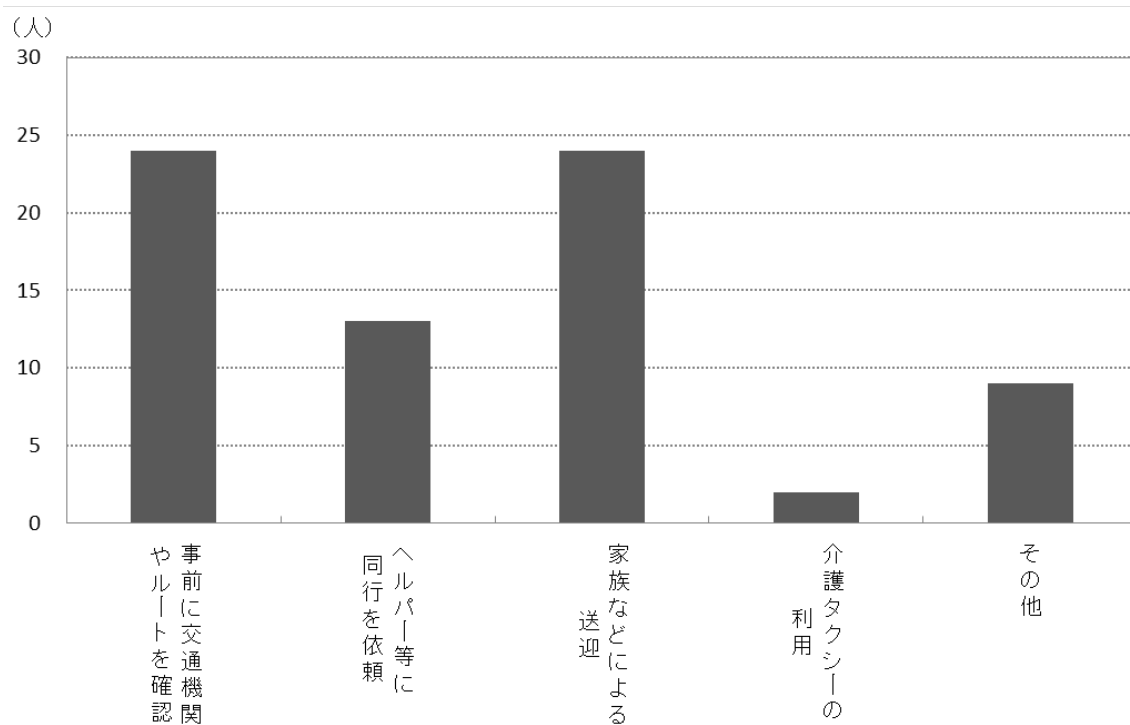


図 3-2 通院時に注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 診療時間がどちらかの孫の通学時間なので終点駅まで一緒に来て私がそこでタクシーにのりかえで行っています
- ・ 初めて行く病院等はガイドヘルパーや親と受診する
- ・ ヘルパーを利用する場合が多いけど病院内は各スタッフが案内してくれるので、1人でも不自由を感じない。天候によってタクシーを利用（雪国なので）
- ・ 病院に行く時は、母（親、妹）にタクシーで連れて行ってもら
- ・ 担当医が良くみて下さっている。
- ・ 一般のタクシーを利用する

②-2 治療を受けるときに注意している点

○治療を受けるときに注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-3 及び図 3-3 のとおり（複数回答）。

□「既往歴を告げる」が 84.8%、「お薬手帳を持参」が 73.9%、「受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く」が 69.6%となっている

表 3-3 治療を受けるときに注意している点

既往歴を告げる	お薬手帳を持参	受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く	その他	回答なし	回答者数
39	34	32	5	9	46
84.8%	73.9%	69.6%	10.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

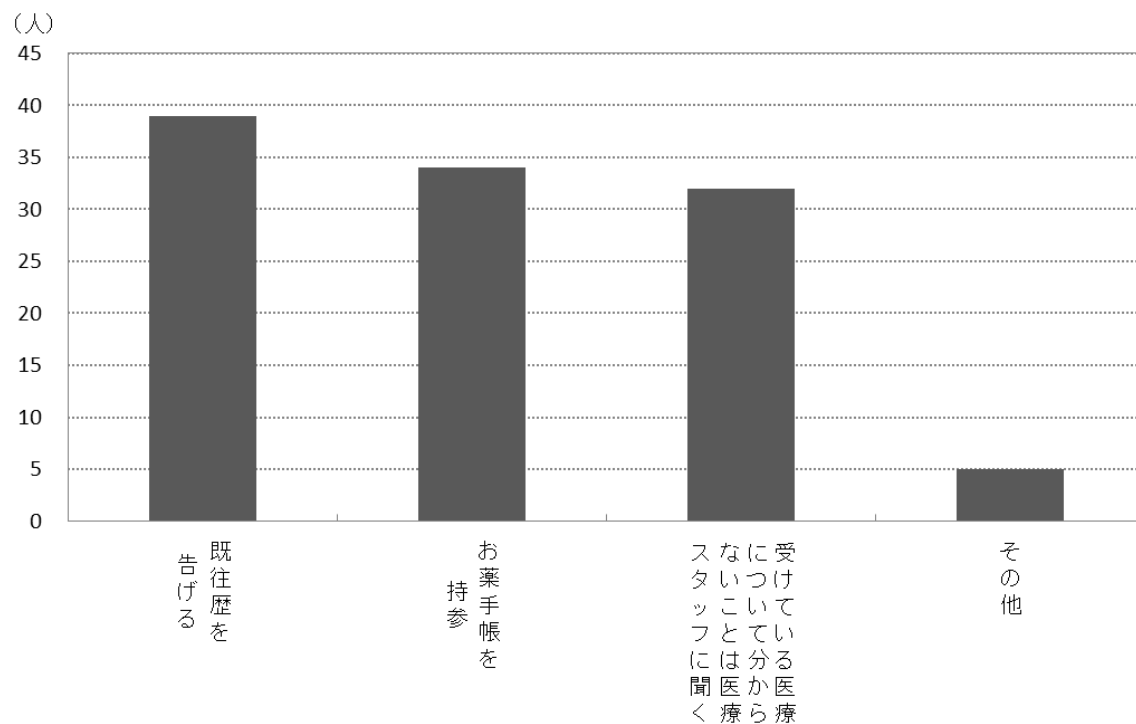


図 3-3 治療を受けるときに注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ ペニシリン注射で副作用を受けたので、そのことをしっかりいう。
- ・ PMDA のカードを見せる
- ・ 新しい薬をつかう時。
- ・ SJS を告げると投薬する場合考えこむ。昨年肺炎の際ふつうは入院しなくても良いのに念のため入院をした。
- ・ 発症時に発行された禁止投与薬品のメモ（Dr 署名）のコピーを窓口に渡す。

②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○治療を受けるときに困ったことについてたずねた結果は、表 3-4 及び図 3-4 のとおり（複数回答）。

□「SJS について医師が理解していない」が 66.7%、「SJS であることを告げたら診療を拒まれた」が 5.6%となっている

表 3-4 治療を受けるときに困ったこと

SJSについて 医師が理解 していない	SJSであること を告げたら診 療を拒まれた	その他	回答なし	回答者数
12	1	9	37	18
66.7%	5.6%	50.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

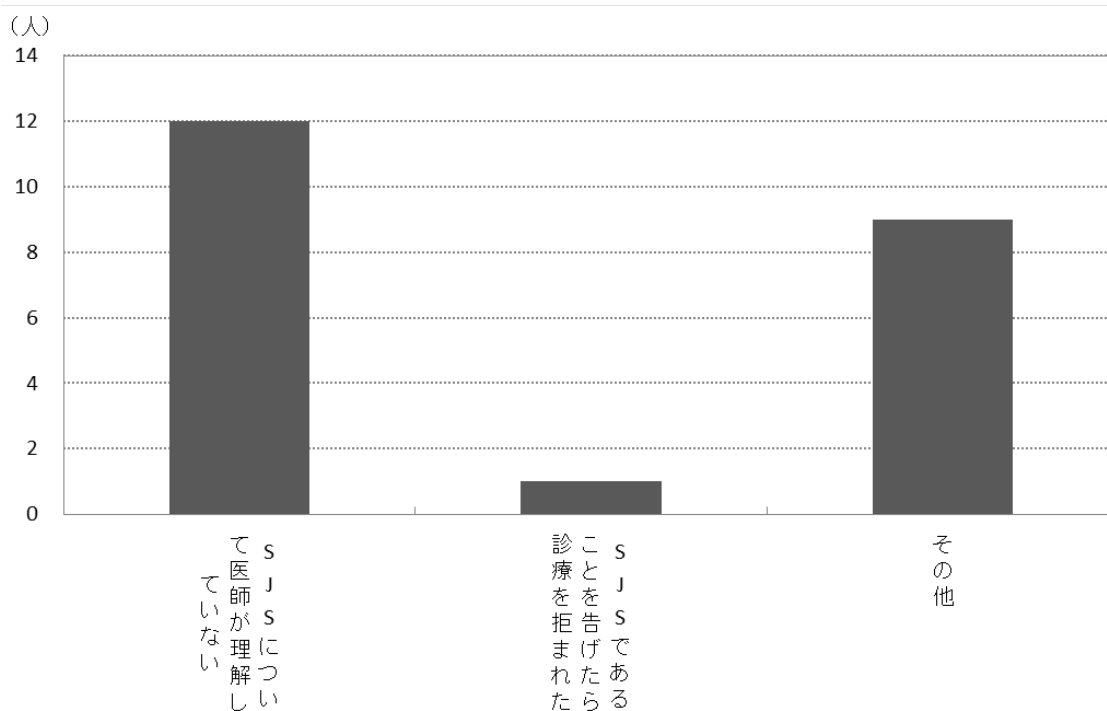


図 3-4 治療を受けるときに困ったこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方や治療がない

- ・あまり積極的な治療していただけなかった。

◇医療機関の知識不足

- ・SJS といっても知らないので副作用でといって、ケロイドを見せたり、つめの部分を見せる。
- ・消化器外科へ緊急入院時同病院の眼科外来で SJS である事を告げたら拒否された。逆さまつげ 抜糸のみ対応
- ・薬の副作用を医師が極端に警戒し、新しい薬をださないことが多い。
- ・昔は SJS である事を言わないようにと医師に口止めされていた。少なくとも昭和 55 年までは
- ・薬の使用について「使ってみないとわからない」と言われた時
- ・SJS 以外の治療例えば胃や腸等治療受ける際薬等、色々聞かれます。
- ・SJS をわりと軽くみている医師もいる。なかなか薬を出してもらえなかった。予防注射（インフルエンザなど）はしてもらえない

②-4 その他注意している点の主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方薬への慎重対応

- ・薬の副作用に注意する
- ・いろんな症状の変化を詳しく話している
- ・飲み薬は極力飲まないことを医師に告げ治療法を検討してもらう

◇その他

- ・感染症の予防
- ・入院しなければならない時は、視力障害、常にせきが出る、つめがないので細かいことができない（時間がかかる）等、看護師さんや、同室の患者さんに伝えるが、理解してもらえず困った。1 人部屋は高いのでつらいです。

■ 過去1年間の日常生活について

③ 困ったことの有無

○過去1年間における困ったことの有無については、表3-5及び図3-5のとおり。

□困ったことが「増えた」41.5%、「減った」が1.9%、「変わらない」が52.8%であった。一方、困ったことは「ない」とする人は3.8%となっている。

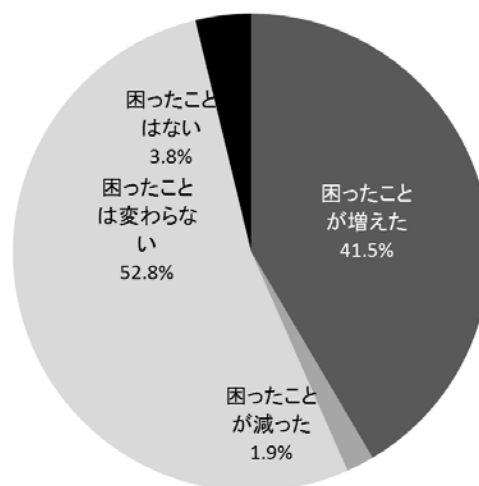


図3-5 困ったことの有無

表3-5 困ったことの有無

困ったことが増えた	困ったことが減った	困ったことは変わらない	困ったことはない	回答なし	合 計
22	1	28	2	2	53
41.5%	1.9%	52.8%	3.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

③-1 困ったことについて

○過去に困ったことがあったと回答した本人または介護者にたずねた「困ったこと」主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇眼科症状

- ・ 目が見え辛い
- ・ 見えないため、自力でできないことがあると気分が落ち込む
- ・ 視力が徐々に下がり、見えにくくなっている
- ・ 視力が落ちてパニック障害が再発した
- ・ 視力の減退、健康不安、介護者（夫）の健康
- ・ 視力障害
- ・ 全く見えなくなったので
- ・ 視力低下に加えて、精神的抑うつ状態によって外出時や自宅においてもよくケガをする
- ・ 眼の乾燥がひどくなり、痛みがある時が増えた。

◇呼吸器、消化器症状

- ・ 昨年肺炎をおこしたので、この時期不安になった
- ・ 便秘で排泄のコントロールが難しくなった。体調を崩すことが増えてきた。

◇外出

- ・ 買い物や散歩などで外出する際に、介護者が必要なこと
- ・ 1人で住民票をもらいに駅の区役所の派出所へ行ったが記入する用紙の文字が見えにくくて困った。このアンケートの記入も、どこに書いていいのかわからなくなり、困った。

◇介護者の状況

- ・ 夫が病気になってしまった。目が不自由でなければと思うとなさけなく、腹立たしいです。母の介護にかかわれない。弟に任せきり。（弟の奥さんもアルツハイマー）
- ・ 母の老化
- ・ 両親も高齢になり、身近にサポートしてくれる人がいない
- ・ 家族の高齢による体力の低下や認知症状で周囲は大変疲れる。

◇その他

- ・ チックなどの症状がひどくなった
- ・ できない事がふえた
- ・ 年齢とともに体が動かない（鈍くなる）
- ・ 医療費が高い。
- ・ 現在コンタクトなしでは歩けない。高額のため、もし紛失したら自己負担との等最良策はないのかと思います
- ・ 体力がなくなり毎日の生活をするのがつらくなった
- ・ 誰もいない時にトラブルあった時（水道止まらなくなった.etc）。 また、おし売り、勧誘の方が来た時

③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか

○過去に困ったことがあったと答えた人に回答を求めた。誰かに相談したかについてたずねた結果は、表3-6及び図3-6のとおり（複数回答）。

□「親」が57.7%、「医師」が38.5%、「子ども」が34.6%、「配偶者」が26.9%、「兄弟姉妹」が23.1%となっている

□「相談する人はいない」は15.4%であった

表3-6 困ったときの相談の有無

親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師	
15	7	9	6	1	5	4	0	10	
57.7%	26.9%	34.6%	23.1%	3.8%	19.2%	15.4%	0.0%	38.5%	
看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
2	3	0	2	2	1	3	4	25	26
7.7%	11.5%	0.0%	7.7%	7.7%	3.8%	11.5%	15.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

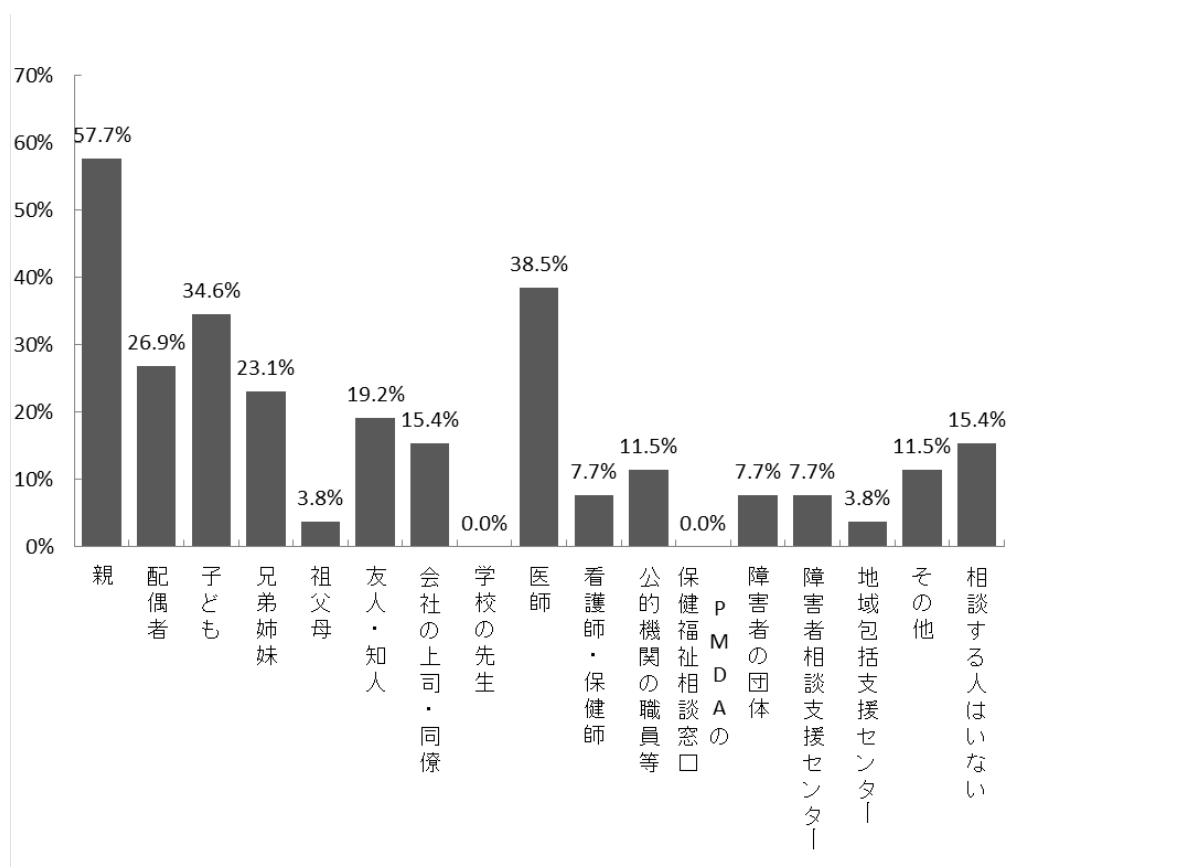


図3-6 困ったときの相談の有無

③-3 解決策の有無

○ 困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおり。

□ 困ったことに対して解決したと回答した人は 23.1%、一方、解決していないと回答した人は 76.9%であった

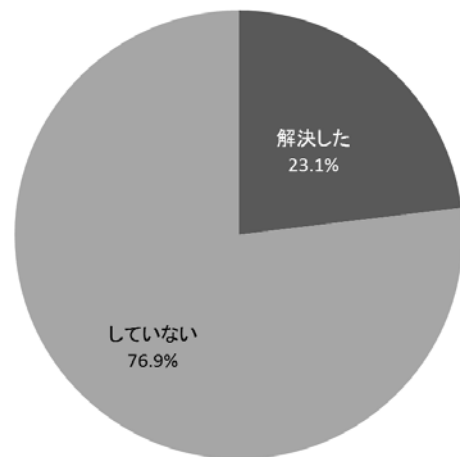


表 3-7 解決策の有無

解決した	していない	回答なし	合 計
6	20	29	26
23.1%	76.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図 3-7 解決策の有無

③-4 解決策について

○③-3で「解決した」と回答した本人または介護者の困ったことと解決策の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
買い物や散歩などで外出する際に、介護者が必要なこと	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた
誰もいない時にトラブルあった時（水道止まらなくなった.etc）。また、おし売り、勧誘の方が来た時	その都度対応出来た
便秘で排泄のコントロールが難しくなった。体調を崩すことが増えてきた。	訪問看護で排泄のコントロールができた。定期的に看護師が訪問することで不安を解消できた
年齢とともに体が動かない（鈍くなる）	多くの人に手を貸してもらう

③-5 解決方法について

○③-3で「解決していない」と回答した本人または介護者に、どのような方法で解決できるとするか解決方法をたずねた。主な内容は以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解決方法
（介護者）家族の高齢による体力の低下や認知症状で周囲は大変疲れる。（本人）視力低下に加えて、精神的抑うつ状態によって外出時や自宅においてもよくケガをする	極力自分自身で規則正しい一日を送れるように心がけてみる（睡眠、食事、運動、趣味や仕事などの取組みについて）
夫が病気に。目が不自由でなければと思うとなさけなく、腹立たしいです。母の介護にかかわれない。弟に任せきり。（弟の奥さんもアルツハイマー）	公的なものでは、決まりがあり、お金がかかります
視力の減退。健康不安。介護者（夫）の健康	分かりません。
医療費が高い。	もう少し医療費の自己負担を減らして欲しい。
視力が落ちてパニック障害が再発した	今はわからない 薬を常用するようになってる
視力が徐々に下がり、見えにくくなっている	治療法がない以上、解決できない
視力障害	現在、視力の回復は見込めない
視力低下、体調の悪化	
チックなどの症状がひどくなった	病気は治ることはない うまく受け入れていくしかない
できない事がふえた	不明
母の老化	
見え辛い	解決方法がない
見えないため、自力でできないことがあると気分が落ち込む	自分でできない以上あきらめるしかない
抑制	方法ない
両親も高齢になり、身近にサポートしてくれる人がいない	サポートお願いできる人が身近にいない→探している。ヘルパー不足で利用が不便→ヘルパー増員をお願いしている。

④ 日常生活の満足度

○過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表3-8及び図3-8のとおり。

□「不満」が37.5%、「やや不満」が20.8%となっている

□「不満」を1点、「満足」を4点とすると平均は2.1点である

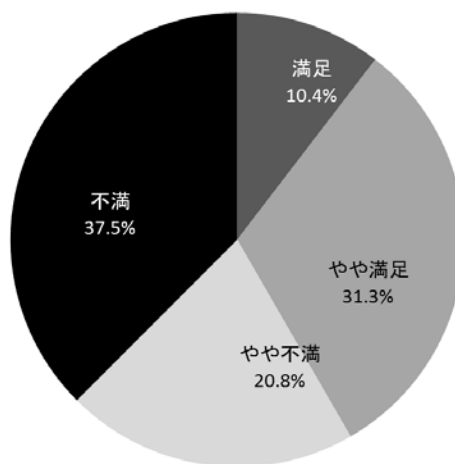


図3-8 日常生活の満足度

表3-8 日常生活の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	回答なし	合 計
5	15	10	18	7	48
10.4%	31.3%	20.8%	37.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

④-1 満足度の理由について

○④の回答に至った具体的な理由の満足度別の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 満足

- ・ 仕事の充実
- ・ 友人、知人、ボランティアさんに恵まれ、助けられています
- ・ 介護サービスを利用することで安心して生活が送れている
- ・ 家族とともに毎日幸せです

2. やや満足

- ・ 大きな健康障害もなく、旅行なども出来て、平穏な1年だった。
- ・ 不自由な事も多いですが就労できることです
- ・ 弱視のトラブル（痛み）がすくないこと
- ・ まわりの人が親切にしてくれる
- ・ 家族や回りの人がいてくれるから
- ・ 家の中では一人で動ける事が多いから

3. やや不満

- ・ 年齢とともに体力が落ちてきた。
- ・ 圧迫骨折をしてから、動きが悪くなって、今まで以上に時間がかかって日常生活が大変
- ・ 眼が見えない事で、うつ状態になる事がある
- ・ 病気が完全に良くなったわけではない
- ・ 自分自身でできることに限界がある

4. 不満

- ・ 日常生活に不便を感じているから
- ・ 出来ない事が増えた
- ・ 趣味が楽しめず、余計にストレスがたまる事も少なくないため
- ・ 見えない事によりストレスがかなりあった。考えていると夜ねむれず、不眠になったので。
- ・ 日常的に肺（呼吸）が苦しくて、生活動作が辛い。
- ・ 完全に視力を失ったから
- ・ 日々の生活で精一杯 将来の不安ばかり（両親の老後含め）
- ・ 自由に外出できない。視力低下
- ・ 見たい物が人からの表現では理解できないため。

B票(社会活動を中心とした調査)及びC票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査) からみた生活状況の概要

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係(人数)

	ほぼ毎日	週に4から 5回	週に2から 3回	月に2から 3回	全く外出し ていない	回答なし	合計
満足	2	1	2	0	0	0	5
やや満足	3	4	7	0	1	0	15
やや不満	3	2	2	3	0	0	10
不満	5	3	3	5	2	0	18
回答なし	2	2	1	1	1	0	7
合計	15	12	15	9	4	0	55

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係(人数)

	コンサートや 映画、ス ポーツな どの鑑賞・見学	スポーツ教 室、大会な どへの参加	旅行・ キャンプ・ つりなどの 活動	趣味の 同好会活動	ボランティア などの社会 活動	障害者団体 の活動	地域活動	パソコンを 利用した 社会参加	友達との 遊び	その他	回答者数
満足	0	1	2	1	1	1	2	3	1	1	5
やや満足	7	4	6	4	4	6	0	2	6	0	15
やや不満	3	0	1	2	1	1	1	1	4	4	10
不満	2	4	2	2	2	4	2	3	4	1	18
回答なし	2	1	1	1	0	1	0	1	1	0	7
合計	14	10	12	10	8	13	5	10	16	6	55

⑤ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて

○ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについてたずねた結果は、表 3-9 及び図 3-9 のとおり（複数回答）。

□ 「旅行・外出」が 52.2%、「趣味」が 21.7%、「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」が 10.9%となっている

表 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

コンサートや 映画鑑賞、 スポーツ観戦	旅行・外出	趣味	社会活動・ 団体活動	その他	回答なし	回答者数
5	24	10	6	14	9	46
10.9%	52.2%	21.7%	13.0%	30.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

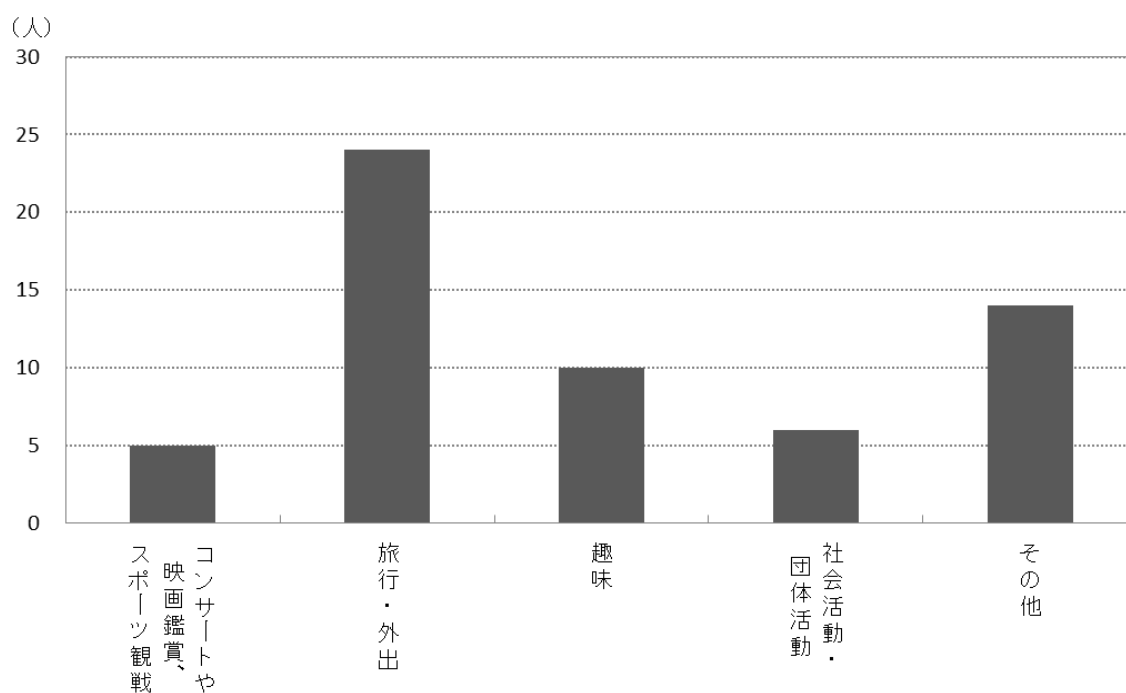


図 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇食事、休暇、趣味

- ・ 音楽
- ・ 湯治
- ・ 一番の希望は旅行ですが、理解出来る同行者がなかなかいないのでとても残念です。
- ・ まずは衣・食・住 最低限の生活の質を安定させたい。それがないと、社会参加したくてもできない。
- ・ 花が咲いてくれること

◇仕事

- ・ 仕事
- ・ 収入を得る仕事をしたい。
- ・ 普通に仕事や生活

◇その他

- ・ カウンセラー
- ・ 変わり様がないので何も出来ません
- ・ 移動する
- ・ 周りに害がなく生きたいです
- ・ 抑制しない

⑤－1 実現可能性

○日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表 3－10 及び図 3－10 のとおり。

- 「出来ると思う」が 27.9%、「やや出来ると思う」が 30.2%となっている
- 一方、「出来ないと思う」が 11.6%、「あまり出来ないと思う」が 30.2%となっている

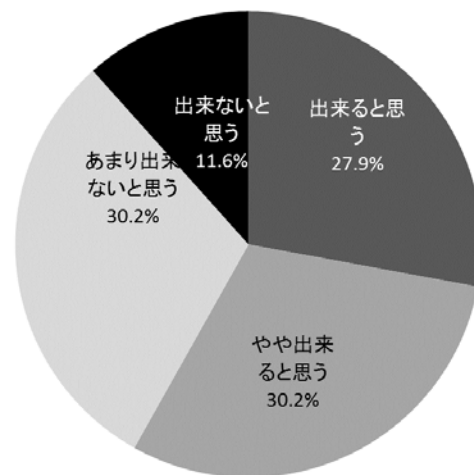


図 3－10 実現可能性

表 3－10 実現可能性

出来ると思う	やや出来ると思う	あまり出来ないと思う	出来ないと思う	回答なし	合 計
12	13	13	5	12	43
27.9%	30.2%	30.2%	11.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

⑤-2 実現可能性の理由について

○⑤-1 の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇実現が可能な理由

- ・ 移動する際のサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれば実現できると思う
- ・ 親が元気である事
- ・ ガイドヘルパーの付き添いで外出ができる
- ・ 家族と一緒にしてくれるから
- ・ 家族と計画している
- ・ 共感しあえる同士でがんばれる
- ・ 健康で体力が維持できること。
- ・ 自分の足で（たすけてもらいながら）歩いている。
- ・ 主人を含め、友人達が協力的であるから。
- ・ まわりの人が助けてくれる
- ・ 友人、知人、ボランティアさんにサポートして頂けるからです
- ・ 友人と旅行に行く予定があります。
- ・ 旅行などは自家用車を利用すればできる
- ・ ITが発達して使い易くなった

◇実現が難しい理由

- ・ 自力でできる限界を受け入れること
- ・ 視力の安定
- ・ 1人だと公共交通機関が利用しにくい
- ・ 1人では生きていけない為
- ・ 遠方に外出することが困難
- ・ 気力がなくなりました
- ・ 経済的なこともあるしその場所まで行くには交通の便が悪い。
- ・ 現在、解決策が見当たらないから。
- ・ 時間、費用等の問題
- ・ 事前に連絡しなくてはいけない場合が多く、めんどくさい。
- ・ それぞれ家庭が有り、家族が有り、仕事があるので自分に合わせてもらう事がなかなかむずかしい。
- ・ 被害者を見てくれる人がいない。
- ・ 家で転倒して骨折してしまった。今は入院してリハビリ中
- ・ 病状が改善しないため
- ・ 他に方法がない

⑥ 日常生活における工夫点

○ 日常の生活で工夫していることの主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 家で段差のあるところに目印をつけておく
- ・ 視覚障害のため、場所や位置を変更すると分らなくなるのであまり配置を変えないよう工夫している
- ・ 古い家屋なので改装がむずかしい。ただ風呂とか階段等手すりをつけたり、つまずかない様に多少バリアフリーにしたりしています
- ・ 食材がみやすいように、食器やまな板は黒っぽいものを使っている
- ・ ガラケーからスマホへの切り替え。
- ・ 夫婦（親）が交替で看護している。
- ・ 逆さまつげの即対応。（Dr）

⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表 3-11 及び図 3-11 のとおり（複数回答）。

□「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 68.1%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 66.0%、「友達との遊び」が 28.9%、「障害者団体の活動」が 25.5%となっている

□その他としては「家族との食事会」などをあげている

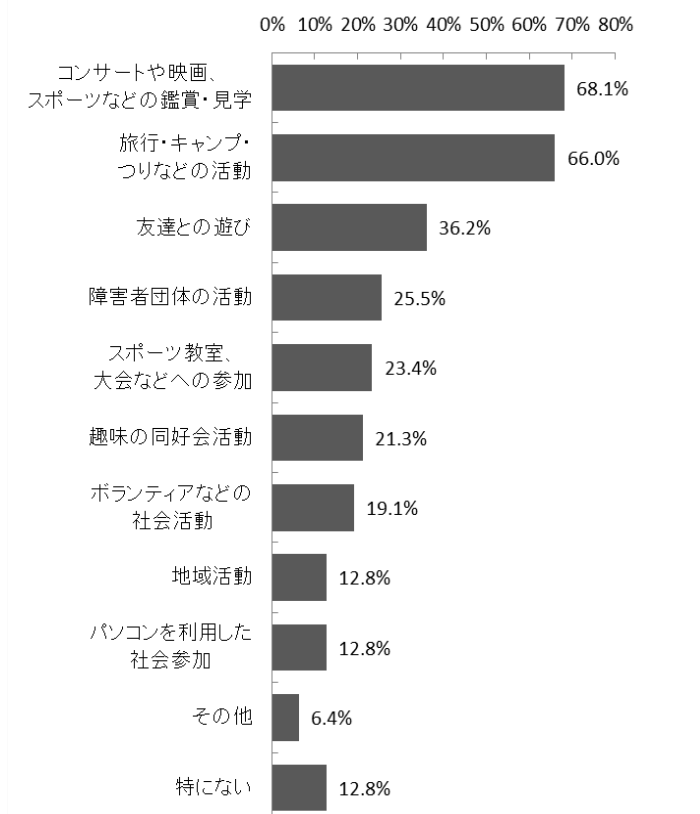


図 3-11 今後やってみたい活動等について

表 3-11 今後やってみたい活動等について

コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	旅行・キャンプ・つりなどの活動	友達との遊び	障害者団体の活動	スポーツ教室、大会などへの参加	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	その他	特になし	回答なし	回答者数
32	31	17	12	11	10	9	6	6	3	6	8	47
68.1%	66.0%	36.2%	25.5%	23.4%	21.3%	19.1%	12.8%	12.8%	6.4%	12.8%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

⑦ー1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい活動の情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3ー12 及び図 3ー12 のとおり（複数回答）。

□「家族友人」が 97.0%、「インターネット・情報サイト」が 72.7%、「ラジオ」が 63.6%、「テレビ」が 48.5%となっている

□その他としては「視覚障害者会 便り」「SNS 上のコミュニティー等」などをあげている

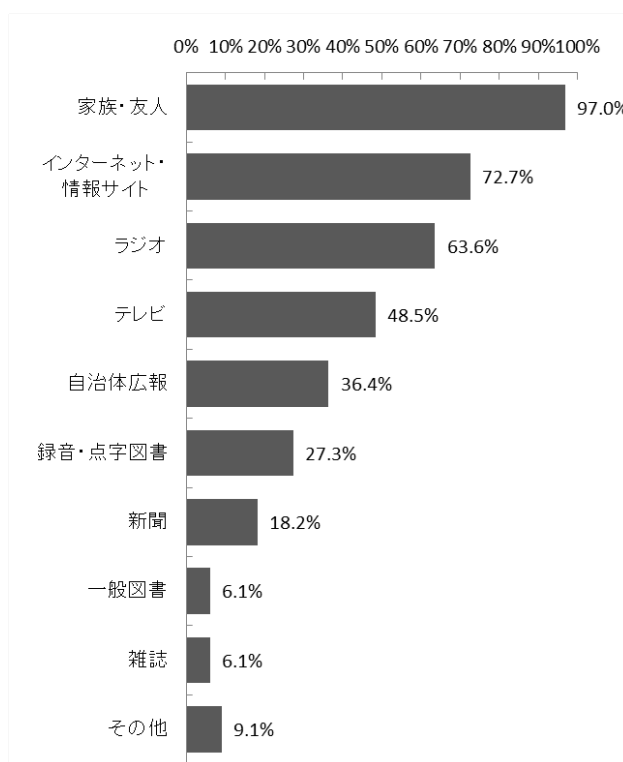


図 3ー12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

表 3ー12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

家族・友人	インターネット・情報サイト	ラジオ	テレビ	自治体広報	録音・点字図書	新聞	一般図書	雑誌	その他	回答なし	回答者数
32	24	21	16	12	9	6	2	2	3	8	33
97.0%	72.7%	63.6%	48.5%	36.4%	27.3%	18.2%	6.1%	6.1%	9.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

■ 福祉サービスについて

⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○ 必要な福祉サービスについての主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

◇移動にかかるサービス

- ・ 移動が不自由なため移動のサポートを充実してほしいです
- ・ 通院に際して介護タクシーが少なく、タクシーをさがすのが困難。役所から通知見えないので通知と、電話連絡があると助かる
- ・ 介護タクシー等の利用料金がもっと下がるよう、働きかけてほしい。

◇金銭的負担軽減にかかるサービス

- ・ 府や市から、支援費が案外沢山出ているらしいが、本人には届かず、支援センターへ高額が支給され、本人には紙オムツ代ももらえない故、支援は本人にしてもらいたい。
- ・ 自己負担金が発生しないようにならないか？

◇家事援助、介護、看護にかかるサービス

- ・ 地元の公共図書館やコミュニティセンターで常時自分が必要とする時に蔵書・私物書類を問わずに無償で代読や代筆サービスを受けられる事。障害者総合支援法内の居宅支援サービスや、動向援護の制度だけでは時々緊急時に対応できない場所や時間帯勤務によする人的サポートニーズにおいても対応してもらえるような無償の公的専門支援員の派遣利用制度の設置。
- ・ 家事代行サービスを受ける頻度をもう少し増やしたい。
- ・ 最近の情報端末の視力障害者が利用しやすい指導、教育支援の充実。
- ・ グループホームを作してほしい。親亡きあとの事を考える
- ・ 介護者が外出旅行等々で観てくれる人が欲しい。
- ・ ヘルパーの車に乗車できると良い。配食のサービスがあるといい（サービス内容を充実して欲しい） 福祉サービスとは違いますが、金融機関（行員）による、代筆を可能にして欲しい。

◇その他

- ・ 介護と支援の連帯がほしい
- ・ テレビの副音解説のように映画でも解説してくれる人の配置があると、映画鑑賞が可能になります。
- ・ 福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる
- ・ 現在受けているサービスで満足している
- ・ 私も年なので、早く認定してほしいです
- ・ 福祉サービスを受けるための書類が多い。急に何か困りごとがあればすぐに対応してほしい。
- ・ 抑制をはずす時間があると良い
- ・ 場所もお金もないので、できないとおもいます。サービスを望んでいる人は毎年多くなっています。

- ・ 今は介護者（夫）がいるからよいが、適切な助言者に不安がある
- ・ 最近ですけど某市障害者福祉協議会や視覚障害者の会に参加して、年に1～2回バス旅行等に参加する事が出来良かったです。
- ・ 制度と現実が少しずれている

■ 必要な情報について

⑨ 必要な情報について（複数回答）

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表3-13及び図3-13のとおり（複数回答）。

□ 「福祉サービス」が77.8%、「医療」が66.7%、「年金」が31.1%、「健康づくり」「趣味・娯楽」が26.7%となっている

□ その他の必要な情報としては「副作用後遺症（SJS・TEN）化学的研究」などをあげている

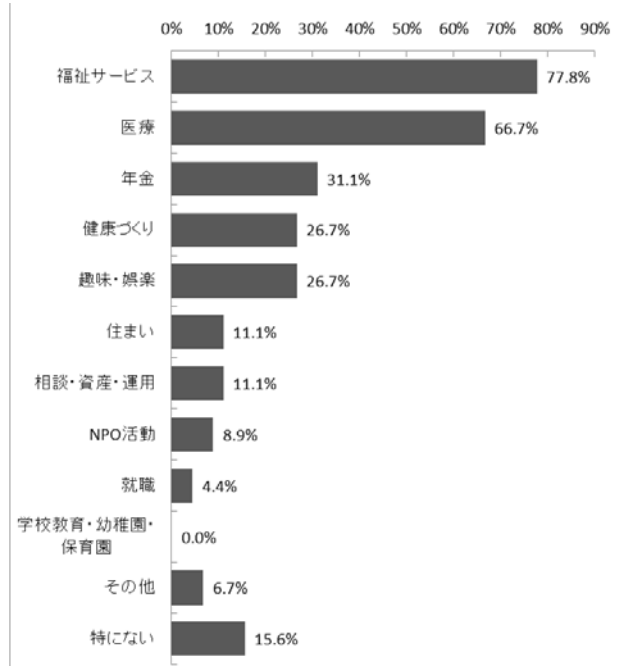


図3-13 必要な情報について

表3-13 必要な情報について

福祉サービス	医療	年金	健康づくり	趣味・娯楽	住まい	相談・資産・運用	NPO活動	就職	学校教育・幼稚園・保育園	その他	特になし	回答なし	回答者数
35	30	14	12	12	5	5	4	2	0	3	7	10	45
77.8%	66.7%	31.1%	26.7%	26.7%	11.1%	11.1%	8.9%	4.4%	0.0%	6.7%	15.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

○ 具体的に知りたいことの主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ iPS による SJS の治療
- ・ この副作用の予後。機構の認定の変化（化学的・リレ床的）。SJS に認定申請して、認定されなかった人々の数。副作用患者のほんとうの数。化学的、医学的な認定をのぞみます。
- ・ 職業訓練内容や講習会等の情報を知りたい。必要公認資格試験対策について専門的に相談できる窓口へのアクセス方法。
- ・ 呼吸器科の専門医を知りたい。
- ・ IT を使った生活パターンに、視力障害者が取り残されないサポート体制が欲しい。
- ・ 病気や治療に関する情報を得たい
- ・ 介護自分だけでやるには、身体精神的につらくなって来た。話してくれる人が、良くわからない。
- ・ よりよい日常生活を送るための情報
- ・ 二十六年間闘病してきて、これからどうなるのか。

⑨-1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）

○今必要としている情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3-14 及び図 3-14 のとおり（複数回答）。

□「家族・友人」が 96.0%、「テレビ」が 84.0%、「ラジオ」「インターネット・情報サイト」が 76.0%、「自治体広報」が 64.0%となっている

□その他としては「患者会」「医療・介護スタッフ・議員」「ケアマネ、施設の職員」などをあげている

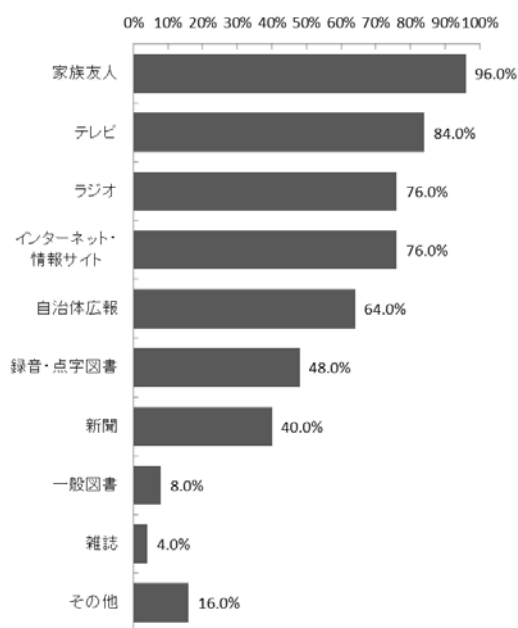


図 3-14 必要な情報についての情報取得元

表 3-14 必要な情報についての情報取得元

家族友人	テレビ	ラジオ	インターネット・情報サイト	自治体広報	録音・点字図書	新聞	一般図書	雑誌	その他	回答なし	回答者数
24	21	19	19	16	12	10	2	1	4	13	25
96.0%	84.0%	76.0%	76.0%	64.0%	48.0%	40.0%	8.0%	4.0%	16.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

Ⅲ む す び

むすび

本報告書は、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供のあり方等を検討するための資料を得るため、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

今回を含め、13回に亘り調査を実施してきたところですが、本報告書では、医薬品の副作用による健康被害を受けられた調査研究対象者の方々における、日常生活の様々な工夫の実態が明らかとなっております。

その一方で、スティーヴンス・ジョンソン症候群（SJS）の方にあっては、視機能障害に対するケアが、ライ症候群の方にあっては、四肢機能改善、拘縮予防目的のリハビリのほか、全介助を必要とする場合は、介助を行うご家族の高齢化も懸念されており、患者家族の肉体的、精神的負担に対する医療的な介入が必要となっている状況が覗えます。

これらの健康被害を受けられた調査研究対象者及び介助を行うご家族のQOL向上の実現のためには、日常生活における工夫だけではなく、更なる医療的な介入、肉体面・精神面でのケアも必要です。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、継続して調査を実施することとしております。

IV 参 考 資 料

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「2 現在、受けている①②以外の福祉サービス」

参考1

内 容	性別	年代	疾病
眼科通院の時ガイドヘルパーとして同行してもらう。眼科・医院・大学病院	女	70代	SJS
遠距離の眼科に通院の時の同行ガイド(民泊)	女	70代	SJS
ここで言う福祉サービスとは何なのかわからない。該当するものがない	男	60代	SJS
居宅支援。在宅訪問によるパソコンサポート。点字図書館での対面朗読。	男	40代	SJS
在宅訪問によるPCサポート、地方公共団体障害者福祉会館文字サービス(代行、代筆)	男	40代	SJS
一部個人負担での地方公共団体福祉特別乗車券の支給	女	50代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要

参考2

男女別・年代別の「3 障害者総合支援法に基づく福祉サービスで①～⑤以外のサービス名」

内 容	性別	年代	疾病
買物(スーパー)	女	70代	SJS
生活援助、代読、代筆、家事援助、ディサービス	女	50代	SJS
創作的活動	女	60代	SJS
料理教室、言語練習 創作的活動	女	60代	SJS
デイジー図書	女	80代	SJS
居宅支援	男	40代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「4 介護保険制度に基づく福祉サービスで①～⑩以外のサービス名」

参考3

内 容	性別	年代	疾病
居宅移動支援	男	20代	ライ症候群
移動支援ヘルパー	男	20代	ライ症候群
放課後デイサービス	女	10代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②ー2 外出するうえで工夫したこと」

参考4

内 容	性別	年代	疾病
遠方の病院へ行く時は前日に宿泊する	女	70代	SJS
主にタクシーを利用する(時々家族に送迎してもらう)	女	70代	SJS
シグナルエイド(一人で横断歩道を渡る事)利用。	女	70代	SJS
階段を避ける(スロープを探す)。白線に添って歩く	女	70代	SJS
一般のタクシーを利用	男	40代	SJS
すべらないくつ	女	60代	SJS
冬は、体調とところぶことを考えて、なるべく外は、歩かない。	女	60代	SJS
今迄シューズでしたがひもがゆるんでしまう為ひもなしのクツをはくようにしました	女	30代	SJS
目薬を出し入れしやすいポケットのついたズボン・上着を着用	女	50代	SJS
車椅子にのせても、動き出すとズツてゆくので、お腹から、大きく広い風呂敷を折りたたみ、車椅子の後ろにしっかり結んでつけておく	女	40代	ライ症候群
外出先でオムツ交換を少なくするようにしっかりとパットをつける(2枚)	男	10代	ライ症候群
車イスに日傘をつけられたら良いと思いその取付金具をつけたが全く利用できない。うまく調整が出来ない。傘が本人の頭上に届かない	男	30代	ライ症候群
トイレなどの場所の確認	女	20代	ライ症候群
時間帯と行き場所はほぼ決まっている	男	20代	ライ症候群
人の少ない時間帯に行く	男	20代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「③ー2 社会参加・社会活動等のきっかけ」

参考5

(1. 家族、親類 2. 友人、知人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ 6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	友人や娘のすすめ	女	40代	SJS
1	知人からのさそい	男	50代	SJS
1	家族旅行	女	60代	SJS
1	子供からの勧めがあった	女	40代	SJS
1	家族からの勧めがあったから	女	60代	SJS
1	家族の誘い	男	40代	SJS
2	障害者になる前の仲間達が誘ってくれる	男	40代	SJS
2	友人に誘われたから	女	70代	SJS
2	知人より紹介してもらいブラインドゴルフとマラソンを始めました	男	60代	SJS
2	同じ障害を持つ友人、地域の友人	女	60代	SJS
2	地域の体操教室に近所の人にさそわれて行く。	男	50代	SJS
2	家にばかりいてはいけなからたまにはと友達に誘われた	男	40代	SJS
3	入会している障害者協会主催の講習	女	40代	SJS
3	障害者団体からの誘いがあった	男	60代	SJS
3	障害者の事業所からの紹介でヨガをするようになった	女	70代	SJS
3	盲学校に在学している	女	30代	SJS
3	デイサービスでの他者との交流や職員との交流	男	60代	SJS
7	散歩	男	60代	SJS
7	自己研鑽の為(仕事に関する講習会に参加)、コンサート	女	60代	SJS
7	リフレッシュ	女	40代	SJS
7	時間的、体力的に余裕があったから。	女	70代	SJS
7	健常者に近い生活を楽しみたい	男	50代	SJS
7	出来るだけ健常者と同じに楽しみたい。体を動かし介護予防したい。	男	60代	SJS
7	日常生活に役立つアイテムや情報を実際に見聞きするため	女	50代	SJS
7	身体を動かさないと病気になってしまう	男	20代	SJS
7	近所の散歩・買物	女	70代	SJS
7	健康維持のためにも、身体を動かし運動量を増やすため	男	50代	SJS
8	何かしていないと目の痛みにたえられない。	女	60代	SJS
8	まいにちの闘病に資する仲間がいると知った時の感動	女	40代	SJS
8	予約席の前席が確保できるから。	男	50代	SJS
1,2	親姉娘友人の誘いをうけて	男	80代	SJS
1,2	家族や知人からの勧めがあった	男	60代	SJS
1,2	友人、娘、親の誘い	男	60代	SJS
2,3	患者会などの会合、障害者になる前の仲間たちの誘い	女	70代	SJS
2,4	知人からのメーリングリストによる案内・地元の視覚障害者だよりを読んで参加した	男	50代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「④－2 屋内での生活における工夫」

参考6

内 容	性別	年代	疾病
自分の生活になれる事	男	50代	SJS
階段の数を数えながら上る下りる	女	50代	SJS
階段、ドア、等々目につく様に色をつけておいてある	女	70代	SJS
室内の柱等にスポンジ等をまきつけたり、はったりして当たっても痛くないようにした	男	60代	SJS
コンタクトレンズ(ソフト・ハード)の紛失予防1. 水道を使うときは必ず受皿利用2. 容器はマジックで赤青LRの仕分け3. 置き場所を固定必ず所定位置に置くようにする	女	70代	SJS
座椅子の活用。	女	70代	SJS
光がまぶしいので調光式の照明器具に変えた	女	40代	SJS
他の方(ヘルパーさん)使用したものは同じところに戻してもらう	女	80代	SJS
良くぶつかる所に、保護テープ貼る。	女	80代	SJS
食器などの整理整頓をしやすい棚の配置	女	60代	SJS
採光、照明の調節	女	50代	SJS
自宅で仕事をしているため同行援護と居宅支援に該当しない内容があるので不便を感じている。割れ物の位置を確認するようにして	男	40代	SJS
ラジオの音声を活用	男	70代	SJS
コードに引っかからないようにカバーをしている	男	50代	SJS
部屋のレイアウトは変えない	男	40代	SJS
人が治療院に(玄関)に入ってきたらチャイムをセンサーでならす 玄関先にセンサーライトをつけてある	女	60代	SJS
工夫ではないけれどガラケイからスマホに変えて使いなれようとしている	女	30代	SJS
目薬は1回と2回の点眼がわからない為輪ゴムで区別する	女	30代	SJS
冬でも靴下をはかない、足底の感覚利用 建物の内外の手摺等は肢体不自由者の場合公費が下りるが目の不自由な人は自己負担ですと云われたそうですが同じ様に公費の補助があったら助かります。	女	40代	SJS
すべり止めの付いているクツの使用	女	60代	SJS
「ここに置いていくよ」「〇〇に入れたからね」という声かけ	男	40代	SJS
無色のガラスの食器は見辛い為、何も入ってないとそこに食器がある事に気づかず手が当たって割ってしまう恐れがあるので使用後はすぐに洗って片付ける	女	50代	SJS
かんぼの宿へ行ったが、リフトで温泉に入る貸切風呂にあるハーネスだけなので体洗い場で石のフロアに寝かせなくてはならない。そのためフロマットを自宅から持って行った。フロマットが用意されていると良いと思う。脱衣所も同様。	男	30代	ライ症候群
24時間使用しているヘットギアや頭頂部をCTUした。少しでも暑苦しい思いでいるのを和柔らげたいと思った。これから暖房が入るといつも暑くてヘットギアの内側は汗でぬれている。夏も同様に汗です。	男	30代	ライ症候群
出来るだけ車イスに座らせ外の空気に当たらせる。	女	30代	ライ症候群
DVDなどで退屈な時間をなくす	男	20代	ライ症候群
身の回りで何でもできるよう、部屋で居てを所を中心に、過ごせるように物の配置を考えた	男	20代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「⑤-5 視力以外の状況」

参考7

内 容	性別	年代	疾病
4月末の連休から肺炎にて1週間ほど入院した。院内は統一されたカラーで一般にはきれいに見えるかもしれないがドアと壁の色のコントラストがはっきりしていると見えやすいと感じる。これはどこの物にも言えますが…	女	60代	SJS
目が痛いとの調子が悪い、頭痛が多い、肩が強く凝る、運動不足で血糖値が高め	女	60代	SJS
てんかん・偏頭痛・食物アレルギー・花粉アレルギー・ハウスダスト	男	50代	SJS
物を食べるのに必ず水分がないとのみ込めない。爪がないので物をつかむ事がむずかしい。涙が出ないので苦しい。	男	70代	SJS
①皮膚や爪が変形している(かゆみ、乾燥 ②アトピー性皮膚炎 ③難聴 ④気管支炎、ぜん息	男	40代	SJS
痔の予防(薬による治療)。子宮筋腫の定期健診。	女	60代	SJS
閉塞性細気管支炎とか気管支拡張症とか、喘息と診断されたりしている。	女	40代	SJS
脊柱すべり症による腰、足の痛み。視力障害の為、歩行姿勢が長い間悪かったことが原因？	女	70代	SJS
圧迫骨折により、ストレスがたまり、血圧が上がって、体調をくずす日がありました。	女	80代	SJS
肺マック症、肺アスペルギルス	女	60代	SJS
膣粘膜癒着	女	50代	SJS
のどの粘膜が過敏になっていて少しの刺激でも咳が出る→外で食事ができない	女	60代	SJS
視力低下に尽きる	女	70代	SJS
肝臓の血管腫・母指関節痛・テニス肘	女	50代	SJS
脳梗塞後遺症	女	60代	SJS
耳鼻咽喉科通院(アレルギー鼻炎)・痔の治療投薬	女	60代	SJS
慢性的な疲労感。頭痛、全身の関節痛。化学物質過敏症(シックハウス)	女	40代	SJS
7月旅行中に転倒し、足首の剥離骨折。	女	70代	SJS
のどの辺りが過敏になっていて咳が出る。呼吸器科、耳鼻科で受診したが異常はないと言われたが辛い	女	60代	SJS
視力低下がひどいので家の中と周囲をぐるぐる回る生活になってしまうこと。病院通院と買物(介護者補助)必要最低限の生活であること	女	70代	SJS
後遺症として爪がスプーン症状割れ、舌のただれ、気管支のせき込み常に負担を感じている	女	70代	SJS
のどがはりつくのか声帯がはりつくのか、普段よりしゃべると声がかすれたり喉が痛くなる・食道が細くなったのか、食べ物がよくかんで飲み込もうとしても詰まってしまう食事をするのに大変。だんだんと多くなってきた	男	50代	SJS
小さな段差でも踏み外すことが多く足首から先が慢性的に痛む	女	60代	SJS
右手 人差し指、中指・薬指のしびれ	女	50代	SJS
QOL低下	男	40代	SJS
貧血症、脳梗塞後遺症 食道、胃の炎症 咳と声がれ、タンで困っている 眼も身体も全ての症状が、強くなってきている	女	60代	SJS
爪が生えてこないのので物がつかみにくい	男	70代	SJS
腰痛がある・ぶつかった所 紫斑が出来る	女	80代	SJS
片頭痛治療薬・血栓形成抑制剤 以上	女	60代	SJS
全身の筋肉や関節の痛み。	女	40代	SJS
圧迫骨折してから、歩くのに杖がいるようになりました。でもまだ自分の足で歩けるので、毎日時間をかけて散歩に出ていますが、すぐに背中がまがっていく感じがでくのが大変です。	女	80代	SJS

内 容	性別	年代	疾病
見えなくなったときを想像すると恐怖のパニック障害に襲われる どうぞたすけてください！！	女	70代	SJS
就寝の時は、コンタクトを(両目)はずして寝るが、常に何か起きた場合(災害、その他)、自分で対処出来るのかと心配している。	女	70代	SJS
末梢循環障害による右手指のしびれ	女	50代	SJS
①皮膚の感想かゆみにともなういら立等 ②爪、顔等衣類で覆い切れない部分の皮膚の肥厚で自分だけでなく、人にも不快感を加あり、外出時等同行の介助の人にも気を遣う等、辛い思いがある。 ③マッサージの資格は有り修行しても外見の事と視力障害の事で同僚にも辛い	男	40代	SJS
爪の変形、ささくれ	男	60代	SJS
便秘・頻尿	男	80代	SJS
室内で転倒して大腿骨を骨折してしまった。	男	50代	SJS
指先の皮フがかたいので(爪がないため)点字が読めない。硬貨がわかりにくい 足も同じようにふんばりがきかない	女	60代	SJS
耳がよく聞こえない 歩く事がむずかしい	男	90代	SJS
骨粗鬆症の予防・糖尿病の予防	女	70代	SJS
去年(30年)6月某病院にて某地名サンコンタクトをつけてもらいましたが、現実視力にはなかなか至らずのため某大学には何度も診査に行きました。本人の目と眼ケン下スイと、ゆ着のためコンタクトと合わなく多少無理な状態で使っています。右目もコンタクトを紛失のため1月に又コンタクトをつけてもらいました。問題は今後紛失した場合自己負担との事です。高額のため、とても心配です。今は一部自己負担ですが、せめて一部負担でもしてほしいです。出来れば保険適用にしてほしいです。	女	70代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考8

男女別・年代別の「⑥-1 主たる介助者の健康状態 詳細」

(1. 良好、概ね良好 2. 介護の負担減少 3. 生活の工夫に関するもの 4. 四肢に関するもの 5. 内臓機能に関するもの 6. 聴覚・呼吸機能に関するもの
7. 眼科領域に関するもの 8. 精神面に関するもの 9. 年齢面に関するもの 10. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	父が入院、その為、毎日母と家と病院に行く毎日で体調をくずしました。	女	80代	SJS
1	足、腰に痛みのあるものの、大きな病気はない。	女	70代	SJS
1	自分も健康でないのに、配偶者の面倒をみて、配偶者は不安定(目も肺も)で心配ばかりあるから	女	40代	SJS
1	食事、運動に気をつけているから	女	60代	SJS
1	下肢静脈瘤の手術を両足した。	男	40代	SJS
1	常に介護が介助が必要なため	男	70代	SJS
1	手伝って下さる方が増えたため	男	40代	SJS
1	介護者も身体障害者であり、障害が進行している状況	男	50代	SJS
1	若者で病気がないため	女	40代	SJS
1	視力障害の進行	男	40代	SJS
2	足が痛む	男	50代	SJS
2	左下の奥歯のブリッジが悪くなり全部取り、噛み合わせも悪いし、抜いた歯の土台がぐじくじ痛かったりと不快な日です。	男	20代	SJS
2	スポーツをする	男	70代	SJS
2	老れい。	男	90代	SJS
2	インプラントが炎症を起こして通院中	男	60代	SJS
2	仕事量が増えたので自分の休憩時間がとりにくくなった・自身の体調不良	男	40代	SJS
2	健康に気を付けている(運動・睡眠・食事など)	女	30代	SJS
2	楽しく前向きに生活している	女	60代	SJS
2	主人が精神的に不安定で、介護に疲れてきた。又、将来自分が病気になったら家庭崩壊になるとか考え、不安になる	男	50代	SJS
3	出来ることは本人がしてくれるから	女	60代	SJS
3	悪いというわけでもないと思ったから	男	50代	SJS
3	介護の必要が特に無い	男	60代	SJS
3	介護を担当するものとして、生活補助を行わなければならない	女	70代	SJS
3	自身も障害者	男	50代	SJS
3	視力症状の悪化	男	40代	SJS
4	父親も入院と、毎日の生活パターンが変貌した為	女	80代	SJS
4	年令相応の劣化あるが、通常の生活に支障なし。	女	70代	SJS
4	介護疲れ	女	40代	SJS
4	別居している息子の家の停付や毎日の生活の中で衣類や、必要な書類等を調べに加齢の親が歩行器で行くのは雨の日や暑いときは体力的に大変である	男	40代	SJS
4	常に介護が必要なため	男	70代	SJS
4	同行支援などまわりの方の理解・協力が得られるようになった	男	40代	SJS
5	健康に気を付けている	女	30代	SJS
5	介護にあまりストレスを感じないから	男	50代	SJS
7	加齢(76歳)検診で再診1)内科2)耳鼻科の命令	女	70代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
7	暑い夏でしたので体調管理と仕事をセーブするなどきをつけて生活していた	男	20代	SJS
7	毎日運動している	男	70代	SJS
7	年齢	男	90代	SJS
7	仕事、孫たちの世話、介助でやや疲れ気味	男	60代	SJS
7	仕事上のストレスが介護に悪影響を及ぼし始めた(イライラ、怒りっぽい)	男	40代	SJS
8	出来ることは自分でやってもらっている	女	60代	SJS
8	足が悪い	男	70代	SJS
8	良好という状態でもない為	男	50代	SJS
8	後遺症はあるけど毎日常に体に気を付けてケアをしています	女	70代	SJS
8	特に介護の必要がないため	男	60代	SJS
9	私は病気があり年々大変になり、息子に手伝ってもらってます。	女	80代	SJS
9	年齢相応だと思います	男	40代	SJS
9	膝痛や生活習慣病症状があるが、生活に大きな支障はない。	女	70代	SJS
9	ストレス	男	60代	SJS
9	介護疲れ。	女	40代	SJS
9	食事、運動など健康に気をつけている。	女	60代	SJS
9	常に介護が必要なため	女	60代	SJS
9	高令の家族、夫の介護、通院付添等、入院手術の立合い等 公的サービスを利用しながらも高令病人がびいう人や障害者の付添で大変である	男	40代	SJS
9	身体障害による悪化(難病)	男	50代	SJS
9	トラブルなし	男	40代	SJS
9	二人とも大学生で若いから	女	40代	SJS
9	視力低下	男	40代	SJS
10	色々な人達に助けてもらうから	女	60代	SJS
10	足がつり、ひざが痛く階段が上り下り出来ず困っています。	男	50代	SJS
10	足腰目も悪く歩けない時もある	男	70代	SJS
10	目がうつろ ひざ足歩くのも大変	男	70代	SJS
10	介護が必要な時がある	男	50代	SJS
10	くよくよしない。ひきずらない。	女	40代	SJS
10	特に介護をする必要がないため	男	60代	SJS
10	膝・腰の痛みがあるが実生活に支障はない。	女	70代	SJS
10	愚妻のTENも発病以来の6年を経過致しましたが、SJSによる視力低下は某大学病院眼科、某眼科担当医のベストの治療を頂いているにもかかわらず視力低下はまったくも改善するどころか低下の階段を下っている感じがします。小生も76歳、後期高齢者の老々介護でありますから、一日でも維持にて勤める必要が要求されております。	女	70代	SJS
10	今年母親が亡くなり、いろいろと忙しくしていた。精神的にまいっています。	男	20代	SJS
10	ストレス	男	60代	SJS
10	介助で自分の時間や休息が取れない。	女	40代	SJS
10	散歩、スポーツ(ヨガ)している	男	70代	SJS
10	食事や運動等に気をつけているから。	女	60代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
10	老れい	男	90代	SJS
10	家族の高齢による介護の質が変わって来た。(認知症による暴力) 物理的にも精神的にも大変である	男	40代	SJS
10	常に介護が必要なため	男	70代	SJS
10	仕事や孫の世話で疲れ気味	男	60代	SJS
10	(介) 自身も障害者であり、持病の悪化で入院治療(手術)が必要になったため	男	50代	SJS
10	生活が充実している	男	60代	SJS
10	仕事が忙しく、被介護者に雑にあたっている	男	40代	SJS
10	健康に気をつけている	女	30代	SJS
10	食事・運動などで気をつけている	女	30代	SJS
10	娘(姉)孫達は若いのと私(83才)もお産以外入院したことなしと云う健康体 毎日午前2時間ほどスイミングに行っています	女	40代	SJS
10	脳梗塞で一時入院	女	60代	SJS
10	脳梗塞の入院、リハビリ	女	60代	SJS
10	介護があまり負担になっていない	男	50代	SJS
10	視覚障害の悪化	男	40代	SJS
4,5	出来ない事だけ手をかす	女	60代	SJS
	良好というほどではないが、悪いということでもないと思うため	男	50代	SJS
	介護を必要としないため	男	60代	SJS
	心臓弁膜症(血液の逆流)の疑い	女	70代	SJS
	昨年5月に母が亡くなり、相続などでトラブルがあり、気持ちが落ち込んでしまった状態が続いている。(次女の姉からいじめを受けている。)	男	20代	SJS
	スギ、ヒノキの花粉症	男	70代	SJS
	運動、食事に気をつけている。	女	60代	SJS
	介護疲れ	女	60代	SJS
1	母の老化と体力低下	女	40代	ライ症候群
2	いろんな方が本人に関わることで自分の時間も作れるので気分転換がしやすい	男	10代	ライ症候群
2	加齢による体力の衰え	女	30代	ライ症候群
2	介護者の体力の衰え	女	20代	ライ症候群
2	膝痛や腰痛、更年期も重なってしんどい時が増えた	男	20代	ライ症候群
3	母の老化と体力低下	女	40代	ライ症候群
4	加齢	女	30代	ライ症候群
4	母に軟部腫瘍がみつかり入院となった	男	20代	ライ症候群
4	寝込むことはなかった	女	10代	ライ症候群
5	適度に自分も外出し、ヘルパーさんや人に任せられるところは任せている	男	10代	ライ症候群
9	母、老化、然し、せめて、母の手でと、頑張っている	女	40代	ライ症候群
9	子どもが大きくなり、大変で、しんどいので、体が疲れる	女	20代	ライ症候群
9	健康的に悪い所が出てきている	男	20代	ライ症候群
9	寝込むことはなかったから	女	10代	ライ症候群
10	母 老化。然し、せめて母の手で見てやりたい。	女	40代	ライ症候群
10	ヘルパーさんやデイサービスなど活用していけるとこはしている	男	10代	ライ症候群

区分	内 容	性別	年代	疾病
10	現在、私の兄が入院。母親の引越しの為疲労気味	男	10代	ライ症候群
10	体力の衰え	女	30代	ライ症候群
10	ひざが以前から悪く外出つきそいがしんどい	男	20代	ライ症候群
10	風邪をひいた	女	10代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考9

男女別・年代別の「⑦-1 介護をしていく中で、困ったこと」

(1. 精神面に関するもの 2. 肉体面に関するもの 3. 生活面に関するもの 4. 経済面に関するもの 5. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	本人のイライラが増えた	男	70代	SJS
1	物忘れ、イライラ、徘徊	女	60代	SJS
1	意思疎通がはかりにくくなってきた	男	70代	SJS
2	高令の為	男	50代	SJS
2	ヒザ関節炎の為介護ではなく家事などが出来なくなってきた	男	50代	SJS
2	高齢の為身体が思う様に動かなくなり、時間ばかり早急に過ぎて行く。	男	50代	SJS
2	父も母も年とともに聞き取りにくく、伝えることにつかれます	女	80代	SJS
2	買い物に行っても、母と荷物、色々とささえなくてはいけないので、体力が大変です	女	80代	SJS
2	介護する本人が体が弱って来てるから歩くのが大変弱って来ている	男	70代	SJS
2	全く見えなく成り自分の事が出来ない	男	70代	SJS
2	目の状態が良くなることもないし、年齢も増すと体力も落ちてくるいろいろな大変です	男	50代	SJS
2	お互い年をとって体力がおちているため疲れる	男	50代	SJS
2	健康ではないから、自分も何でもできる訳ではないのに、配偶者の状態(具合)が悪く(目や肺)なっても、なかなか対応できな	女	40代	SJS
2	自分で行動できないこと。	女	60代	SJS
2	家族の加齢による難聴と認知症	男	40代	SJS
2	年を取って行くため、とても大変になって来た。(今まで出来てた事がむずかしくなって来た)	男	70代	SJS
2	障害が進行しているため、出来る事が減ってきたため	男	50代	SJS
2	自身の体調不良	男	50代	SJS
2	目がみえない為、あれこれ質問される事がふえた為、自由時間が減った。	男	40代	SJS
2	障害の進行	男	40代	SJS
2	困ったことではないですが明、暗がわからなくなってきたので電気をつけなくなった	女	30代	SJS
2	記入をしている私が高齢の為58年間の運転生活にピリオドを打ち何かあった時は上の娘の手を借りることが多く加えて孫の運	女	40代	SJS
2	転に心配している有様です	女	60代	SJS
2	失語のため、コミュがうまく出来ない	女	60代	SJS
3	冬場など、火のえや入浴のことなど一人でしているのが、心配。年々視力もそうだが、年のせいもあると思うが、転倒が心配。ぶ	女	70代	SJS
3	つかることも多い。	女	70代	SJS
3	信頼のできる医師に出会えない	女	40代	SJS
3	仕事を休めない。	女	40代	SJS
3	急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	女	60代	SJS
3	暴力、失禁 他の家族の介護の内容が変わり、体力的にも精神的にもホームヘルパーを利用しても毎日の事には追つかない	男	40代	SJS
3	代わりの介助者がいない	男	70代	SJS
3	仕事の都合で介護できない時がある	男	60代	SJS
3	介助に手が回らない時がある	男	60代	SJS
3	介助することが増えた→外出時の同行支援、見えないのでいろいろ確認、PCトーカーの操作方法を教える(上手く作初しない	男	40代	SJS
3	ことがある。)	男	40代	SJS
3	時間を作る事・急な用事で休む事になったが、会社の上司に理解を得られない	男	40代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
3	自分達の学生生活(部活、アルバイト)で、時間の融通がつかない事時。	女	40代	SJS
3	失語であり、言語のコミュニケーションがむずかしくなった	女	60代	SJS
5	父が亡くなったので自分が世話をしなければならないので大変です	女	70代	SJS
5	不便が増えると要求が増えます。先手必勝で介護できればいいのですが いつも後手後手で叱られております。すみません。	女	70代	SJS
5	健康被害者は運命共同体	女	70代	SJS
5	自分の事が出来ているので変化なく生活している。	女	60代	SJS
5	介助の時間的に応えられないことがある	男	60代	SJS
1,2	(介)自身、出来る事が減り、不安で精神的にもつらい	男	50代	SJS
2	本人は座位も出来ぬのに食べるだけは、よく必死で食べ体重増加のため4人でのフロ入れが苦痛である	女	40代	ライ症候群
2	本人は食べるだけは必死でよくたべ体重増加の為フロ入れが4人係でも大変になってきた。ならば食べさせぬようと●●か、介護者の●介では意●逆転である。本人のせめてもの幸せ●…	女	40代	ライ症候群
2	母 老化。然し、せめて母の手でと頑張っている事が母の健康になっている	女	40代	ライ症候群
2	本人の体重があるので抱えるのに人手がいる	男	10代	ライ症候群
2	けいれんが最近ひんばんに起こるようになった	男	10代	ライ症候群
2	70才となり、体重が増えている息子の介助は負担が大きい。	男	30代	ライ症候群
2	加齢による体力の衰え	女	30代	ライ症候群
2	毎日ではないですが足が痛くなったりするので抱く時が大変	女	20代	ライ症候群
2	介護者の体力が衰えた	男	20代	ライ症候群
2	今までも、膝関節痛など持病があったが、今回腫瘍が見つかり命を考える出来事ができた	男	20代	ライ症候群
3	新しい車イスが1日の物と比べて大変重い小回りがうまくできない週3回親が散歩へ外へ出るのが大変疲れる	男	30代	ライ症候群
3	介護者が体調をこわしたときは困る	女	20代	ライ症候群
5	本人以外にも身内が病院に入院した。	男	10代	ライ症候群
5	母と兄の介護もしなければならない	男	10代	ライ症候群
5	入院しなくてはならなくなり、ショートステイに預けたが、やはり家族とはちがう環境になれるのに時間が必要	男	20代	ライ症候群
5	体調が悪くても介護しなくてはいけない(インフルエンザにかかった)	女	10代	ライ症候群
5	外出先でおむつを替えるベットがない	女	10代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
 男女別・年代別の「⑦-4 介護をしていく中で困ったことの解決方法」
 (1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

参考10

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	日常に話をして解決しています。	女	70代	SJS
1	色々な人に相談し、理解や協力が得られたから	男	40代	SJS
1	お人とおしゃべりすることが何よりの解決策と思っています	女	40代	SJS
2	内服でやや落ち着く	女	60代	SJS
5	母入院にあたり多くの人に相談と今後のお願いなどした。いろんな支援へつないでいただいた。親亡き後も心配ですが心強かった。	女	80代	SJS
5	まわりの人々にたすけられています。	女	80代	SJS
5	わからないことは市の福祉課に行って相談に乗ってもらう	女	70代	SJS
5	Drの指示に従う	女	70代	SJS
5	公的な介護制度を利用した	女	70代	SJS
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	60代	SJS
5	娘に頼んだ	男	60代	SJS
5	娘に介助(同行)してもらった	男	60代	SJS
5	娘に代わってもらった	男	60代	SJS
5	息子の妻に代行してもらった	男	60代	SJS
1	話すと気分が落ち着いた	男	20代	ライ症候群
5	ショートの利用を増すようにする	女	20代	ライ症候群
5	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	男	20代	ライ症候群
5	相談できる場所があった	男	20代	ライ症候群
5	とりあえず前輪を違うタイプのものに変えた。多少はよいがまだ大変です。	男	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「⑦ー5 介護をしていく中で困ったことの解決すると考えられる方法」
(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

参考11

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	慣れる、覚える	男	40代	SJS
1	今は大丈夫だけど、こうなったらこうしてくれとかコミュニケーションをとる、とっているの大事だと思う	女	60代	SJS
2	本人の(視力低下)が改善出来ればよいが望めない。従って、このアンケートに回答を寄せて、平素のささやかな努力の一端を報告します次第であります。	女	70代	SJS
2	視力もどれば	男	60代	SJS
2	行動範囲が狭いのはやむを得ない	女	60代	SJS
2	障害の進行について不安なため 経済的不安(障害年金のみ)	男	50代	SJS
2	目尻が上がった、以前より光が入らない解決できない	女	30代	SJS
2	失語リハビリに通院している	女	60代	SJS
5	同居又は、ヘルパーの助け	女	70代	SJS
5	近代医学の進歩、視力の回復に尽きる	女	70代	SJS
5	PMDAが、昭和55年以前の被害者も救済してくれれば、そのお金で、民間企業に頼む事が出き解決できると思う。	女	40代	SJS
5	患者の会で病院や護施設の情報交換をした	女	60代	SJS
5	本人が認知症である事を認めない・失禁等介助が必要	男	40代	SJS
5	身内の者の介護や通院に公的サービスを利用しながらも大変である	男	40代	SJS
5	自分の仕事量をへらす。	女	60代	SJS
6	分らない	男	70代	SJS
6	Drが現代医学が解決(手術)するから心配するな。	女	70代	SJS
6	情報収集がむずかしいので、状況説明が必要となる。	女	60代	SJS
6	近くに住む身内も病氣入院等認知症で見守りが必要	男	40代	SJS
6	(介)自身治療中ではあるが、健康被害者の視力回復が少しでも希望がもてれば、と思う。経済的にも障害者年金のみでは不安	男	50代	SJS
6	自慢しない限りない	女	60代	SJS
1,2	障害の進行は避けられない、治療するも経済的に心配である。また、健康被害者の視力回復	男	50代	SJS
2	食事のコントロールや体重維持をする	男	10代	ライ症候群
2	とりあえず、抗けいれん剤を処方してもらったので、そのクスリをしっかりとのんで、様子をみていく。	男	10代	ライ症候群
2	視力もどれば	女	10代	ライ症候群
5	いろんな公的制度をあらゆるところで利用していく	男	10代	ライ症候群
5	とりあえず前輪を違うタイプの物に変えてみた。	男	30代	ライ症候群
5	外泊しない。	男	30代	ライ症候群
5	公的支援。	女	30代	ライ症候群
6	座位、会話不能故、他人の介ゴ者では無理	女	40代	ライ症候群
6	まだこれからはじまっていない。	男	10代	ライ症候群
6	解らない	女	30代	ライ症候群
6	少しは手伝ってもらえますが、家族も仕事があるので介護している本人ががんばらないといけない	女	20代	ライ症候群
6	身障害者用のトイレに横になれるイスやベットを置いてほしい	女	10代	ライ症候群
6	他人の介ゴ者では座位会話不能故ムリ故、介ゴ派遣者に出す金を障害者自身に出してほしい。	女	40代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考12

男女別・年代別の「⑧ー1 主たる介護者を支えるようなもの」

(1. 家族 2. 知人・友人 3. ヘルパー・ボランティア 4. 患者会 5. 公的な機関・制度 6. 趣味・外出など 7. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	娘達	男	60代	SJS
1	夫と弟の二人の介護を主たる介護者(介護2)の母が息子の目となり日常生活を助けている	男	40代	SJS
1	長女はオーケストラ部の練習に夢中、自動車免許の取得で介護に役立つ、就職内定がでた、二女は月曜日から木曜日まで仏教の修行中思いやりの精神が生まれたそうです	女	40代	SJS
2	友人・姉妹とおしゃべり	女	60代	SJS
2	友人との旅行・おしゃべり	女	60代	SJS
2	友人、知人がよく助けて下さいます	女	80代	SJS
2	友人	男	50代	SJS
2	家族友人・知人	男	40代	SJS
2	友人に相談した	男	60代	SJS
2	健康被害者からの感謝の言葉 ・知人との会話	男	50代	SJS
2	友人に話を聞いてもらうことで気分が晴れた	男	60代	SJS
2	友人との食事などで気晴らしをする	男	60代	SJS
3	ケアマネジャー、介護事業所の連携	男	80代	SJS
3	ヘルパーにより、情報が得られた	女	80代	SJS
3	ホームヘルパー等利用しても失禁等、毎日の事を利用出来ず困る。	男	40代	SJS
3	地域包括、ヘルパー事務所のケアマネージャーなど	男	40代	SJS
4	SJSの総会出席も20回近く、いつも思うことであるが、全国各地に同じ悩みを抱えた人々が真剣な表情で訴える内容がどれも体験している共通の苦しみでありこの病気の根絶を願わずにられない	女	70代	SJS
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	女	60代	SJS
5	親戚、公的制度	女	80代	SJS
5	公的制度があっても毎日の事には追いつかない	男	40代	SJS
6	趣味(文学・パソコン)教室	女	70代	SJS
6	ある団体の心の持ち方などの勉強	女	30代	SJS
6	夏休み中自分たちのバイト趣味の活動に忙しかったので親は自分のペースでいてくれた為	女	40代	SJS
7	常に通院は社協。●. 同行ガイド●でまかなってもらっています	女	70代	SJS
7	リタイア17年、SJS26年この難事業(機構の年齢もあり)に向かう姿勢が売っている	女	70代	SJS
7	高齢化時代とあって、70代80代90代が周囲にいっぱいいる。〈SJSの患者でなくとも〉それぞれに問題を抱えている。わたくしめもそのひとりであるという。自覚。	女	70代	SJS
7	被害者からの感謝の言葉	男	50代	SJS
7	話を聞いてくれた。	女	60代	SJS
1,2	私の代わりに主人、子供、友人が助けてくれました。	女	80代	SJS
1,2	家族・友人との触れあい。	女	60代	SJS
1,2,5	公的制度、家族、友人	男	40代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	夫	男	30代	ライ症候群
1	介護者(母)が居なくなった後のことなど、真剣に考える機会となった。	男	20代	ライ症候群
2	友人と旅行。	女	30代	ライ症候群
2	友人	女	10代	ライ症候群
3	ヘルパーさんも急に言っても対応できない	女	20代	ライ症候群
3	ヘルパーさん、訪看さん	女	10代	ライ症候群
4	障害者の親の会	男	20代	ライ症候群
5	市の制度を使っていく予定	男	10代	ライ症候群
5	ヘルパーさんが数時間ほぼ毎日来てくれる	男	10代	ライ症候群
6	食事に出かけた	女	30代	ライ症候群
2,3	ヘルパーさん、友人など	男	10代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑨-2 介護者の社会参加・社会活動等のきっかけ」

(1. 家族 2. 知人・友人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ 6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	中学より楽器を習っていた為叔母のお寺の後継ぎがいなかったため	女	40代	SJS
1	家族旅行	女	40代	SJS
1	親が健康でいるた為	女	30代	SJS
2	友人の誘いや大学活動(クラブ)等で大いに楽しんだ	女	40代	SJS
2	友人、知人からの勧めがあった	男	60代	SJS
2	知人との情報交換、ネット	男	60代	SJS
3	地域の体育振興会の方に卓球の試合(地域大会)に誘われて参加しました。	男	20代	SJS
7	時間的余裕がある為	女	60代	SJS
7	散歩、買物	男	50代	SJS
7	時間的、体力的余裕がある。	女	60代	SJS
7	コンサートに行った(といっても同行ですが)	男	40代	SJS
7	浄土真宗大谷測門従事員(20年)文学研究会「土曜会」17年	女	70代	SJS
7	文学教室、パソコン教室、宗教活動。	女	70代	SJS
7	学区の小学校の体●の卓球の練習に参加	男	20代	SJS
7	趣味の活動	男	60代	SJS
8	何もしなきゃ介護でストレスがたまる	女	40代	SJS
8	ストレス発散の為	男	50代	SJS
8	健康が大切なので	女	30代	SJS
8	(介護と並行して)生きていかなければならない	女	70代	SJS
8	①上記教室 ②地域活動	女	70代	SJS
1,2	友人からの誘い、親が行きたいところへの同行	女	40代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考14

男女別・年代別の「⑩-1 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれたこと」

(1. コンサートや映画等の観賞やスポーツ観戦 2. 旅行、外出 3. 趣味 4. 患者団体等の活動 5. 地域活動 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	友人等との諸活動は、いつも気分転換になる。	女	70代	SJS
1	散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている	女	60代	SJS
1	健康被害者との散歩や、感謝の言葉	男	50代	SJS
1	休みの取れない父親を遊びに連れ出すこと	女	40代	SJS
2	あったではなく 気分転換をして行かなくては両方がダメになるでしょうね	男	50代	SJS
2	柴犬を世話しているととても楽しいです	男	50代	SJS
2	姉妹で旅行や話をする	女	60代	SJS
2	患者の会での交流	男	50代	SJS
2	本人が前向きなので心がとても救われる	女	40代	SJS
2	介護でイライラすることから解放される	女	70代	SJS
2	旅行やハイキングなど、普段の生活から離れた時	女	70代	SJS
2	本人(妻)の闘病は続いているが、私自身健康にいられたことの僥幸に恵まれていること	女	70代	SJS
2	散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが気分転換になっている	女	60代	SJS
2	社会福祉協議会の人や文字サービス窓、公的サービスの人に手伝ってもらう等地域などに発進している	男	40代	SJS
2	孫たちと家族そろって過ごすこと	男	60代	SJS
2	健康被害者の笑顔や会話が出来るとき	男	50代	SJS
2	友人達との食事会	男	60代	SJS
2	散歩	男	50代	SJS
2	二人で温泉にでかけた、良い気分転換になった	女	30代	SJS
2	友人、本人と旅行に出かけた	女	30代	SJS
2	おいしい食事を頂いた時一緒に料理の話をしました	女	30代	SJS
2	友人の家族と母親ぐるみの生活ができるようになった	女	40代	SJS
2	家庭菜園でとれた野菜を自慢する	女	60代	SJS
4	同世代の友人たちと過ごす	女	60代	SJS
4	(弟の死もあり)きょう一日を闘っていくこと	女	70代	SJS
4	友人たちとの食事会	男	60代	SJS
4	子供をたよらなくなった	女	40代	SJS
6	人生は山あり谷あり。しんどくてつらい時期は「今はトンネルの中」と思うようにして前向きな気持ちで……この47年間心満たせるようにしているのですが	男	50代	SJS
6	いずれも、人との触れ合いが気分転換になる。	女	70代	SJS
6	文学はいまを問うこと パソコンはいまを聞くこと 宗教は自らを処すること〈浄土真宗大谷派〉	女	70代	SJS
6	健康寿命の維持に力を合わせる	女	70代	SJS
6	音楽を聞く様になった	男	70代	SJS
6	介護をしている私も視覚障害があり、視覚障害のためのヨガ教室でとてもリフレッシュできました	男	40代	SJS
6	体操に行って汗をかくのですっきりして気持ちが良い	女	40代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
6	上の孫は大学のオーケストラ部でプラハ、ウィーンで演奏 下の孫はお寺を継ぐ事 某大学で学び上の娘の夫についてお檀家まわりをしておりそのことも薬膳当事である娘の励みにもなっている様です。	女	40代	SJS
6	車の運転出来るようになった(免許センターのテスト、医者 of テストリハビリ)	女	60代	SJS
1	コンサートや演劇を観に行けた	女	10代	ライ症候群
2	食事に誘われた	女	30代	ライ症候群
2	旅行	女	30代	ライ症候群
2	同じ介護者の方との食事会で気分転換になった	女	20代	ライ症候群
2	買い物をしたいする	女	20代	ライ症候群
2	先を考えると不安。グループホームなどを増やしてほしい	男	20代	ライ症候群
2	舞台を観に行ってきた。	女	10代	ライ症候群
3	外で食事をした	女	30代	ライ症候群
3	障害の息子を手放す事さえ考えなければならなくなってしまうことが、現実になると、本当につらかったですが、多くの人が支援へつなげてくださる意志が見えてうれしく思いました。とりあえず母 今は退院できてよかったです。	男	20代	ライ症候群
6	話せる人がいてる事が大切	男	20代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②-1 通院時に注意している点」

参考15

内 容	性別	年代	疾病
(診療時間が)どちらかの孫の通学時間なので終点駅まで一緒に来て私がそこでタクシーにのりかえ某医大まで行っています	女	40代	SJS
ヘルパーを利用する機会が多いけど病院内は各スタッフが案内してくれるので、1人でも不自由を感じない。天候によってタクシーを利用(雪国なので)	女	60代	SJS
初めて行く病院等はガイドヘルパーや親と受診する	男	40代	SJS
病院に行く時は、母(親、妹)タクシーで行く	男	50代	SJS
担当医が良くみて下さっている。	女	60代	SJS
待ち時間を少なくするために予約している	男	60代	SJS
タクシーで妻と一緒にいく	男	70代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②-2 治療を受けるときに注意している点」

参考16

内 容	性別	年代	疾病
SJSを告げると投薬する場合考えこむ昨年肺炎の際ふつうは入院しなくても良いのに念のために入院をした。	女	60代	SJS
ペニシリン注射で副作用を受けたので、そのことをしっかりいう	女	60代	SJS
新しい薬をつかう時。	女	60代	SJS
発症時に発行された禁止投与薬品のメモ(Dr署名)のコピーを窓口へ渡す	女	70代	SJS
PMDAのカードを見せる	男	50代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②－3 治療を受けるときに困ったこと」

参考17

内 容	性別	年代	疾病
SJSといっても知らないので副作用でといって、ケロイドを見せたり、つめの部分を見せる。	女	60代	SJS
消化器外科へ緊急入院時同病院の眼科外来でSJSである事を告げたら拒否された 逆さまつげ抜糸のみ対応	男	40代	SJS
あまり積極的な治療していただけなかった。	女	80代	SJS
薬の副作用を医師が極端に警戒し、新しい薬をださないことが多い。	女	70代	SJS
昔はSJSである事を云はないようにと医師に口止めされていた 少なくとも昭和55年までは	男	50代	SJS
この薬を使用しては？⇒つかってみないとわからないと言われた時	女	60代	SJS
SJS以外の治療例えば胃や腸等治療受ける際薬等、色々聞かれます。	女	70代	SJS
SJSをわりと軽くみている医師もいる。なかなか薬を出してもらえなかった。予防注射(インフルなど)はしてもらえない	女	60代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「②-4 その他注意している点」

参考18

内 容	性別	年代	疾病
注射や投薬の場合必ず「何の薬か？」と確認。マスクをして行き、手洗もしっかりする。	女	60代	SJS
薬の副作用に注意する。	女	60代	SJS
飲み薬は極力飲まないことを医師に告げ治療法を検討してもらう	男	60代	SJS
感染症の予防	男	60代	SJS
いろんな症状の変化を詳しく話している	男	20代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考19

男女別・年代別の「③－1 過去にあった困ったこと」

(1. 外出に関すること 2. 仕事に関すること 3. 日常生活に関すること 4. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	1人で住民票をもらいに駅の区役所の派出所へ行行ったが記入する用紙の文字が見えにくくて困った。このアンケートの記入も、どこに書いていいのかわからなくなり、困った。	女	40代	SJS
3	見え辛い	女	50代	SJS
3	眼のかんそうがひどくなり痛みがある時が増えた。昨年肺炎をおこしたので、この時期不安になった	女	60代	SJS
3	夫が病気をした。(現在も) 目が不自由でなければと思うとなさげなく、腹立たしいです。・母(85)の介護にかかわれない。弟に任せきり。(弟の奥さんもアルツハイマー(若手))	女	60代	SJS
3	視力障害	男	50代	SJS
3	(介護者)家族の高齢による体力の低下や認知症状で周囲は大変疲れる (本人)視力低下に加えて、精神的抑うつ状態によって外出時や自宅においてもよくケガをする	男	40代	SJS
3	買い物や散歩などで外出する際に、介護者が必要なこと	女	60代	SJS
3	誰もいない時にトラブルあった時(水道止まらなくなった.etc) また、おし売り、勧誘の方が来た時	女	80代	SJS
3	医療費が高い。	女	40代	SJS
3	視力が徐々に下がり、見えにくくなっている	男	50代	SJS
3	体力がなくなり毎日の生活をするのがつらくなった	女	80代	SJS
3	便秘で排泄のコントロールが難しくなった。体調を崩すことが増えてきた。	男	80代	SJS
3	できない事がふえた	男	40代	SJS
3	見えないため、自力でできないことがあると気分が落ち込む	男	60代	SJS
3	両親も高齢になり、身近にサポートしてくれる人がいない	女	50代	SJS
3	視力が落ちてパニック障害が再発した	女	60代	SJS
3	視力低下、体調の悪化	男	40代	SJS
3	①視力の減退②健康不安③介護者(夫)の健康	女	70代	SJS
3	現在コンタクトなしでは歩けないこのコンタクトが某大学病院にてサンコンタクト某地名というコンタクトを装着しているのですが高額のため、もし紛失したら自己負担との等最良策はないのかと思います	女	70代	SJS
3	全く見えなく成ったので	男	70代	SJS
4	年令とともに体がうごかない(にぶくなる)	女	60代	SJS
3	母の老化	女	40代	ライ症候群
3	チックなどの症状がひどくなった	男	20代	ライ症候群
4	抑制	男	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考20

男女別・年代別の「③－4 解決策(解決した方)」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
5	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた	女	60代	SJS
5	その都度対応出来た	女	80代	SJS
5	訪問看護で排泄のコントロールができた。定期的に看護師が訪問することで不安を解消できた	男	80代	SJS
6	主の介護者(夫)の脳梗塞から良くなってきた。	女	60代	SJS
5	多少多く手をかしてもらう	女	60代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考21

男女別・年代別の「③－5 解決策(解決していない方)」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
2	現在、視力の回復は見込めない	男	50代	SJS
5	公的なものでは、決まりがあり、お金がかかります	女	60代	SJS
5	もう少し医療費の自己負担を減らして欲しい。	女	40代	SJS
5	していない理由 ・サポートお願いできる人が身近にいない→探している ・ヘルパー不足で利用が不便→ヘルパー増員、利便性を願っている	女	50代	SJS
6	解決方法がない	女	50代	SJS
6	わからない	男	40代	SJS
6	極力自分自身で規則正しい一日を送れるように心がけてみる(睡眠、食事、運動、趣味や仕事などの取組みについて)	男	40代	SJS
6	治療法がない以上、解決できない	男	50代	SJS
6	分からない 年なので体力は少ないです	女	80代	SJS
6	自分でできない以上あきらめるしかない	男	60代	SJS
6	今はわからない 薬を常用するようになっている	女	60代	SJS
5	公的支援。	女	30代	ライ症候群
6	病気は治ることはない	男	20代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考22

男女別・年代別の「④－1 満足度の理由」

(1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	仕事の充実	男	40代	SJS
1	友人、知人、ボランティアさんに恵まれ助けられています	男	40代	SJS
1	介護サービスを利用することで安心して生活が送れている	男	80代	SJS
1	家族とともに毎日幸せです	男	40代	SJS
2	子供達の成長と病院の入院時、待ち時間等で知りあったお方とのおしゃべりも何せ4才児からですので「心のケアまかせといて」と楽しんでいます。中年以後に患った方の不安は横で聞いておりましても同情するものがあり付添いではわからないことばかりです	女	40代	SJS
2	大きな健康障害もなく、旅行なども出来て、平穏な1年だった。	女	70代	SJS
2	不自由な事も多いですが就労できることです	男	40代	SJS
2	出来る事はやる事が出来た	女	30代	SJS
2	弱視のトラブル(痛み)がすくないこと	女	70代	SJS
2	まわりの人が親切にしてくれる	男	60代	SJS
2	家族や回りの人がいてくれるから	女	50代	SJS
2	家の中では一人で動ける事が多いから	女	60代	SJS
3	年齢とともに体力が落ちてきた。	女	60代	SJS
3	大きな変化はなく生活できているため	男	50代	SJS
3	圧迫骨折をしてから、動きが悪くなって、今まで以上に時間がかかって日常生活が大変	女	80代	SJS
3	眼が見えない事で、うつ状態になる事がある	男	50代	SJS
3	病気が良くなった完全にではない	女	60代	SJS
3	できない事がふえた	男	40代	SJS
3	自分自身でできることに限界がある	男	60代	SJS
3	精神的に辛い	女	60代	SJS
4	視力・視野障害	女	50代	SJS
4	日常生活に不便を感じているから	男	50代	SJS
4	出来ない事が増えた	男	50代	SJS
4	就職活動や起業活動をしてみたり、気分転換で楽しむために観る映画や演劇鑑賞もあまり楽しめず、余計にストレスがたまる事も少なくないため	男	40代	SJS
4	移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う	女	60代	SJS
4	見えない事によりストレスがかなりあった。考えていると依夜ねむれず、不眠になったので。	女	80代	SJS
4	日常的に肺(呼吸)が苦しくて、生活動作が辛い。	女	40代	SJS
4	完全に視力を失ったから	男	60代	SJS
4	日々の生活で精一杯 将来の不安ばかり(両親の老後含め)	女	50代	SJS
4	自由に外出できない 視力低下	男	40代	SJS
4	見たい物が人からの表現では理解できないため。	男	50代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「⑤ 日常生活を満足するために一番やりたいこと」

参考23

内 容	性別	年代	疾病
仕事	女	40代	SJS
音楽	男	40代	SJS
小中●校と薬剤師か医師になりたかったが頭脳と目のことで叶わずならば●●●●現営部を出て数学を教えるも結婚出産とだんだん目の方も悪くなり今にいたっております。●●この頃はカウンセラーに向いているかもと云っております。まわりはどうぞ御勝手にといったところです。	女	40代	SJS
なし	男	40代	SJS
ふつうに仕事や生活	女	60代	SJS
変わり様がないので何も出来ません	男	70代	SJS
就職活動や起業活動をしているがうまく行かない。収入を得る仕事をしたい。	男	40代	SJS
移動する	女	60代	SJS
湯治(とうじ)	女	40代	SJS
特にないですが、周りに害がなく生きたいです	女	80代	SJS
まずは衣・食・住 最低限の生活の質を安定させたい。それがないと、社会参加したくてもできない。	女	50代	SJS
今は思いつかない	女	60代	SJS
花が咲いてくれること	女	70代	SJS
一番の希望は旅行ですが、理解出来る同行者がなかなかいないのでとても残念です。	女	70代	SJS
抑制しない	男	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考24

男女別・年代別の「⑤-2 一番やりたいことを実現できるかどうか」

(1. 経済的理由 2. 健康上の理由 3. 精神的理由 4. 家族や友人に関する理由 5. 周辺的环境 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	経済的なこともあるしその場所まで行くには交通の便が悪い。	女	60代	SJS
1	時間、費用等の問題	男	50代	SJS
2	目が不自由で、体が思うようにならないこと 治療法がなく、地方での医療に限度あります	女	60代	SJS
2	1人だと公共交通機関が利用しにくい	男	50代	SJS
2	視力なし、初めて行く所は一人外出が出来ない為、家人や、ガイドヘルパーを利用する事で、ガイドヘルパーは利用しても、視覚障害を持っての在宅訪問によるマッサージ業務ぐらいしか、現在の自分に出来そうな仕事が殆ど考えられないが、以前にも同じ仕事の経験から、また同じように長時間の送迎車の乗車やアレルギーの原因となりやすい訪問先での動物の毛、たばこの煙に遭遇しかねないといった不安も大いにあるため。	男	40代	SJS
2	健康で体力が維持できること。	女	60代	SJS
2	遠方に外出することが困難	女	40代	SJS
2	1人では生きていけない為	女	80代	SJS
2	家で転倒して骨折してしまった。今は入院してリハビリ中である為	男	50代	SJS
2	気力がなくなりました	女	60代	SJS
2	病状が改善しないため	男	40代	SJS
2	視力の安定	女	70代	SJS
2	自分の足で(たすけてもらいながら)歩いている。(いける)。	女	40代	SJS
4	子どもにつきそってもらう事出来るため	女	80代	SJS
4	家族と計画している	男	60代	SJS
4	主人を含め、友人達が協力的であるから。	女	70代	SJS
4	友人と旅行に行く予定があります。	女	60代	SJS
4	親が元気である事	女	30代	SJS
4	旅行などは自家用車を利用すればできる	男	70代	SJS
4	家族が一緒に行ってくれるから	女	50代	SJS
4	魚つりに子供がつれていってくれる予定があるため	男	50代	SJS
5	出来る事をするから	女	50代	SJS
5	自分で楽しんで挑戦するのみと思っているそうです。	女	40代	SJS
5	ITが発達して使い易くなった	男	50代	SJS
5	友人、知人、ボランティアさんにサポートして頂けるからです	男	40代	SJS
5	移動する際のサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う	女	60代	SJS
5	ガイドヘルパーの付き添いで外出ができる	男	80代	SJS
5	事前に連絡しなくてはいけない場合が多く、めんどくさい。	男	40代	SJS
5	まわりの人が助けてくれる	男	60代	SJS
5	それぞれ家庭が有り、家族が有り、仕事があるので自分に合わせてもらう事がなかなかむずかしい。	女	70代	SJS
5	一緒に行ってくれる人が多いから	女	60代	SJS
6	自力でできる限界を受け入れること	男	60代	SJS

区分	内 容	性別	年代	疾病
6	実際に現在行っている	男	40代	SJS
6	現在、解決策が見当たらないから。	女	50代	SJS
4	共感しあえる同士でがんばれる	男	20代	ライ症候群
4	被害者を見てくれる人がいない。	女	30代	ライ症候群
6	他に方法がない	男	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考25

男女別・年代別の「⑥ 日常生活で工夫したこと」

(1. 生活環境、家屋等の構造の工夫 2. サービスの活用 3. 補助器具等の活用 4. 生活習慣の工夫 5. 精神面の工夫 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	食材がみやすいように、食器やまな板は黒っぽいものを使っている	男	50代	SJS
1	家で段差のあるところに目印をつけておく	女	60代	SJS
1	ガラケイからスマホへの切替。	女	70代	SJS
1	視覚障害のため、場所や位置を変更すると分らなくなるのであまり配置を変えないよう工夫している	男	80代	SJS
6	①サカサマツゲの即対応(Dr)	女	70代	SJS
1	古い家屋なので改そうもむずかしく ただ風呂とか階段等手すりをつけたり、つまずかない様に多少バリアフリーにしたりしています	女	70代	SJS
4	夫婦(親)が交替で看護している。	女	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考26

男女別・年代別の「⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望」

(1. 介護サービス(介助者関係) 2. 制度の充実 3. 施設面 4. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	介護と支援の連たいがほしい	女	60代	SJS
1	移動が不自由なため移動のサポートを充実してほしいです	男	40代	SJS
1	(1)地元の公共図書館やコミュニティセンターで常時自分が必要とする時に蔵書・私物書類を問わずに無償で代読や代筆サービスを受けられる事。(2)障害者総合支援法内の居宅支援サービスや、同行援護の制度だけでは時々緊急時に対応できない場所や時間帯勤務によする人的サポートニーズにおいても対応してもらえるような無償の公的専門支援員の派遣利用制度の設置。	男	40代	SJS
1	ヘルパーの車に乗車できると良い・配食のサービスがあるといい(サービス内容を充実して欲しい)・福祉サービスとは違いますが、金融機関(行員)による、代筆を可能にして欲しい。	女	50代	SJS
2	通院に際して介護タクシーが少なく、タクシーをさがすのが困難。役所から通知見えないので通知と、電話連絡あると助かる。	女	80代	SJS
2	家事代行サービスを受ける頻度をもう少し増やしたい。	女	40代	SJS
2	アイホン等最近の情報端末の視力障害者が利用しやすい指導、教育支援の充実。	女	70代	SJS
2	私も年なので、早く認定してほしいです	女	80代	SJS
2	福祉サービスを受けるための書類が多い 急に何か困りごとがあればすぐに対応してほしい。	男	80代	SJS
2	サービスしてる人がいない。場所も。お金もないので、できないとおもいます。サービスを望んでいる人は毎年多くなっています。	女	60代	SJS
2	介護タクシー等の利用料金がもっと下がるよう、働きかけてほしい。	男	70代	SJS
2	最近ですけど某市障害者福祉協ギ会や視覚障害者の会に参加して、年に1〜2回バス旅行等に参加する事が出来良かったです。	女	70代	SJS
2	制度と現実が少しずれている	女	50代	SJS
3	テレビの副音解説のように映画でも解説してくれる人の配置があると、映画鑑賞が可能になります。	女	50代	SJS
4	現在サービスを受けていないので必要を感じません。	女	60代	SJS
4	特になし ※自己負担金が発生しないようにならないか？	男	60代	SJS
4	現在受けているサービスで満足している	男	50代	SJS
4	(今は介護者(夫)がいるからよいが)適切な助言者に不安がある	女	70代	SJS
1	介護者が外出旅行等々で観てくれる人が欲しい。	女	30代	ライ症候群
2	都道府県や市から、支援費が案外沢山出ているらしいが、本人には届かず、支援センターへ高額が支給され、本人には紙オムツ代ももらえない故、支援は本人にしてもらいたい。	女	40代	ライ症候群
2	グループホームを作してほしい 親亡きあとの事を考える	男	20代	ライ症候群
3	抑制をはずす時間があると良い	男	30代	ライ症候群

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)からみた生活状況の概要

参考27

男女別・年代別の「⑨ 今必要な情報について具体的に知りたいこと」

(1. 医療・福祉サービス 2. 年金 3. 趣味・娯楽 4. 住環境 5. 社会活動・就職 6. 経済面 7. その他)

区分	内 容	性別	年代	疾病
1	iPSによるSJSの治療	男	40代	SJS
1	この副作用の予後。機構の認定の変化(化学的・リレ床的)。SJSに認定申請して、認定されなかった人々の数。副作用患者のほんとうの数。今の薬剤の安全性は、うその数字です。機構がとりでになっているためです。化学的、医学的な認定をのぞみます。	女	60代	SJS
1	治療に関する情報が知りたい	女	60代	SJS
1	呼吸器科の専門医を知りたい。	女	40代	SJS
1	病気や治療に関する情報を得たい	男	80代	SJS
1	今後の治療に関する事	男	50代	SJS
1	介護自分だけでやるには、身体精神的につらくなって来た。話してくれる人が、良くわからない。	女	60代	SJS
1	よりよい日常生活を送るための情報	女	50代	SJS
4	ITを使っでの生活パターンに、視力障害者が取り残されないサポート体制が欲しい。	女	70代	SJS
5	職業訓練内容や講習会等の情報を知りたい。必要公認資格試験対策について専門的に相談できる窓口へのアクセス方法。	男	40代	SJS
7	二十六年間闘病してきて、これからどうなるのか。	女	70代	SJS

注)内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

V 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成 13 年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構および財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成 16 年 4 月 1 日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器等の品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成 16 年 4 月 1 日

法人の種別：非公務員型独立行政法人

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和 55 年 5 月 1 日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和 54 年 10 月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成 14 年 12 月 20 日 法律第 192 号）

第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそう等のウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリン等のサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれん等の急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 S J S（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 Q O L（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感等の諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境等の広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善等がある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護（ホームヘルプ）

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言等日常生活上の世話をを行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士等が訪問して、必要な診療の補助を行うことを指す。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを指す。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護（デイサービス）

在宅の高齢者等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェック等のさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション（デイケア）

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

1 6 短期入所（ショートステイ）

居宅で暮らす要介護者について、介護を行う者の疾病その他の理由により、老人短期入所施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等の福祉施設に短期間入所させ入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話および機能訓練を行うことである。

1 7 移送サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助等を行う送迎サービス。

1 8 同行援護

障害者自立支援法の地域生活支援事業において、視覚障害者が外出する際、その障害者に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行うこと。

1 9 就労移行支援

就労を希望する 65 歳未満の障害者に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上の為に必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着の為に必要な相談、その他の必要な支援を行うこと。

2 0 就労継続支援 A 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

2 1 就労継続支援 B 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書

(生活状況調査票)

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(SJS 等用)
第4・四半期分（平成31年1月～平成31年3月）

調査票記入者氏名	本人との関係	
----------	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

記入例

1. 健康被害者情報 基本情報

(ふりがな) きこう たろう
氏 名 機構 太郎 性別 (男) 女

生年月日 (大正 昭和 平成) 30年00月00日

自 宅 住 所
(〒100-0013)
東京都千代田区霞が関0-00-0

[電話番号(00) 0000-0000]
[FAX番号(00) 0000-0000]

2. 家族構成 月末日現在
同居家族全員を記入してください。

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度
視 力 障 害 1 級
級

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏名性別男女

大正
生年月日昭和年月日
平成

自宅住所
(〒ー)

[電話番号()ー]

[FAX番号()ー]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

記入例

A票

(S J S等用)

毎月記入

生活状況調査票

月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

①	ソフトサンティア	☒ 右眼	☒ 左眼	②	クラビット	右眼	左眼
③	ヒアレイン	右眼	左眼	④	フルメトロン	右眼	左眼
⑤	0.1%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑥	リンデロン	右眼	左眼
⑦	0.3%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑧	血清点眼	右眼	左眼
⑨	その他眼科処方薬（内服薬を含む）						
	（処方薬				）	右眼	左眼
	（処方薬				）	右眼	左眼
⑩	涙点プラグ	☒ 右眼	左眼				

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ

② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ

③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい：

・遠距離の眼科に通う時の宿泊施設の利用（ボランティア運営）

生活状況調査票

1月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

①	ソフトサンティア	右眼	左眼	②	クラビット	右眼	左眼
③	ヒアレイン	右眼	左眼	④	フルメトロン	右眼	左眼
⑤	0.1%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑥	リンデロン	右眼	左眼
⑦	0.3%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑧	血清点眼	右眼	左眼
⑨	その他眼科処方薬（内服薬を含む）						
	(処方薬					) 右眼	左眼
	(処方薬					) 右眼	左眼
⑩	涙点プラグ	右眼	左眼				

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス

→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ

② 介護保険制度に基づく福祉サービス

→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ

③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい：

記入例

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 同行援護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ (5)
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
② 就労移行支援 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ (5)
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
③ 就労継続支援A型 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ (5)
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
④ 就労継続支援B型 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ (5)
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
⑤ 上記以外のサービス 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ (5)
(サービス名 :)	上記の理由 必要がない

次頁へ続く ↓

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 同行援護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
② 就労移行支援 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
③ 就労継続支援A型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
④ 就労継続支援B型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
⑤ 上記以外のサービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
(サービス名 :)	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 訪問介護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由 必要がない
② 訪問入浴介護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
	上記の理由 必要がない
③ 訪問看護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
看護内容	上記の理由 必要がない
④ 訪問リハビリ 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由 施設のリハビリに通っている
⑤ 居宅療養管理指導 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
指導内容	上記の理由 必要がない

次頁へ続く ↓

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を 1 つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 訪問介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
② 訪問入浴介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
	上記の理由
③ 訪問看護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
看護内容	上記の理由
④ 訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤ 居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
指導内容	上記の理由

次頁へ続く ↓

記入例

⑥ 通所介護 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
介護内容 入浴 食事介助	上記の理由 職員が親切である
⑦ 通所リハビリ 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
リハビリ内容 運動機能を訓練	上記の理由 効果が現れない
⑧ 短期入所 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由 必要がない
⑨ 送迎サービス 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容 施設への送迎	上記の理由 月に利用できる回数を増やしてほしい
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容：	上記の理由 どのようなサービスがあるかわからない

⑥ 通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦ 通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑧ 短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨ 送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ① ② ③ ④ ⑤
サービス内容：	上記の理由

記入例

(S J S等用)

B 票

生活状況調査票

4 半期毎記入

期	月～ 月分	平成 年 月末日現在
---	-------	------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いずれか1つに○を付けてください。)

- ①. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日 2. 週に4から5回 3. 週に2から3回 ④. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。（該当するもの全てに○を付けてください。）

1. 介助なし 2. 配偶者 3. 親 ④. 子供 5. その他の家族
6. 親戚 7. ホームヘルパー 8. 隣人・知人 9. 雇人
10. ボランティア 11. その他（ ）

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
2. ある

② - 1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
 2. 経費がかかる
 3. 人の目が気にかかる
 4. 人と話をすることが困難
 5. 外出に必要な情報が得られない
 6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
 7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
 8. 利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便
 9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他（

次頁へ続く ↓

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

IV期	1月～3月分	平成 31 年 3 月末日現在
-----	--------	-----------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人

2. 本人の意向を聞いて介護者が記入

3. 本人の意向をくみとり介護者が記入

4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日

2. 週に4から5回

3. 週に2から3回

4. 月に2から3回

5. まったく外出していない

①－1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし

2. 配偶者

3. 親

4. 子供

5. その他の家族

6. 親戚

7. ホームヘルパー

8. 隣人・知人

9. 雇人

10. ボランティア

11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない

2. ある

②－1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない

2. 経費がかかる

3. 人の目が気にかかる

4. 人と話をすることが困難

5. 外出に必要な情報が得られない

6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便

7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便

8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便

9. 人の混雑や車に身の危険を感じる

10. 駅などにおける人間関係のトラブル

11. その他 ()

次頁へ続く↓

記入例

②－２ 外出するうえで工夫したことは何ですか。（該当するもの全てに○を付けてください。） 【外出前の準備について】 １． 予め、交通機関（時刻や乗り換えなど）や経路について調べておく ②． 介助者を依頼する（同行支援・行動支援など） ３． コースを事前に決めておく ４． その他（ ）
【服装・持ち物について】（該当するもの全てに○を付けてください。） ①． 目立つ服装をした ２． 目の保護のためサングラス、帽子を着用した ３． 白杖の使用 ４． 両手が使えるよう、リュックサックを使用した ５． その他（ ）
【移動手段について】（該当するもの全てに○を付けてください。） １． 自家用車を利用（家族、友人・知人による送迎） ２． 介護タクシーを利用 ③． 公共交通機関を利用 ４． その他（ ）
【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】
③ 健康被害者が過去３ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）などをしましたか。 ①． まったくしていない ２． 参加（活動）した
③－１ まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をしなかった理由は何ですか。（該当するもの１つに○を付けて下さい。） ①． 介助者がいなかった ２． 時間的・経済的余裕がなかった ３． 体力的に余裕がなかった ４． その他（ ）
③－２ 参加（活動）したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をするきっかけについてお書きください。
③－３ 参加（活動）した方にお聞きします。そればどのような内容でしたか。 （該当するもの全てに○を付けてください。） １． コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 ２． スポーツ教室、大会などへの参加 ３． 旅行・キャンプ・つりなどの活動 ４． 趣味の同好会活動 ５． ボランティアなどの社会活動 ６． 障害者団体の活動 ７． 地域活動 ８． パソコンを利用した社会参加 ９． 友達との遊び １０． その他（ ）

次頁に続く ↓

②－２ 外出するうえで工夫したことは何ですか。（該当するもの全てに○を付けてください。） 【外出前の準備について】 １．予め、交通機関（時刻や乗り換えなど）や経路について調べておく ２．介助者を依頼する（同行支援・行動支援など） ３．コースを事前に決めておく ４．その他（ ）
【服装・持ち物について】（該当するもの全てに○を付けてください。） １．目立つ服装をした ２．目の保護のためサングラス、帽子を着用した ３．白杖の使用 ４．両手が使えるよう、リュックサックを使用した ５．その他（ ）
【移動手段について】（該当するもの全てに○を付けてください。） １．自家用車を利用（家族、友人・知人による送迎） ２．介護タクシーを利用 ３．公共交通機関を利用 ４．その他（ ）
【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】
③ 健康被害者が過去３ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）などを行いましたか。 １．まったくしていない ２．参加（活動）した
③－１ まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をしなかった理由は何ですか。 （該当するもの１つに○を付けて下さい。） １．介助者がいなかった ２．時間的・経済的余裕がなかった ３．体力的に余裕がなかった ４．その他（ ）
③－２ 参加（活動）したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をするきっかけについてお書きください。
③－３ 参加（活動）した方にお聞きします。そればどのような内容でしたか。 （該当するもの全てに○を付けてください。） １．コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 ２．スポーツ教室、大会などへの参加 ３．旅行・キャンプ・つりなどの活動 ４．趣味の同好会活動 ５．ボランティアなどの社会活動 ６．障害者団体の活動 ７．地域活動 ８．パソコンを利用した社会参加 ９．友達との遊び １０．その他（ ）

次頁に続く↓

記入例

④ 屋内での生活で工夫していることはありますか。 ①. ある 2. ない	
④ー１ あるとお答えになった方にお聞きします。 屋内での生活でどのような工夫をされていますか。	
【家の造り・動線・物の配置に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。） 1. 通路や床に物を置かない 2. よく使う物は、同じ場所に置く ③. 段差がないように敷物などで調整した 4. 移動の妨げにならないよう、部屋の扉は開けたままにしておく 5. その他（ ）	
【補助用具・音声の活用に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。） ①. 拡大読書器・ルーペの活用 2. 音声ガイドや朗読サービスの活用 3. その他（ ）	
【衛生面・乾燥対策に関するもの】（該当するもの全てに○を付けてください。） 1. 乾燥予防のため加湿器を利用している（台数を増やした） ②. こまめな温度調節 3. ハウスダストの徹底した除去（気管支炎など呼吸器系疾患の原因となるため） 4. その他（ ）	
【区別方法に関するもの】（該当するもの全てに○を付してください。） 1. 点字シールを付ける 2. カラーテープで目印をつける ③. 室内の動線に、カラーテープや蛍光塗料で目印を付ける 4. その他（ ）	
④ー２ 上記以外に、屋内での生活で工夫したことがありましたらお書き下さい。 ・食器などの整理整頓しやすい棚の配置 ・扉はすべて開けておく	

次頁に続く ↓

記入例

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○をつけてください。)

①. 健康被害を受けた人

2. 本人の意向を聞いて介護者が記入

3. 本人の意向をくみとり介護者が記入

4. 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものがみえにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	まったく 不自由 はない ①..... あまり 不自由 はない ②..... とても 不自由 ③..... 見えにくい のでやめた ④
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	まったく ない ①..... かすかに ある ②..... 中くらい ある ③..... かなり ある ④
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ない ①..... ある ②
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ない ①..... ある ②

⑤-5 視力以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

【皮膚や爪に関する症状】

①. 皮膚のかゆみ、乾燥

2. 癬痕が残る

3. 爪の変更、剥離

4. その他 ()

【内臓機能に関する症状】

1. 高血圧

2. 粘膜不全(粘膜部分からの出血等)

③. 心肺機能の低下・異常

4. 肝機能の低下・異常

5. 腎機能の低下・異常

6. その他 ()

【聴覚・呼吸機能に関する症状】

1. 音声聞き取りにくい(難聴)

2. 気管支炎、ぜん息

③. アレルギー性鼻炎

4. その他 ()

次頁に続く↓

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。 (いずれか1つに○をつけてください。) 1. 健康被害を受けた人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答									
⑤ 日常生活についてお聞きします。 (各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)									
⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	<table><tr><td>まったく 不自由 はない</td><td>あまり 不自由 はない</td><td>とても 不自由</td><td>見えにくい のでやめた</td></tr><tr><td>①.....</td><td>②.....</td><td>③.....</td><td>④</td></tr></table>	まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた	①.....	②.....	③.....	④
まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた						
①.....	②.....	③.....	④						
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	<table><tr><td>まったく ない</td><td>かすかに ある</td><td>中くらい ある</td><td>かなり ある</td></tr><tr><td>①.....</td><td>②.....</td><td>③.....</td><td>④</td></tr></table>	まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある	①.....	②.....	③.....	④
まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある						
①.....	②.....	③.....	④						
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	<table><tr><td>ない</td><td>ある</td></tr><tr><td>①.....</td><td>②</td></tr></table>	ない	ある	①.....	②				
ない	ある								
①.....	②								
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	<table><tr><td>ない</td><td>ある</td></tr><tr><td>①.....</td><td>②</td></tr></table>	ない	ある	①.....	②				
ない	ある								
①.....	②								
⑤-5 視力以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)									
【皮膚や爪に関する症状】 1. 皮膚のかゆみ、乾燥 2. 癬痕が残る 3. 爪の変更、剥離 4. その他 () 【内臓機能に関する症状】 1. 高血圧 2. 粘膜不全(粘膜部分からの出血等) 3. 心肺機能の低下・異常 4. 肝機能の低下・異常 5. 腎機能の低下・異常 6. その他 () 【聴覚・呼吸機能に関する症状】 1. 音声聞き取りにくい(難聴) 2. 気管支炎、ぜん息 3. アレルギー性鼻炎 4. その他 ()									

次頁に続く↓

記入例

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】 ①. さかさまつげ 2. ドライアイ（涙が出ないなど） 3. 角膜の炎症 4. その他（ ） 【口腔に関する症状】 1. 口内炎 2. 味覚障害 ③. 口の中が乾く（乾きやすい） 4. その他（ ） 【精神的な症状】 ①. 不安障害 2. 睡眠障害 3. うつ 4. その他（ ）
【視力以外の症状で上記に掲げたほかにごございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

1. さかさまつけ
2. ドライアイ（涙が出ないなど）
3. 角膜の炎症
4. その他（）

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
3. 口の中が乾く（乾きやすい）
4. その他（）

【精神的な症状】

1. 不安障害
2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他（）

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

記入例

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○を付けてください。)

①. 主として介護をしている配偶者

2. 主として介護をしている親

3. 主として介護をしている兄弟姉妹

4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん
良好

まあ
良好

やや
悪い

たいへん
悪い

①.....②.....③.....④

⑥ー1 その理由は何ですか。

常に介護が必要なため

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

①. 増えた

2. 減った

3. 変わらない

4. 困ったことはない

⑦ー1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった

⑦ー2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 ①b 母親)

2. 配偶者 (a 夫 b 妻)

3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)

4. 兄弟姉妹

5. 祖父母

6. 友人・知人

7. 会社の上司・同僚

8. 学校の先生

9. 医師

10. 看護師・保健師

11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 ①c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)

12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口

13. 障害者の団体(親、家族の会を含む)

14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1

15. 地域包括支援センター※2

16. その他 ()

17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

-188-

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他（

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん	まあ	やや	たいへん
良好	良好	悪い	悪い
①	②	③	④

⑥－１ その理由は何ですか。

⑦ この１年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

1. 増えた 2. 減った
3. 変わらない 4. 困ったことはない

⑦－１ 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。（該当するもの全てに○を付けてください。）（複数回答可）

※選択肢 1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親（a 父親 b 母親）
2. 配偶者（a 夫 b 妻）
3. 子供（a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻）
4. 兄弟姉妹
5. 祖父母
6. 友人・知人
7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生
9. 医師
10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等（a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市（区）役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員）
12. 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体（親、家族の会を含む）
14. 障害者相談支援センター（相談支援事業者を含む）※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他（
17. 相談する人はいない

※1：障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2：介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く ↓

記入例

⑦－３ 解決策はありましたか。	☒ ①. 解決した	２. していない
⑦－４ 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。 身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した		
⑦－５ していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。		
⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。 (公的制度、友人・知人、ボランティア等)	☒ ①. あった	２. なかった
⑧－１ それは具体的にどのようなものですか。 患者の会で病院や介護施設の情報交換をした		
⑨ 介護者等が過去３ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）などをしましたか。 ☒ ①. まったくしていない ２. 参加（活動）した		
⑨－１ まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの１つに○を付けて下さい) １. 時間的・経済的余裕がなかった ☒ ②. 体力的に余裕がなかった ３. その他 ()		
⑨－２ 参加（活動）したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をするきっかけについてお書きください。		
⑨－３ 参加（活動）した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。) １. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 ２. スポーツ教室、大会などへの参加 ３. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 ４. 趣味の同好会活動 ５. ボランティアなどの社会活動 ６. 障害者団体の活動 ７. 地域活動 ８. パソコンを利用した社会参加 ９. 友達との遊び １０. その他 ()		
⑩介護をしてく中で、新しい発見や気分転換などが はかれましたか。	☒ ①. あった	２. なかった
⑩－１ あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。 散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている		

記入例

(S J S等用)

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3 月 末 日 現 在

答えられる範囲でお答えください。
(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

①健康被害を受けた本人

2. 本人の意向を聞いて介護者が記入

3. 本人の意向をくみとり介護者が記入

4. 介護者が回答

①健康被害を受けた方の治療状況
(SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)

①入院中
(いつから入院していますか：から)

②通院中(往診含む)(月に2回)

②副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく

②通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)

3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける)

4. 介護タクシーの利用

5. その他

具体的にお書きください：

②-2治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

①既往歴(SJSであることなど)を告げる

2. お薬手帳を持参

3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている

④その他

具体的にお書きください：

PMDAが発行しているカードを見せる

②-3治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

①SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)

2. SJSであることを告げたら、診療を拒まれた

3. その他

具体的にお書きください：

次頁へ続く↓

-192-

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。
(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- 1. 健康被害を受けた本人
- 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況 (SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)	① 入院中 (いつから入院していますか： から) ② 通院中(往診含む) (月に 回)
--	---

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

- 1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく
- 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)
- 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける)
- 4. 介護タクシーの利用
- 5. その他

具体的に書きください：

②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

- 1. 既往歴(SJSであることなど)を告げる
- 2. お薬手帳を持参
- 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている
- 4. その他

具体的に書きください：

②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

- 1. SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)
- 2. SJSであることを告げたら、診療を拒まれた
- 3. その他

具体的に書きください：

次頁へ続く↓

記入例

②－４　その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか１つに○を付けてください。）

- ①. 健康被害を受けた本人
２. 本人の意向を聞いて介護者が記入
３. 本人の意向をくみとり介護者が記入
４. 介護者が回答

③　この１年間で困ったことが、

①. 増えた

２. 減った

３. 変わらない

４. 困ったことはない

③－１　困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと

③－２　誰かに相談しましたか。（該当するもの全てに○を付けてください。）（複数回答可）
※選択肢１，２，３，１１を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

１. 親（a 父親 ①b 母親）
２. 配偶者（a 夫　b 妻）
３. 子供（a 息子　b 娘　c 娘の夫　d 息子の妻）
４. 兄弟姉妹
５. 祖父母
６. 友人・知人
７. 会社の上司・同僚
８. 学校の先生
９. 医師
１０. 看護師・保健師
１１. 公的機関の職員等（a 身体障害者更生相談所　b 福祉事務所　c 市（区）役所　d 民生委員
e 身体障害者相談員）
- ① ②. 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の保健福祉相談窓口
１３. 障害者の団体（親、家族の会を含みます）
１４. 障害者相談支援センター（相談支援事業者を含む）※１
１５. 地域包括支援センター※２
１６. その他（
１７. 相談する人はいない

※１：障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※２：介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

②－４ その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

- | | |
|-----------------|---|
| ③ この１年間で困ったことが、 | １．増えた ２．減った
３．変わらない ４．困ったことはない |
|-----------------|---|

③－１ 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

③－２ 誰かに相談しましたか。（該当するもの全てに○を付けてください。）（複数回答可）
※選択肢 1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親（a 父親 b 母親） 2. 配偶者（a 夫 b 妻）
3. 子供（a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻）
4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等（a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市（区）役所 d 民生委員
e 身体障害者相談員）
12. 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体（親、家族の会を含みます）
14. 障害者相談支援センター（相談支援事業者を含む）※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他（ ）
17. 相談する人はいない

※1：障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2：介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く ↓

記入例

③－３ 解決策はありましたか。	①. 解決した 2. していない
③－４ 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。 身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで、解決できた	
③－５ していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	
④ 過去１年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を１つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④－１ その満足度の理由は何ですか。 外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを１つ選んで○を付けてください。 1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 ③. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他 具体的にお書きください：	
⑤－１ 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を１つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤－２ その理由は何ですか。 移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば、実現できると思う	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。 ・家で段差のあるところに目印をつけておく ・危ないので、軽い食器を使うようにしている	

次頁へ続く↓

記入例

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1.

コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学

2.

スポーツ教室、大会などへの参加

3.

旅行・キャンプ・つりなどの活動

4.

趣味の同好会活動

5.

ボランティアなどの社会活動

6.

障害者団体の活動

7.

地域活動

8.

パソコンを利用した社会活動

9.

友達との遊び

10.

その他（ スキューバダイビングなどのマリンスポーツ ）

11.

特にない

⑦ー1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可）

1. 新聞

2. テレビ

3. ラジオ

4. 一般図書

5. 雑誌

6. 録音・点字図書

7. 自治体広報

8. インターネット・情報サイト

9. 家族・友人

10. その他

(

)

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1.

健康被害を受けた本人

2.

本人の意向を聞いて介護者が記入

3.

本人の意向をくみとり介護者が記入

4.

介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる

次頁へ続く↓

—198—

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会活動
9. 友達との遊び
10. その他（ ）
11. 特にない

⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。(複数回答可)

1. 新聞
3. ラジオ
5. 雑誌
7. 自治体広報
9. 家族・友人
10. その他
2. テレビ
4. 一般図書
6. 録音・点字図書
8. インターネット・情報サイト
- (

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

次頁へ続く ↓

記入例

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1. 健康被害を受けた本人

2. 本人の意向を聞いて介護者が記入

3. 本人の意向をくみとり介護者が記入

4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。（該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。）（複数回答可）

1. 福祉サービス

2. 医療

3. 年金

4. 住まい

5. 就職

6. NPO活動など

7. 健康づくり

8. 趣味・娯楽

9. 相談・資産・運用

10. 学校教育・幼稚園・保育園

11. その他（

12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

治療に関する情報が知りたい

⑨ー1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1. 新聞

2. テレビ

3. ラジオ

4. 一般図書

5. 雑誌

6. 録音・点字図書

7. 自治体広報

8. インターネット・情報サイト

9. 家族・友人

10. その他（

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

- 1. 健康被害を受けた本人
- 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。（該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。）（複数回答可）

- 1. 福祉サービス
- 2. 医療
- 3. 年金
- 4. 住まい
- 5. 就職
- 6. NPO活動など
- 7. 健康づくり
- 8. 趣味・娯楽
- 9. 相談・資産・運用
- 10. 学校教育・幼稚園・保育園
- 11. その他（ ）
- 12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

⑨ー1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1. 新聞	2. テレビ
3. ラジオ	4. 一般図書
5. 雑誌	6. 録音・点字図書
7. 自治体広報	8. インターネット・情報サイト
9. 家族・友人	
10. その他（	）

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(ライ症候群等用)
第4・四半期分 (平成31年1月～平成31年3月)

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法
この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。
問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3 - 3 - 2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報

(ふりがな)

氏 名 性別 男 女

大正 昭和 平成

住宅所 (一)

[電話番号 () -]

[FAX番号 () -]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

[illegible]

3. 障害の種類・程度

級

級

記入例

1. 健康被害者情報

(ふりがな)

氏名 機構 太郎 (ふりがな) きこう たろう

性別 (男) 女

生年月日 昭和 30年00月00日

住宅所
(下100—)

東京都千代田区霞が関0-00-0

[電話番号] (00) 0000-0000

[FAX番号] (00) 0000-0000

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

害障力視

1級

級

生活狀況調查

A 厶

毎月記入

答えられる範囲で答え下さい。

(福祉サービス)

1月末日現在

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

①訪問介護	月に 日 (回)	満足 ①・・・②・・・③・・・④・・・⑤	やや満足 ②・・・③・・・④・・・⑤	やや不満 ③・・・④・・・⑤	不満 ④・・・⑤	利用していない ⑤
介護内容		上記の理由				
②訪問入浴介護	月に 日 (回)	満足 ①・・・②・・・③・・・④・・・⑤	やや満足 ②・・・③・・・④・・・⑤	やや不満 ③・・・④・・・⑤	不満 ④・・・⑤	利用していない ⑤
介護内容		上記の理由				
③訪問看護	月に 日 (回)	満足 ①・・・②・・・③・・・④・・・⑤	やや満足 ②・・・③・・・④・・・⑤	やや不満 ③・・・④・・・⑤	不満 ④・・・⑤	利用していない ⑤
看護内容		上記の理由				

④訪問リハビリ	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ・・・③・・・④	やや不満 ・・・③・・・④	不満 ・・・④	利用していない ⑤
リハビリ内容		上記の理由				
⑤居宅療養管理指導	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ・・・③・・・④	やや不満 ・・・③・・・④	不満 ・・・④	利用していない ⑤
指導内容		上記の理由				
⑥通所介護	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ・・・③・・・④	やや不満 ・・・③・・・④	不満 ・・・④	利用していない ⑤
介護内容		上記の理由				
⑦通所リハビリ	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ・・・③・・・④	やや不満 ・・・③・・・④	不満 ・・・④	利用していない ⑤
リハビリ内容		上記の理由				

⑧短期入所	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
入所内容 上記の理由						
1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 （ショートステイ） 3. その他						
[]						
⑨送迎サービス	月に 回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
サービス内容 上記の理由						
⑩上記以外の福祉サービス 月に 回 (サービス名)						
サービス名： サービス内容：						
上記の理由						

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月10日までの間に提出してください。

記入例

（ライオン会等利用）

生活状況調査票

月末日現在

記入欄

毎月記入

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
（複数回答可）

①訪問介護	月に 5日（回）	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
介護内容 1. 身体介護 2. 生活援助 3. 通院等 4. その他						
必要と感ぜているから						
[]						
②訪問入浴介護	月に 0日（回）	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
介護内容 必要と感ぜない						
[]						
③訪問看護	月に 0日（回）	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
看護内容 必要と感ぜない						
[]						

④訪問リハビリ

月に
0回

満足
①・・・②・・・③・・・④
⑤

やや満足
③・・・④

やや不満
③・・・④

不満
④

利用していない
⑤| リハビリ内容 施設のリハビリに通っている | | | | | | |
⑤居宅療養管理指導							月に 0回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
指導内容 必要と感ぜない												
[]												
⑥通所介護							月に 8回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
介護内容 入浴、食事介助 職員が親切である												
⑦通所リハビリ							月に 8回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
リハビリ内容 運動機能訓練 効果が現れない												
⑧訪問看護							月に 0回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
看護内容 必要と感ぜない												
[]												

⑧短期入所

月に
0回

満足
①・・・②・・・③・・・④
⑤

やや満足
③・・・④

やや不満
③・・・④

不満
④

利用していない
⑤| 入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 3. その他 | | | | | | |
適切な施設がない											
[]											
⑨送迎サービス	月に 8回	満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤					
サービス内容 施設への送迎 月に利用できる回数を増やしてほしい											
⑩上記以外の福祉サービス 月に 0回							満足 ①・・・②・・・③・・・④ ⑤	やや満足 ③・・・④	やや不満 ③・・・④	不満 ④	利用していない ⑤
サービス名 サービス内容											
どのようなサービスがあるかわからない											
[]											

- 205 -

- 3 -

- 4 -

生活状況調査票

B票

4 半期毎記入

IV期	1 月～3 月分	平成31 年3 月末日現在
-----	----------	---------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。 (いずれか1 つに○を付けてください。)				
1. 健康被害を受けた本人				
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入				
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入				
4. 介護者が回答				
◎① 健康被害者が過去3 ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1 つに○を付けて下さい。)				
(外出には通園・通学を含みます。以下の質問も同じ。)				
1. ほぼ毎日	2. 週に4 から5 回	3. 週に2 から3 回	4. 月に2 から3 回	
5. まったく外出していない				
◎①－1 外出された方にお聞きます。				
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)				
1. 介助なし	2. 配偶者	3. 親	4. 子供	5. その他の家族
6. 親戚	7. ホームヘルパー	8. 隣人・知人	9. 雇人	
1 10. ボランティア	1 11. その他 (			
◎② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありませんか。				
1. ない				
2. ある				
◎②－1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きます。				
困ること又は不満に思うことは何ですか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)				
1. 介助者がいない				
2. 経費がかかる				
3. 人の目がかかる				
4. 人と話をするのが困難				
5. 外出に必要な情報が得られない				
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便				
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便				
8. 利用する建物の設備 (階段、トイレ、エレベーター等) の利用が不便				
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる				
1 10. 駅などにおける人間関係のトラブル				
1 11. その他 (				

◎②－2 外出するうえで工夫したことは何ですか。				
◎③ 健康被害者が過去3 ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加 (活動) などをしたか。				
1. まったくしていない				
2. 参加 (活動) した				
◎③－1 参加 (活動) した方にお聞きます。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)				
1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学				
2. スポーツ教室、大会などへの参加				
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動				
4. 趣味の同好会活動				
5. ボランティアなどの社会活動				
6. 障害者団体の活動				
7. 地域活動				
8. パソコンを利用した社会参加				
9. 友達との遊び				
1 10. その他 (				
◎④ 屋内での生活で工夫したことがありますか。				

次頁に続く↓

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月10日までの間に提出してください。

記入例

(ワイ生録評等用)

生活状況調査票

住所

〒1110000東京都千代田区千代田1-1-1

期

月～月分

年

平成

年

月

日

現在

答えられる範囲で回答してください。

①以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いづれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人

2. 本人の意向を聞いて介護者を記入

3. 本人の意向をくみとり介護者が記入

4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いづれか1つに○を付けて下さい。)

1. はい毎日

2. 週に4から5回

3. 週に2から3回

4. 月に2から3回

5. まったく外出していない

①-1 外出された方に介護者があります。

主に誰の介護を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介護なし

2. 配偶者

3. 親

4. 子供

5. その他の家族

6. 親戚

7. ボランティア

8. 隣人

9. 知人

10. ボランティア

11. その他()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない

2. ある

②-1 困ることや不満に思うことお答え下さい。お答えいただいた方にお聞きします。
(困ること又は不満に思うことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。))

1. 介護者がいない

2. 検査が分かる

3. 人の目が気にかかる

4. 外出に必要金銭が足りない

5. 外出に必要な金銭が足りない

6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便

7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便

8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便

9. 人の視線や前に身が邪魔を感じる

10. 車に上り下りする際の足腰を痛める

11. その他()

-1-

(主たる介護者の状況)

①以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いづれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者

2. 主として介護をしている親

3. 主として介護をしている兄弟姉妹

4. その他()

② お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状態に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

1. 全く健康

2. 少し健康

3. 健康

4. 健康

5. 健康

6. 健康

7. 健康

8. 健康

9. 健康

10. 健康

11. 健康

12. 健康

13. 健康

14. 健康

15. 健康

16. 健康

17. 健康

③ 介護に必要なお金

④ 介護に必要なお金

⑤ 介護に必要なお金

⑥ 介護に必要なお金

⑦ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑧ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑨ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑩ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑪ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑫ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑬ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑭ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑮ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑯ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑰ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑱ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑲ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

⑳ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉑ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉒ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉓ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉔ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉕ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉖ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉗ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉘ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉙ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉚ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉛ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉜ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉝ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉞ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㉟ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊱ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊲ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊳ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊴ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊵ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊶ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊷ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊸ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊹ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊺ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊻ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊼ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊽ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊾ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

㊿ この1年間に介護をしていく中で、困ったこと

-3-

②-2 外出するうえで工夫したことは何ですか。
・自立した生活
・あらかじめ目的までの交通機関を調べておいた

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に介護活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。
1. まったくしていない
2. 参加(活動)した

④-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学

2. スポーツ教室、大会などへの参加

3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動

4. 趣味の同好会活動

5. 地域の同好会活動

6. 家族や友人などの社会活動

7. 地域活動

8. パソコンを利用した社会参加

9. 友達との遊び

10. その他()

④ 趣味や生活で工夫したことがありましたらお書きください。
・食料などの調理器具を借りて調理
・服はすべて自分で着る

⑤ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等)

⑥-1 それは具体的にどのようなものですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等)

⑨-1 それは具体的にどのようなものですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑩ 介護者が過去3ヶ月間に介護活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。
1. まったくしていない
2. 参加(活動)した

⑪-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学

2. スポーツ教室、大会などへの参加

3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動

4. 趣味の同好会活動

5. ボランティアなどの社会活動

6. 家族や友人などの社会活動

7. 地域活動

8. パソコンを利用した社会参加

9. 友達との遊び

10. その他()

⑪-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑫-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

-2-

②-3 解決策はありませんか。
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。
・食料などの調理器具を借りて調理
・服はすべて自分で着る

④-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑤ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等)

⑥-1 それは具体的にどのようなものですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等)

⑨-1 それは具体的にどのようなものですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑩ 介護者が過去3ヶ月間に介護活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。
1. まったくしていない
2. 参加(活動)した

⑪-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学

2. スポーツ教室、大会などへの参加

3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動

4. 趣味の同好会活動

5. ボランティアなどの社会活動

6. 家族や友人などの社会活動

7. 地域活動

8. パソコンを利用した社会参加

9. 友達との遊び

10. その他()

⑪-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

⑫-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。
・趣味の同好会活動や介護活動の参加など

-4-

- 5 -

- 208 -

生活状況調査票

C票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。
(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）	
1. 健康被害を受けた本人	
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入	
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入	
4. 介護者が回答	
① 健康被害を受けた方の治療状況	① 入院中 (いつから入院していますか： から) ② 通院中 (往診含む) (月に 回)
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。	
②－1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○を付けてください。 1. 事前に交通機関（時刻や乗り換え）やルートを確認しておく 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する（一人では外出しない） 3. 家族などによる送迎（公共交通機関の利用を避ける） 4. 介護タクシーの利用 5. その他	
【具体的にお書きください：	
②－2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○を付けてください。 1. 既往歴を告げる 2. お薬手帳を持参 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている 4. その他	
【具体的にお書きください：	
②－3 その他注意している点	

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）	
1. 健康被害を受けた本人	
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入	
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入	
4. 介護者が回答	
③ この1年間で困ったことが、	1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない 4. 困ったことはない
③－1 困ったことがあった方にお聞きます。それはどんなことですか。	
③－2 誰かに相談しましたか。（該当するもの全てに○を付けてください。）（複数回答可） ※選択肢 1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の7桁アバットに○を付けてください。	
1. 親（a 父親 b 母親） 2. 配偶者（a 夫 b 妻） 3. 子供（a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻） 4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚 8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師 11. 公的機関の職員等（a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市（区）役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員） 12. 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の保健福祉相談窓口 13. 障害者の団体（親、家族の会を含みます） 14. 障害者相談支援センター（相談支援事業者を含む）※1 15. 地域包括支援センター※2 16. その他（ 17. 相談する人はいない	
※1：障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。	
※2：介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。	
③－3 解決策がありましたか。	1. 解決した 2. していない
③－4 解決したと答えた方にお聞きます。それはどのような方法で解決しましたか。	
③－5 していないと答えた方にお聞きます。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	

次頁へ続く↓

④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④ー1 その満足度の理由は何ですか。	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。 1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他 具体的な書きください：	
⑤ー1 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤ー2 その理由は何ですか。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。	
⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可） 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会活動 9. 友達との遊び 10. その他（ 11. 特にない	
⑦ー1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可） 1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他（	

(福祉サービス)	
◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。） 1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。	
(必要な情報)	
◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。） 1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。（該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。）（複数回答可） 1. 福祉サービス 2. 医療 3. 年金 4. 住まい 5. 就職 6. NPO活動など 7. 健康づくり 8. 趣味・娯楽 9. 相談・資産・運用 10. 学校教育・幼稚園・保育園 11. その他（ 12. 特にない ◎具体的に知りたいこと。	
⑨ー1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可） 1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他（	

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月10日までの間に提出してください。

記入例

[illegible]

VII 健康状態報告書(診断書様式)

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

(測定日： 年 月 日)

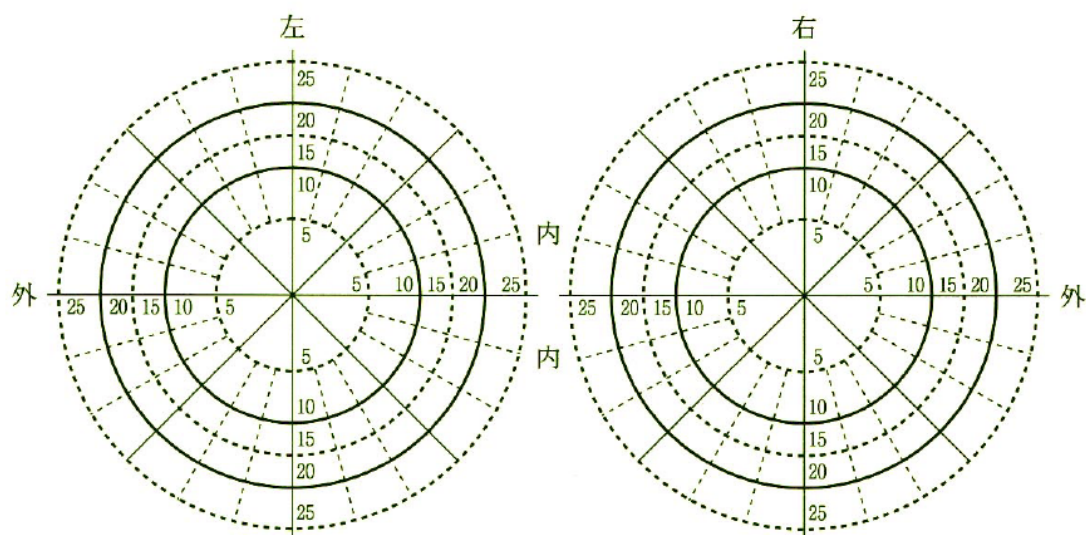
① 視 力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)

	裸 眼	矯 正	矯正眼鏡
右 眼			D
左 眼			D

② 所 見 (必要なときは適宜図示してください。)

前 眼 部 所 見	中 間 透 光 体 所 見	眼 底 所 見
右	右	右
左	左	左

③ 視 野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)



④ Q O L（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQ O L改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

平成 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医 師 氏 名

印

所 在 地 〒

電 話 番 号

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能：自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ウ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

●食事	ひとりでできる・介助があればできる・経管栄養等
●用便（月経）の始末	ひとりでできる・介助があればできる・オムツ
●入浴・洗面・衣服の着脱	ひとりでできる・介助があればできる
●簡単な買物	ひとりでできる・介助があればできる・できない
●家族との話	通じる・少しは通じる・通じない
●家族以外の者との話	通じる・少しは通じる・通じない
●刃物・火等の危険	わかる・少しはわかる・わからない
●戸外での危険（交通事故等）から身を守る	守れる・不十分ながら守れる・守れない
●その他（	）

		平成	年	月	日
病院又は診療所の名称		診療担当科名			印
		医 師 氏 名			
所 在 地		〒			
電 話 番 号					